奈良市埋蔵文化財調査概要報告書

平成16年度

2007

奈良市教育委員会

奈良市埋蔵文化財調査概要報告書　平成16年度　正誤表

P.42　遺構平面図中の遺構番号

誤	正
ＳＤ01	ＳＤ02
ＳＤ02	ＳＤ03
ＳＡ03	ＳＡ04
ＳＡ04	ＳＡ05
ＳＡ05	ＳＡ06
ＳＢ06	ＳＢ07
ＳＥ07	ＳＥ08
ＳＥ08	ＳＥ09
ＳＥ09	ＳＥ10
ＳＥ10	ＳＥ11
ＳＥ11	ＳＥ12
ＳＫ12	ＳＫ13
ＳＫ13	ＳＫ14
ＳＫ14	ＳＫ05
ＳＫ15	ＳＫ16
ＳＸ16	ＳＸ01

P.43　写真キャプション

誤	正
溝ＳＤ01	溝ＳＤ02
溝ＳＤ02	溝ＳＤ03

奈良市埋蔵文化財調査概要報告書

平成16年度

2007

奈良市教育委員会

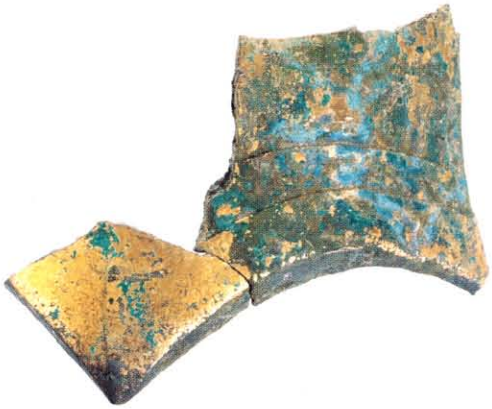
口絵１　西塔基壇東階段　史跡大安寺旧境内第 105 次調査（本文 33 ～ 34 頁）

中央の基壇断ち割りのように見えるのが溝状土坑 SX09、階段延石前の土坑が SK05。
右上隅の石が心礎、石が多量に入る窪みが礎石抜取痕跡である。

口絵２　基壇東辺版築状態
史跡大安寺旧境内第 105 次調査（本文 33 ～ 34 頁）

西塔基壇は丁寧な版築によって造られている。版築の構造は大きく 3 層に分けられ、上部は明黄色土と暗紫色砂質土の互層で比較的軟らかく、中部は黄色粘土と暗紫褐色土の互層で硬く締まる。両者の境には付近の地山土を用いた礫混じり粘土が挟まれる。下部は基底面下へ続く灰褐色～褐色シルトの互層で非常に硬い。

写真は中部付近で、黄色い帯状の層の厚さが 1 ～ 2 ㎝。



口絵３　風鐸片
史跡大安寺旧境内第 105 次調査（本文 33 ～ 34 頁）

これまで西塔跡では 2 個体の風鐸が出土しているが、今回出土した風鐸片（縦 15.1 ㎝、横 19.7 ㎝、厚さ 5 ～ 7 ㎜）はそれらと異なるタイプである。直径は 25 ㎝をこえると推定され、これまでのものより倍近く大型である。また縁に沿って二重に弧が鋳出されており、おそらく全体的には梵鐘のような袈裟襷状の区画が造形されていたものと考えられる。

口絵４　鴟尾　鰭部　西大寺旧境内第 19 次調査（本文６～８頁）

口絵５　鴟尾　頭部　西大寺旧境内第 19 次調査（本文６～８頁）

西大寺の寺地から出土した瓦製鴟尾の鰭部（口絵 4）と頭部（口絵 5）である。鰭部は縦 13.6cm、横 19.2cm、厚さ５～６cm の断片で、頭部前面からみて左下隅部分に当たる。表裏面には鰭を表現した１cm 弱の段差がある。頭部は縦 25.6cm、横 35.2cm、厚さ７～９cm の断片で、前面左半から側面にかかる部分に当たる。側面下部には横方向の突帯１本とその下に珠紋の痕跡が、側面前端部には縦方向の突帯２本が確認できる。両者は胎土や色調も似るが、同一個体であるか否かの特定はできなかった。鰭部は平安時代初頭の井戸 SE501 枠内から、頭部は室町時代の土坑 SK613 から出土した。

口絵６　漆紙文書　平城京跡第 513 次調査（本文９～ 10 頁）

井戸 SE507 から出土した漆紙文書。「オモテ面」には、大衍暦による宝亀９（778）年５月 29 日～６月７日までの具注暦が記されている。大衍暦によるものとしては最古の例である。

口絵７　角柱　西隆寺跡第８次調査（本文 44 ～ 45 頁）

古墳時代のものと思われる掘立柱建物 SB21 の柱で、ヒノキ製である。従来、家形埴輪の角柱は円柱の簡略化表現とされてきたが、今回の調査で角柱の実在を確認することができた。当時の建物構造を考える上で重要な資料である。

はじめに

奈良市は世界遺産「古都奈良の文化財」をはじめ、種々の文化財が数多くあり、日本の歴史を直に体感できるすばらしいところです。また、私たちの足下には、様々な情報を秘めた遺跡が今でも眠っています。こうした文化財は国民の財産であり、これらを研究し歴史を解明することは、我々の未来を築く際の教訓にもなるものです。

奈良市教育委員会で実施した発掘調査には、遺跡の保存整備のための調査と、開発に伴う事前調査があります。後者については、全国的に件数が減少している中、本市では引き続いて多数実施され、新たな知見が蓄積されております。これらの発掘調査成果を歴史研究に反映させると同時に、一般に広く公開し、市民の皆様に埋蔵文化財について、より深く知っていただけますよう、努めていきたいと考えております。

本書は、平成16年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の成果の概要をまとめたものです。奈良市域における埋蔵文化財の理解と、研究の一助としてご活用いただければ幸いです。

最後に、発掘調査にご理解とご協力をいただきました関係者や市民の方々、ならびに本書の作成にあたってご指導・ご協力をいただきました関係諸機関に厚く御礼申し上げます。

平成19年３月

奈良市教育委員会
教育長　中尾　勝二

例　　言

1．本書は、平成16年度に奈良市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の概要をまとめたものである。

2．平成16年度～平成18年度の調査体制については下記のとおりである。なお、各調査の現場担当者は発掘調査一覧表および各調査概要の冒頭に示した。

平成16～17年度

社会教育部	文化財課	課　長	福井　進	主　幹　谷村　勝
		課長補佐	森下恵介	
埋蔵文化財調査センター		所　長	高谷明男（～16年度）、川本恭久（17年度～）	
	庶務係	係　長	北尾秀一	事務吏員　山形和宏
	調査第一係	係　長	立石堅志	
		技術吏員	鐘方正樹、秋山成人、安井宣也、松浦五輪美、宮﨑正裕、久保清子、山前智敬、大窪淳司	
	調査第二係	係　長	三好美穂	
		技術吏員	森下浩行、武田和哉、中島和彦、久保邦江、池田裕英、原田香織	
		再任用職員	森川倫秀	

平成18年度

社会教育部	文化財課	課　長	池田みどり	課長補佐　森下恵介
埋蔵文化財調査センター		所　長	川本恭久	
	庶務係	係　長	藤井雄二	事務吏員　山形和宏
	調査第一係	係　長	森下浩行	
		技術吏員	鐘方正樹、秋山成人、松浦五輪美、宮﨑正裕、久保清子、原田憲二郎、山前智敬、大窪淳司	
	調査第二係	係　長	三好美穂	
		技術吏員	安井宣也、武田和哉、中島和彦、久保邦江、池田裕英、原田香織	

3．発掘調査と本書の作成については、奈良文化財研究所、奈良県教育委員会、奈良市文化財保護審議会等関係諸機関からご指導とご教示を賜った。また、土地所有者等からの多大なご協力いただいた。記して感謝いたします。

4．各発掘調査の次数は、奈良市教育委員会が実施した調査に付した遺跡ごとの通算次数である。
遺跡の略号は以下のとおりである。

ＨＪ－平城京跡　ＤＡ－大安寺旧境内　ＧＧ－元興寺旧境内　ＳＤ－西大寺旧境内
ＳＲ－西隆寺跡　ＴＩ－平城京東市跡推定地　ＮＲ－奈良町遺跡　ＫＮ－コナベ古墳
ＨＫ－東紀寺遺跡　ＦＳ－古市遺跡　ＵＡ－歌姫赤井谷横穴墓群　ＢＴ－別所辻堂遺跡
ＢＳ－別所下ノ前遺跡

5．古墳時代以前の遺跡については、仮に大字名を付して遺跡名としたものもある。

6．本書で使用した遺構等の番号は一部を除いて調査ごとに付した仮番号である。遺構等の番号の前には、その種類に応じて以下の記号を付した。

ＳＡ（塀・柱列）　ＳＢ（掘立柱建物）　ＳＤ（溝・濠・溝状遺構・暗渠）　ＳＥ（井戸）

ＳＦ（道路）　ＳＫ（土坑）　ＳＸ（その他）

また、遺構の大きさの表記は、すべて遺構検出面での計測値である。

7．本文中に引用した過去の調査の実施機関名については、調査次数の前に以下の略号を付した。

国－奈良（国立）文化財研究所、県－奈良県教育委員会、市－奈良市教育委員会

8．本書で使用した遺物名称・形式・型式は、一部を除いて以下の刊行物に準拠した。

奈良時代　軒瓦：『平城京・藤原京出土軒瓦型式一覧』奈良市教育委員会　1996

土器：『平城宮発掘調査報告書Ⅺ』奈良国立文化財研究所　1982

漆紙文書：『奈良文化財研究所史料第69冊　平城京漆紙文書一』奈良文化財研究所　2005

古墳時代　須恵器：田辺昭三『須恵器大成』角川書店　1981

埴輪：川西宏幸「円筒埴輪総論」『古墳時代政治史序説』塙書房　1988

弥生時代　土器：寺澤　薫・森岡秀人編『弥生土器の様式と編年』近畿編Ⅰ　木耳社　1991

9．発掘区位置図については、奈良市発行の1/2,500大和都市計画図を、調査位置図については、国土地理院発行の1/25,000地形図を使用した。

10．本文中、図中に示した位置の表示は、法改正（2002年4月）前の平面直角座標系Ⅳによる。

11．本書の作成は、埋蔵文化財調査センター職員と文化財課記念物係職員が分担して行った。文責は、各調査担当者であるが、特に記載の必要がある場合は文末に記した。

12．本書の編集は、三好美穂、原田香織が担当した。

本　文　目　次

Ⅰ　調査概要

1．三条遺跡・平城京跡（左京四条五坊五・六坪）の調査　第512－1・2次 …… 1
2．西大寺旧境内の調査　第18・19次／平城京跡の調査　第513次 …… 5
（1）西大寺旧境内の調査　第18次
（2）西大寺旧境内の調査　第19次
（3）平城京跡（右京二条三坊一坪）の調査　第513次
3．平城京跡（右京八条四坊八坪）の調査　第514次 …… 11
4．油坂遺跡・平城京跡（左京三条東四坊大路）の調査　第515次 …… 12
5．平城京跡（左京一条三坊十五坪）の調査　第516次 …… 14
6．平城京跡（右京三条四坊九坪・二条大路）の調査　第517・524次 …… 15
7．平城京跡（左京六条一坊十三坪）の調査　第518次 …… 19
8．平城京跡（左京六条二坊四坪）の調査　第519次 …… 21
9．法華寺垣内古墳・平城京跡（左京一条三坊四・五坪）の調査　第520次 …… 22
10．平城京跡（右京一条二坊三坪）の調査　第521次 …… 25
11．平城京跡（左京四条三坊十五坪）の調査　第522次 …… 26
12．平城京跡（左京六条東一坊大路）の調査　第523次 …… 27
13．平城京跡（左京五条五坊十坪）の調査　第525次 …… 28
14．平城京跡（左京六条三坊十二坪）の調査　第526次 …… 29
15．平城京跡（右京七条西二坊大路）の調査　第527次 …… 30
16．平城京跡（左京三条四坊四坪）の調査　第528次 …… 31
17．史跡大安寺旧境内（西塔跡）の調査　第105次 …… 33
18．史跡大安寺旧境内（西面・南面築地塀推定地）の調査　第106次 …… 35
19．史跡大安寺旧境内（賤院推定地）の調査　第107次 …… 37
20．史跡大安寺旧境内（花園院推定地）の調査　第108次　38
21．史跡大安寺旧境内（食堂并大衆院推定地）の調査　第109次 …… 39
22．元興寺旧境内（金堂推定地）の調査　第59次 …… 40
23．元興寺旧境内（南面築地塀推定地）の調査　第60次 …… 41
24．西大寺旧境内（弥勒金堂院推定地）の調査　第17次 …… 42
25．西大寺東遺跡・西隆寺跡の調査　第８次 …… 44
26．コナベ古墳の調査　第５次 …… 46
27．東紀寺遺跡の調査　第７次 …… 47
28．東紀寺遺跡の調査　第８次 …… 48
29．古市遺跡の調査　第７次 …… 49

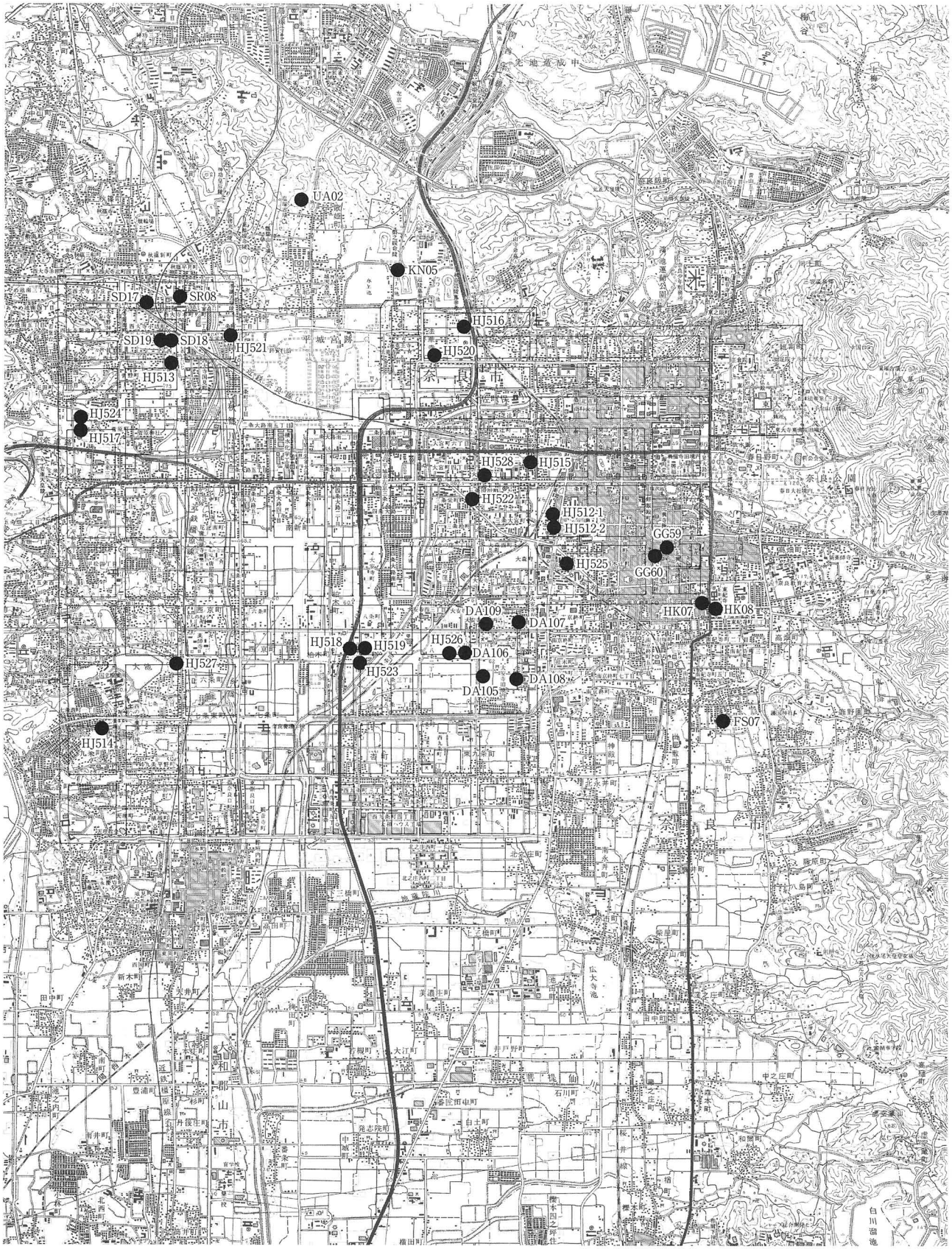
Ⅱ　自然化学分析

1．法華寺垣内古墳（平城京跡第520次調査）における自然化学分析 …… 53
2．東紀寺遺跡第６次調査における河川01出土木製品の樹種同定 …… 60
3．東紀寺遺跡第６次調査出土の須恵器瑤内容物に関する分析調査 …… 64

平成16年度　埋蔵文化財発掘調査一覧

番号	調査次数	遺　跡　名	調　査　地	調査期間	調査面積	担当者	事業者	事業名	事業区分	届出番号
1	ＨＪ512-1	平城京左京四条五坊六坪／三条遺跡	三条本町334－2他	2004.05.06 ～ 2004.06.25	304.0 ㎡	安井	奈良市長	JR奈良駅周辺地区土地区画整理通常事業	公共	S63.3055
2	ＨＪ512-2	平城京左京四条五坊五・六坪／三条遺跡	三条本町327－1他	2004.05.07 ～ 2004.08.31	1,026.0 ㎡	安井	奈良市長	JR奈良駅周辺地区土地区画整理通常事業	公共	S63.3055
3	ＨＪ513	平城京右京二条三坊一坪	西大寺南町694番地他	2004.05.11 ～ 2004.06.29	430.0 ㎡	宮崎・山前	奈良市長	西大寺駅南地区土地区画整理地方特定道路整備事業	公共	S63.3056
4	ＨＪ514	平城京右京八条四坊八坪	七条西町一丁目1057の一部他	2004.05.06 ～ 2004.05.28	200.0 ㎡	秋山	㈱ベース	宅地造成	原因者	H15.3304
5	ＨＪ515	平城京東四坊大路／油坂遺跡	大宮町二丁目124－3他	2004.07.20 ～ 2004.09.07	239.0 ㎡	秋山	奈良市長	芝辻大森線街路整備補助事業	公共	H10.3091
6	ＨＪ516	平城京左京一条三坊十五坪	法華寺町1416番1	2004.07.12 ～ 2004.07.13	37.0 ㎡	三好	(有) コクセイ	グループホーム新築	原因者	H16.3018
7	ＨＪ517	平城京右京三条四坊九坪	菅原町639－2他	2004.07.26 ～ 2004.12.28	1,100.0 ㎡	久保清・山前	奈良市長	大和中央道街路整備臨時交付金事業（菅原工区）	公共	H16.3088
8	ＨＪ518	平城京左京六条一坊十三坪	八条五丁目412－4地	2004.08.23 ～ 2004.10.28	900.0 ㎡	武田	奈良トヨタ自動車㈱	店舗新築	原因者	H16.3007
9	ＨＪ519	平城京左京六条二坊四坪	八条五丁目418－1の一部	2004.08.26 ～ 2004.08.28	59.5 ㎡	三好・宮崎	(有) シービーコーポレーション	宅地造成	原因者	H16.3100
10	ＨＪ520	平城京左京一条三坊四・五坪／法華寺垣内古墳	法華寺町1241－1他	2004.09.21 ～ 2004.12.09	535.0 ㎡	池田裕・武田・久保邦	和光建設㈱	宅地造成	原因者	H16.3048
11	ＨＪ521	平城京右京一条二坊三坪	二条町二丁目60－1	2004.10.15 ～ 2004.11.01	120.0 ㎡	久保邦	個人	店舗付マンション	原因者	H16.3170
12	ＨＪ522	平城京左京四条三坊十五坪	三条添川町203－4他	2004.11.22 ～ 2004.12.07	120.0 ㎡	久保邦	個人	共同住宅新築	原因者	H16.3144
13	ＨＪ523	平城京左京六条東一坊大路	八条五丁目437－12他	2004.12.20 ～ 2004.12.21	71.8 ㎡	三好	(有) ウエムラ	宅地造成	原因者	H16.3200
14	ＨＪ524	平城京右京三条四坊九坪・二条大路	菅原町639－2他	2005.01.06 ～ 2005.03.11	458.0 ㎡	久保清・山前	奈良市長	大和中央道街路整備臨時交付金事業（菅原工区）	公共	H16.3088
15	ＨＪ525	平城京左京五条五坊十坪	西木辻町43番地の1	2005.01.26 ～ 2005.03.02	200.0 ㎡	鐘方	奈良市長	東消防署建設事業	公共	H16.3027
16	ＨＪ526	平城京左京六条三坊十二坪	大安寺二丁目45他	2005.02.07 ～ 2005.02.15	80.0 ㎡	宮崎	㈱ファーストホーム	宅地造成	原因者	H16.3286
17	ＨＪ527	平城京西二坊大路	六条一丁目453－1の一部	2005.02.14 ～ 2005.02.23	20.0 ㎡	秋山	奈良市長	道路新設工事西ノ京六条線	公共	H16.3365
18	ＨＪ528	平城京左京三条四坊四坪	大宮町三丁目192番2他	2005.02.14 ～ 2005.03.31	273.0 ㎡	久保邦・武田	㈱大和システムマンション事業部大阪支店	マンション新築	原因者	H16.3277
19	ＤＡ105	史跡大安寺旧境内（西塔）	東九条町1340他	2004.06.28 ～ 2004.12.24	500.0 ㎡	松浦	奈良市長	史跡大安寺旧境内保存整備事業	公共	H16.1003
20	ＤＡ106	史跡大安寺旧境内	大安寺町1320他	2004.06.28 ～ 2004.07.30	102.0 ㎡	池田裕	奈良市教育委員会教育長	遺跡範囲確認	緊急	H16.1083
21	ＤＡ107	史跡大安寺旧境内	大安寺五丁目967番5	2004.07.01 ～ 2004.07.08	15.0 ㎡	久保邦	個人	個人住宅新築	緊急	H16.1001
22	ＤＡ108	史跡大安寺旧境内	東九条町1381	2005.02.03 ～ 2005.02.15	21.0 ㎡	松浦	個人	農業用倉庫建設	緊急	H16.1045
23	ＤＡ109	史跡大安寺旧境内	大安寺四丁目1055番	2005.02.14 ～ 2005.02.22	17.0 ㎡	安井	個人	個人住宅新築	緊急	H16.1005
24	ＧＧ59	元興寺旧境内	芝新屋町23－2他	2004.06.01 ～ 2004.06.08	11.1 ㎡	池田裕	個人	個人住宅新築	緊急	H16.3020
25	ＧＧ60	元興寺旧境内	鳴川町11－5	2005.01.04 ～ 2005.01.14	18.0 ㎡	久保邦	個人	個人住宅新築	緊急	H16.3241
26	ＳＤ17	西大寺旧境内	西大寺北町一丁目370－6他	2004.04.19 ～ 2004.05.29	252.0 ㎡	久保邦	個人	マンション新築	原因者	H15.3307
27	ＳＤ18	西大寺旧境内	西大寺南町2419番地他	2004.05.24 ～ 2004.07.22	490.0 ㎡	宮崎・山前	奈良市長	西大寺駅南地区土地区画整理地方特定道路整備事業	公共	S63.3056
28	ＳＤ19	西大寺旧境内	西大寺南町2430－1番地他	2004.09.21 ～ 2005.01.20	1,000.0 ㎡	宮崎	奈良市長	西大寺駅南地区土地区画整理通常事業	公共	S63.3056
29	ＳＲ8	西隆寺跡／西大寺東遺跡	西大寺東町一丁目70－4他	2005.01.27 ～ 2005.02.28	187.0 ㎡	大窪	奈良市長	西大寺近隣公園整備事業	公共	H16.3323
30	ＫＮ5	コナベ古墳	法華寺町1805－1他	2004.11.24 ～ 2004.12.22	313.0 ㎡	秋山	奈良市長	市道北部第529号線道路改良工事	公共	H16.3055
31	ＨＫ7	東紀寺遺跡	紀寺町556－1他	2004.08.23 ～ 2004.10.07	360.0 ㎡	久保邦	社会福祉法人サンライフ	特別養護老人ホーム新築	原因者	H15.3336
32	ＨＫ8	東紀寺遺跡	東紀寺町一丁目703－5	2005.03.07 ～ 2005.03.25	255.0 ㎡	池田裕	社団法人地域医療振興協会市立奈良病院	病院職員宿舎新築	原因者	H16.3252
33	ＦＳ7	古市遺跡	古市町1199－1	2004.08.10 ～ 2004.09.02	216.0 ㎡	池田裕	個人	共同住宅新築	原因者	H16.3049
34	ＵＡ2	歌姫赤井谷横穴	歌姫町986－2	2005.02.01 ～ 2005.03.03	28.0 ㎡	池田裕	奈良市教育委員会教育長	遺跡範囲確認	緊急	
35	ＢＴ3	別所辻堂遺跡	別所町392他	2004.05.11 ～ 2004.08.30	2,100.0 ㎡	鐘方・大窪	奈良県知事	県営ほ場整備事業（田原東地区）	原因者	H13.3153
36	ＢＳ3	別所下ノ前遺跡	別所町480他	2004.11.12 ～ 2005.01.07	1,090.0 ㎡	鐘方・大窪	奈良県知事			
37	試掘04－15	水間町内遺物散布地	水間町1182他	2004.09.21 ～ 2004.11.05	766.0 ㎡	鐘方・大窪	奈良県知事			

※34については、『埋蔵文化財調査年報－平成17年度－』にて報告。
35～37については、『県営圃場整備事業田原東地区における埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅱ―別所下ノ前・辻堂・大谷口遺跡　水間遺跡―』奈良市教育委員会　2007にて報告。

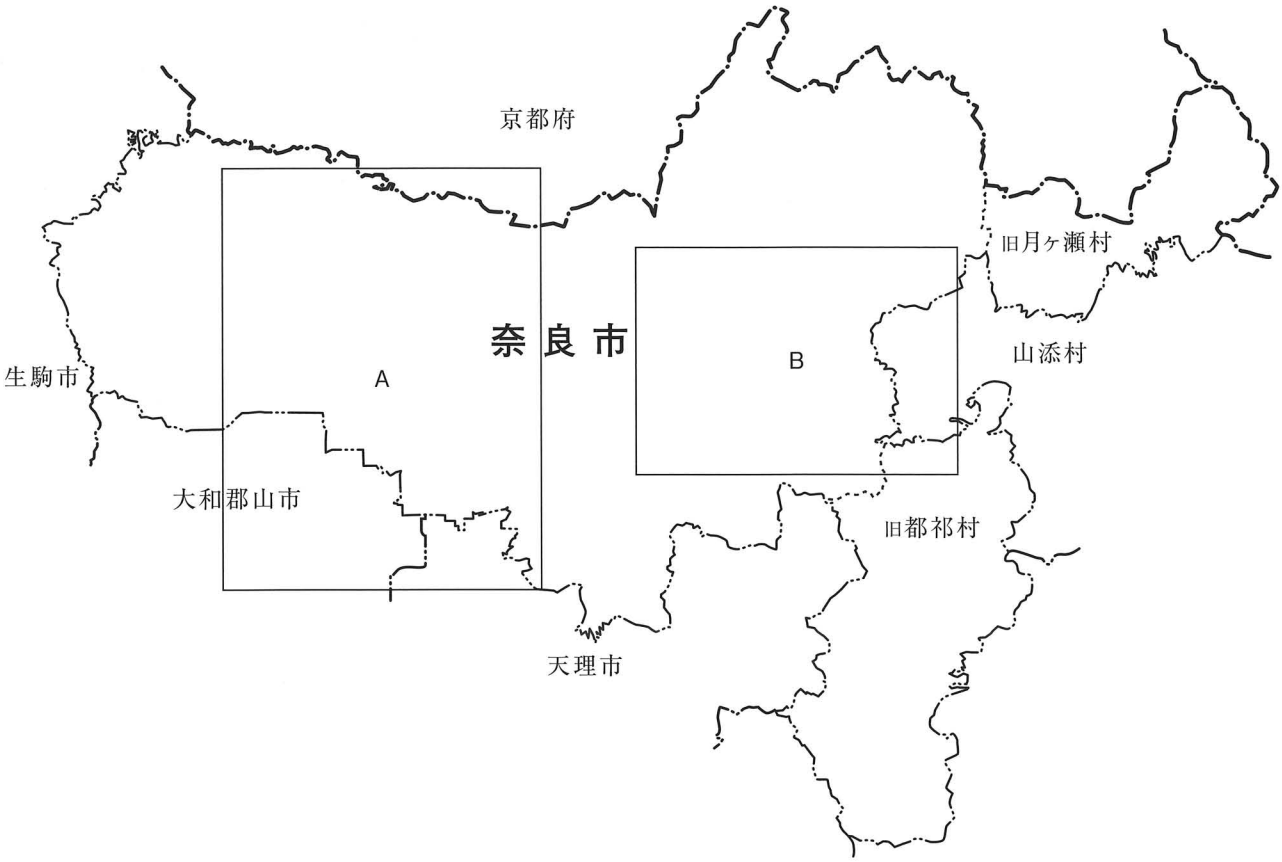


平成16年度　発掘調査位置図A　1/50,000

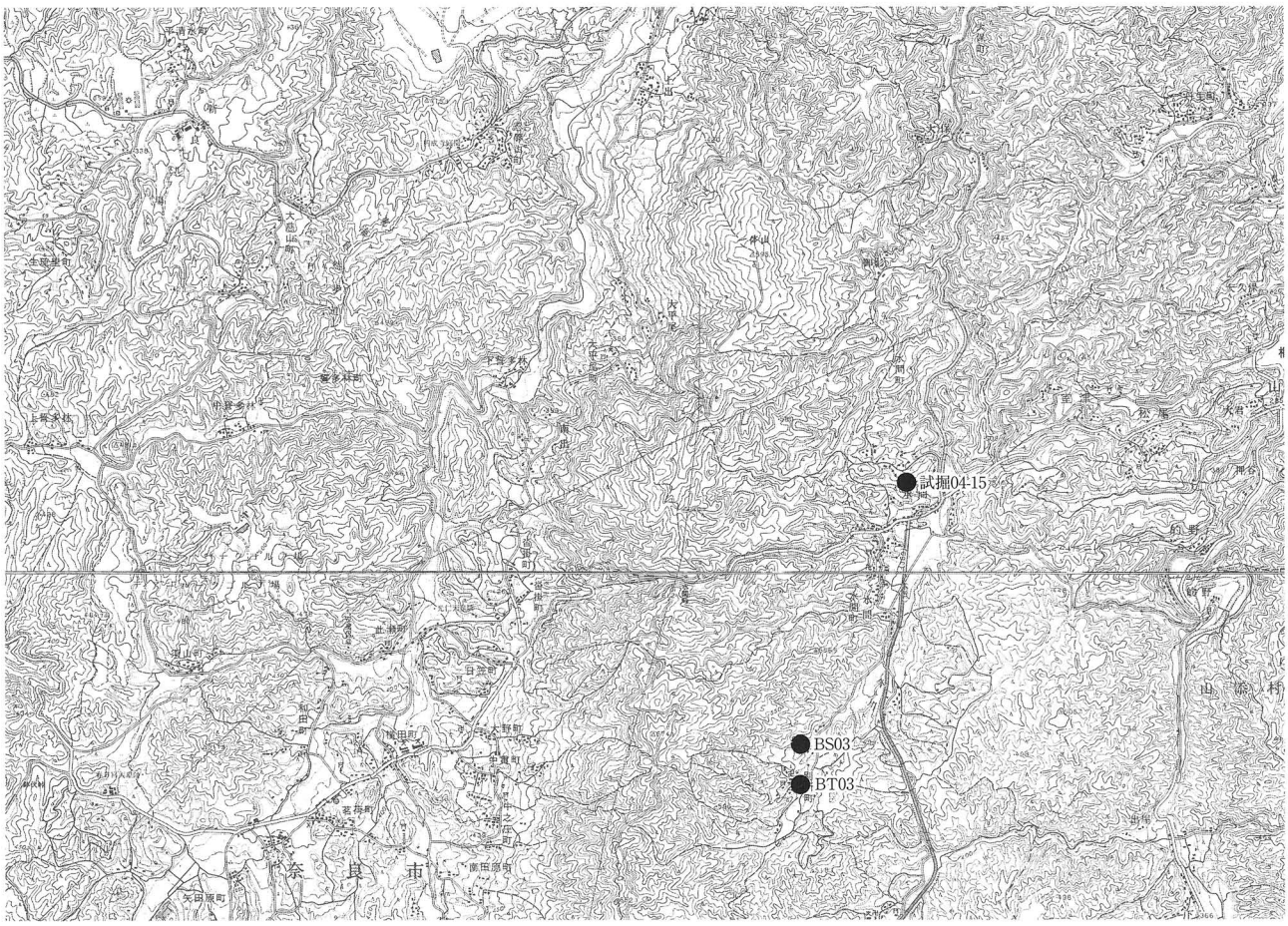
平成16年度　埋蔵文化財発掘調査一覧

番号	調査次数	遺　跡　名	調　査　地	調査期間	調査面積	担当者	事業者	事業名	事業区分	届出番号
1	ＨＪ512-1	平城京左京四条五坊六坪／三条遺跡	三条本町334－2他	2004.05.06 ～ 2004.06.25	304.0 ㎡	安井	奈良市長	JR 奈良駅周辺地区土地区画整理通常事業	公共	S63.3055
2	ＨＪ512-2	平城京左京四条五坊五・六坪／三条遺跡	三条本町327－1他	2004.05.07 ～ 2004.08.31	1,026.0 ㎡	安井	奈良市長	JR 奈良駅周辺地区土地区画整理通常事業	公共	S63.3055
3	ＨＪ513	平城京右京二条三坊一坪	西大寺南町694番地他	2004.05.11 ～ 2004.06.29	430.0 ㎡	宮崎・山前	奈良市長	西大寺駅南地区土地区画整理地方特定道路整備事業	公共	S63.3056
4	ＨＪ514	平城京右京八条四坊八坪	七条西町一丁目1057の一部他	2004.05.06 ～ 2004.05.28	200.0 ㎡	秋山	㈱ベース	宅地造成	原因者	H15.3304
5	ＨＪ515	平城京東四坊大路／油坂遺跡	大宮町二丁目124－3他	2004.07.20 ～ 2004.09.07	239.0 ㎡	秋山	奈良市長	芝辻大森線街路整備補助事業	公共	H10.3091
6	ＨＪ516	平城京左京一条三坊十五坪	法華寺町1416番1	2004.07.12 ～ 2004.07.13	37.0 ㎡	三好	（有）コクセイ	グループホーム新築	原因者	H16.3018
7	ＨＪ517	平城京右京三条四坊九坪	菅原町639－2他	2004.07.26 ～ 2004.12.28	1,100.0 ㎡	久保清・山前	奈良市長	大和中央道街路整備臨時交付金事業（菅原工区）	公共	H16.3088
8	ＨＪ518	平城京左京六条一坊十三坪	八条五丁目412－4地	2004.08.23 ～ 2004.10.28	900.0 ㎡	武田	奈良トヨタ自動車㈱	店舗新築	原因者	H16.3007
9	ＨＪ519	平城京左京六条二坊四坪	八条五丁目418－1の一部	2004.08.26 ～ 2004.08.28	59.5 ㎡	三好・宮崎	（有）シービーコーポレーション	宅地造成	原因者	H16.3100
10	ＨＪ520	平城京左京一条三坊四・五坪／法華寺垣内古墳	法華寺町1241－1他	2004.09.21 ～ 2004.12.09	535.0 ㎡	池田裕・武田・久保邦	和光建設㈱	宅地造成	原因者	H16.3048
11	ＨＪ521	平城京右京一条二坊三坪	二条町二丁目60－1	2004.10.15 ～ 2004.11.01	120.0 ㎡	久保邦	個人	店舗付マンション	原因者	H16.3170
12	ＨＪ522	平城京左京四条三坊十五坪	三条添川町203－4他	2004.11.22 ～ 2004.12.07	120.0 ㎡	久保邦	個人	共同住宅新築	原因者	H16.3144
13	ＨＪ523	平城京左京六条東一坊大路	八条五丁目437－12他	2004.12.20 ～ 2004.12.21	71.8 ㎡	三好	（有）ウエムラ	宅地造成	原因者	H16.3200
14	ＨＪ524	平城京右京三条四坊九坪・二条大路	菅原町639－2他	2005.01.06 ～ 2005.03.11	458.0 ㎡	久保清・山前	奈良市長	大和中央道街路整備臨時交付金事業（菅原工区）	公共	H16.3088
15	ＨＪ525	平城京左京五条五坊十坪	西木辻町43番地の1	2005.01.26 ～ 2005.03.02	200.0 ㎡	鐘方	奈良市長	東消防署建設事業	公共	H16.3027
16	ＨＪ526	平城京左京六条三坊十二坪	大安寺二丁目45他	2005.02.07 ～ 2005.02.15	80.0 ㎡	宮崎	㈱ファーストホーム	宅地造成	原因者	H16.3286
17	ＨＪ527	平城京西二坊大路	六条一丁目453－1の一部	2005.02.14 ～ 2005.02.23	20.0 ㎡	秋山	奈良市長	道路新設工事西ノ京六条線	公共	H16.3365
18	ＨＪ528	平城京左京三条四坊四坪	大宮町三丁目192番2他	2005.02.14 ～ 2005.03.31	273.0 ㎡	久保邦・武田	㈱大和システムマンション事業部大阪支店	マンション新築	原因者	H16.3277
19	ＤＡ105	史跡大安寺旧境内（西塔）	東九条町1340他	2004.06.28 ～ 2004.12.24	500.0 ㎡	松浦	奈良市長	史跡大安寺旧境内保存整備事業	公共	H16.1003
20	ＤＡ106	史跡大安寺旧境内	大安寺町1320他	2004.06.28 ～ 2004.07.30	102.0 ㎡	池田裕	奈良市教育委員会教育長	遺跡範囲確認	緊急	H16.1083
21	ＤＡ107	史跡大安寺旧境内	大安寺五丁目967番5	2004.07.01 ～ 2004.07.08	15.0 ㎡	久保邦	個人	個人住宅新築	緊急	H16.1001
22	ＤＡ108	史跡大安寺旧境内	東九条町1381	2005.02.03 ～ 2005.02.15	21.0 ㎡	松浦	個人	農業用倉庫建設	緊急	H16.1045
23	ＤＡ109	史跡大安寺旧境内	大安寺四丁目1055番	2005.02.14 ～ 2005.02.22	17.0 ㎡	安井	個人	個人住宅新築	緊急	H16.1005
24	ＧＧ59	元興寺旧境内	芝新屋町23－2他	2004.06.01 ～ 2004.06.08	11.1 ㎡	池田裕	個人	個人住宅新築	緊急	H16.3020
25	ＧＧ60	元興寺旧境内	鳴川町11－5	2005.01.04 ～ 2005.01.14	18.0 ㎡	久保邦	個人	個人住宅新築	緊急	H16.3241
26	ＳＤ17	西大寺旧境内	西大寺北町一丁目370－6他	2004.04.19 ～ 2004.05.29	252.0 ㎡	久保邦	個人	マンション新築	原因者	H15.3307
27	ＳＤ18	西大寺旧境内	西大寺南町2419番地他	2004.05.24 ～ 2004.07.22	490.0 ㎡	宮崎・山前	奈良市長	西大寺駅南地区土地区画整理地方特定道路整備事業	公共	S63.3056
28	ＳＤ19	西大寺旧境内	西大寺南町2430－1番地他	2004.09.21 ～ 2005.01.20	1,000.0 ㎡	宮崎	奈良市長	西大寺駅南地区土地区画整理通常事業	公共	S63.3056
29	ＳＲ8	西隆寺跡／西大寺東遺跡	西大寺東町一丁目70－4他	2005.01.27 ～ 2005.02.28	187.0 ㎡	大窪	奈良市長	西大寺近隣公園整備事業	公共	H16.3323
30	ＫＮ5	コナベ古墳	法華寺町1805－1他	2004.11.24 ～ 2004.12.22	313.0 ㎡	秋山	奈良市長	市道北部第529号線道路改良工事	公共	H16.3055
31	ＨＫ7	東紀寺遺跡	紀寺町556－1他	2004.08.23 ～ 2004.10.07	360.0 ㎡	久保邦	社会福祉法人サンライフ	特別養護老人ホーム新築	原因者	H15.3336
32	ＨＫ8	東紀寺遺跡	東紀寺町一丁目703－5	2005.03.07 ～ 2005.03.25	255.0 ㎡	池田裕	社団法人地域医療振興協会市立奈良病院	病院職員宿舎新築	原因者	H16.3252
33	ＦＳ7	古市遺跡	古市町1199－1	2004.08.10 ～ 2004.09.02	216.0 ㎡	池田裕	個人	共同住宅新築	原因者	H16.3049
34	ＵＡ2	歌姫赤井谷横穴	歌姫町986－2	2005.02.01 ～ 2005.03.03	28.0 ㎡	池田裕	奈良市教育委員会教育長	遺跡範囲確認	緊急	
35	ＢＴ3	別所辻堂遺跡	別所町392他	2004.05.11 ～ 2004.08.30	2,100.0 ㎡	鐘方・大窪	奈良県知事	県営ほ場整備事業（田原東地区）	原因者	H13.3153
36	ＢＳ3	別所下ノ前遺跡	別所町480他	2004.11.12 ～ 2005.01.07	1,090.0 ㎡	鐘方・大窪	奈良県知事			
37	試掘04－15	水間町内遺物散布地	水間町1182他	2004.09.21 ～ 2004.11.05	766.0 ㎡	鐘方・大窪	奈良県知事			

※34については、『埋蔵文化財調査年報－平成17年度－』にて報告。
35～37については、『県営圃場整備事業田原東地区における埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅱ―別所下ノ前・辻堂・大谷口遺跡　水間遺跡―』奈良市教育委員会　2007 にて報告。



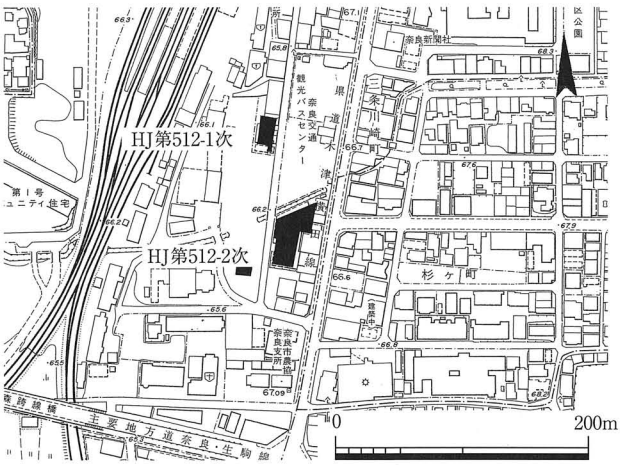
奈良市域と位置図Ａ・Ｂとの関係 1/200,000



平成16年度　発掘調査位置図Ｂ　1/50,000

1．三条遺跡・平城京跡（左京四条五坊五・六坪）の調査　第512－１・２次

調査次数	ＨＪ第512－１・２次	調査期間	１次　平成16年５月６日～６月25日
工事内容	ＪＲ奈良駅周辺地区土地区画整理通常事業		２次　平成16年５月７日～８月31日
通知者名	奈良市長	調査面積	１次　304㎡　２次　1,026㎡
調 査 地	奈良市三条本町 1次 334－２他　2次 327－１他	調査担当者	安井宣也



発掘区位置図　1/6,000

ＨＪ第512－１次調査地は平城京の条坊復原では左京四条五坊六坪の西辺中央部にあたり、北で市ＨＪ第477－１次、東で市ＨＪ第477－４次（いずれも平成14年度）、南西で市ＨＪ第452－２次（平成12年度）の各調査地と隣接する。また、ＨＪ第512－２次調査地は同五坪の北辺西寄り、六坪南辺西寄り及び五・六坪坪境小路にあたり、北で市ＨＪ第477－３次（平成14年度）、南で市ＨＪ第268－２・３次（平成４年度）、東で市ＨＪ第462－４次（平成13年度）の各調査地と隣接する。

奈良時代の五・六坪内の様相については、今までの調査成果から、①宅地に関連する遺構が希薄である、②六坪内では坪の西辺を画する東五坊坊間西小路の東側溝の推定位置に幅10m程度の奈良時代前期に掘削された溝（ＳＤ02）がみられ、七坪以北に続く、③坪内に河川が流れている、といった点が明らかになっている。

また、五・六坪内の調査地では弥生時代後期末に埋没する河川が検出されており、埋土中から土器や木製品が出土したことから、付近に当時の集落が存在することが推察されている。加えて、特に六坪内の調査地では江戸時代の耕作溝が広くみられ、方位の異なるものが重複することから、当時は広く耕地となっており、少なくとも一度は地割が変更されたことがわかっている。

今回の調査は、平城京の条坊道路や坪内の様相の把握を主な目的として実施した。また、その前後の時代における土地利用の様相の確認にも留意した。なお、遺構番号は坪ごとの通し番号である。

ＨＪ第512－１次調査

基本層序　基本的には造成土（厚さ0.7m）の下に水田耕土の黒色砂質シルト層（厚さ0.2m）、水田床土の灰色砂質シルト層（厚さ0.1m）があり、その下で黄灰色砂質シルト層の地山上面（標高65.3m）となる。ただし北辺部では、北に隣接する市ＨＪ第477－１次調査地の南西部と同様で、奈良時代の土器片を含む灰色シルト・砂層（厚さ0.3m）、弥生時代後期末の土器片を含む黒褐色砂質シルト層（厚さ0.2m）があり、その下で後述する河川06の堆積層となる。黒褐色砂質シルト層は湿地の様相を示す層で、上面では人やウシの足跡らしい凹凸が認められた。

検出遺構　遺構検出は地山上面で行った。主な検出遺構は古墳時代中期後半の土坑２基（ＳＫ26・27）で、他に江戸時代の土坑・粘土採掘坑・素掘り溝がある。

ＳＫ26・27はともに径３ｍの平面円形で、深さが0.5ｍ程度の土坑で、埋土は黒色砂混じりシルトである。ＳＫ26の埋土中から古墳時代中期後半の須恵器蓋杯片が出土した。ＳＫ27は出土遺物がないが、ＳＫ26とは形状と埋土が同様であることから同時期のものと考える。

また、発掘区の北寄りで弥生時代後期末に埋没した旧河川（河川06）を、南東拡張部で奈良時代に形成され平安時代に埋没した旧河川（河川05）を検出した。

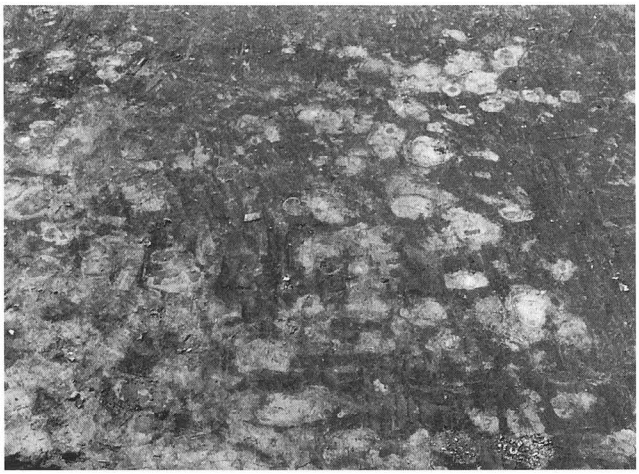
河川06は、東に隣接する市ＨＪ第477－４・５次調査地（平成14年度）から続いており、東から西に流れる。南岸は発掘区北辺部で、北岸は市ＨＪ第477－１次調査地の南辺部とみられるが、かなり不明瞭である。埋土は、発掘区北壁沿いを約0.5m掘下げた箇所で、上から灰色砂質シルト層、灰色砂礫層となることを確認した。なお、発掘区北東隅では埋没後に形成された小流路を検出した。この小流路は市ＨＪ第477－４・５次調査地から続き、市ＨＪ第477－１次調査地の南西隅でも認められる。深さは0.2mで、流路内に黒褐色砂質シルトが堆積する。底部付近で多量の弥生時代後期末の土器が出土した。

河川05は、東に隣接する市ＨＪ第477－３・４次調査

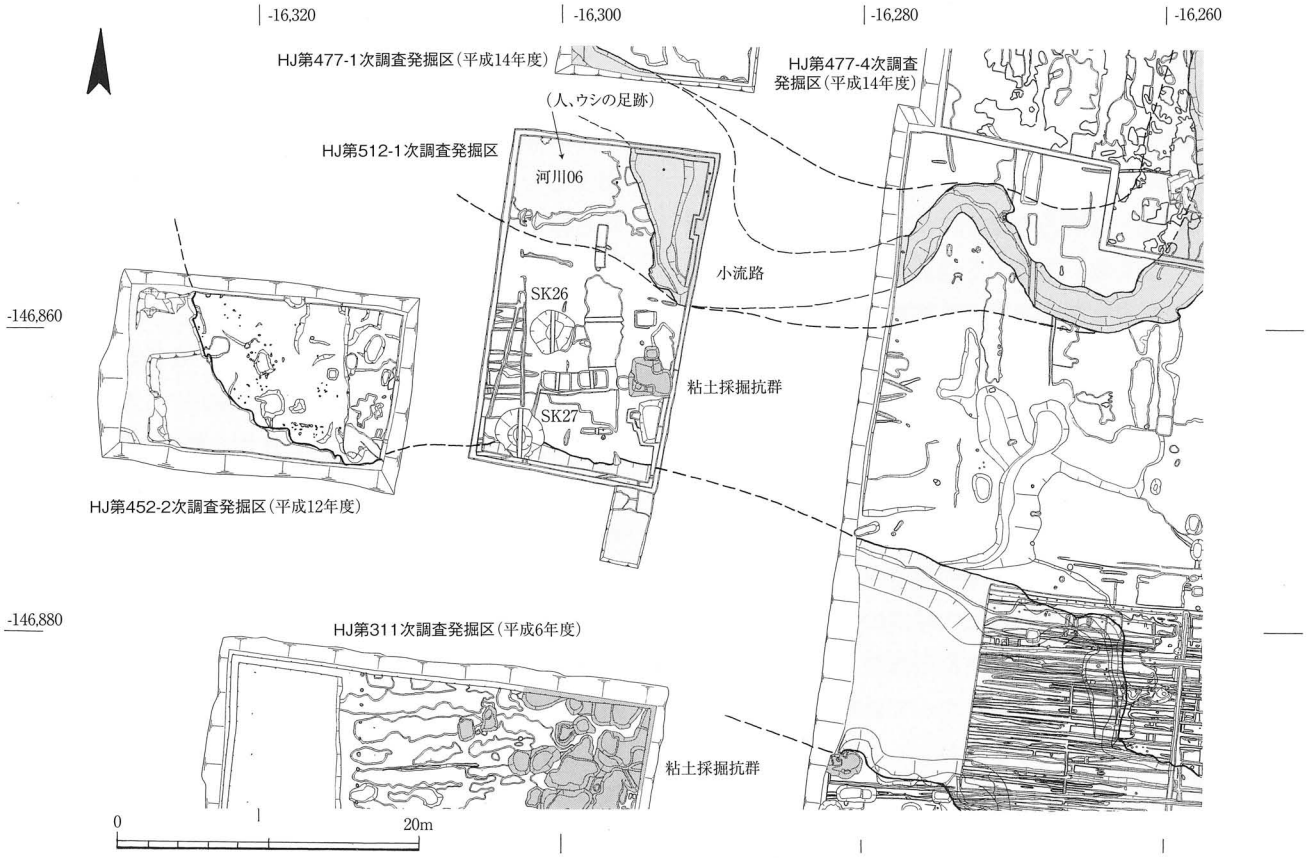
HJ 第 512 － 1 次調査　発掘区全景（南西から）

HJ 第 512 － 1 次調査　河川 06　小流路（北から）

HJ 第 512 － 1 次調査　発掘区北壁断面（南西から）



HJ 第 512 － 1 次調査　足跡の痕跡（北から）



HJ 第 512 － 1 次調査　遺構平面図　1/500

地（平成14年度）と、西に隣接する市ＨＪ第452－２次調査地（平成12年度）で確認されている。今回の調査では発掘区の南東拡張部で北岸を検出し、調査地の南辺付近を東から西に流れることがわかった。

出土遺物　土器類が遺物整理箱10箱分出土した。主なものに河川06の小流路から出土した後期末の「大和第Ⅵ様式」に属する弥生土器がある。器種は甕、壺、鉢、高杯で、集落遺跡と同様である。

調査所見　六坪北西辺については、発掘区内で奈良時代の宅地に関連する遺構がみられなかったことから、周辺と同様に空閑地であったと考える。

発掘区北辺部において河川06の埋没後に形成された小流路内で多量の弥生時代後期末の土器が出土したことについては、北に隣接する市ＨＪ第477－１次調査地で同時期の土坑や溝等の遺構を確認したことや、出土した土器の器種が集落遺跡と同様であることから、調査地が当時の集落の一画であったことを反映するものと考えられる。また、古墳時代中期後半の土坑ＳＫ26・27についても、調査地が当時の集落の一画であったことを反映するものと考えられる。

なお、湿地の様相を示す黒褐色砂質シルト層の上面で人やウシの足跡らしい凹凸がみられることについては、直上に奈良時代の土器片を含む灰色シルト・砂層が堆積することを考慮すれば、古墳時代後期以前に畜力を用いた水田耕作が営まれたことを反映する可能性がある。

ＨＪ第512－２次調査

東西２箇所の発掘区を設定して実施した。

基本層序　東発掘区では、造成土（厚さ0.7m）、水田耕土の黒色砂質シルト層（厚さ0.2m）・水田床土の灰色砂質シルト層（厚さ0.1m）の下で地山の灰色シルト・粘土層上面（標高65.2～65.3m）となるが、北辺では後述する河川10の堆積層となる。西発掘区では、造成土（厚さ1.2m）、水田耕土の黒色砂質シルト層（厚さ0.2～0.3m）・水田床土の灰色砂質シルト層（厚さ0.3～0.4m）の下で地山の黄褐色粘土層上面（標高64.6～64.9m）となる。地山上面は東から西へ緩やかに下る。

検出遺構　東・西２つの発掘区とも地山上面で遺構検出を行った。

東発掘区の主な検出遺構は、鎌倉～江戸時代の粘土採掘坑群、江戸時代の耕作溝で、奈良時代の平城京に関連する遺構はなかった。江戸時代の耕作溝は、方眼方位に沿うものと方眼方位西に対しやや北に振れる方向及びその直交方向のものがある。西発掘区の主な検出遺構は、南に隣接する市ＨＪ第268－３次調査地（平成４年度）から続く鎌倉時代以降の耕作溝である。

また、東発掘区では弥生時代後期末に埋没する旧河川（河川10）と奈良時代に形成され平安時代に埋没する旧河川（河川05）を検出した。

河川10は、東発掘区の北辺を東から西に流れる。北に隣接する市ＨＪ第477－３次調査地に及ばないことから、川幅は20m程度と推測する。深さは約２ｍである。埋土は主に州を形成した灰色の砂礫層である。最上位には灰色の砂質シルト層が堆積しており、弥生時代後期末の土器が出土した。なお、河川の南岸沿いと中央部には埋没後に形成された小流路がある。前者は腐植を含む褐灰色粘土で埋まっており、弥生時代後期末の土器が出土した。また、後者は流木を含む砂礫で埋まっており、古墳時代中期後半の土器が出土した。

河川05は北に隣接する市ＨＪ第477－３次調査地と南東に隣接する五坪内の市ＨＪ第462－４次調査地（河川08）で確認されている。今回の調査では東発掘区の東辺で西岸を検出し、調査地の東辺付近を北から南に流れることがわかった。

出土遺物　土器類が遺物整理箱16箱分出土した。主なものは河川10と小流路から出土した後期末の「大和第Ⅵ様式」に属する弥生土器がある。器種には甕、壺、鉢、高杯があり、集落遺跡と同様である。古墳時代中期後半の小流路から出土した土器には、土師器の小型丸底壺と田辺編年ＴＫ208あるいはＴＫ23型式の須恵器の杯身がある。なお、東発掘区の江戸時代の耕作溝からは土師器や陶磁器の破片が出土している。

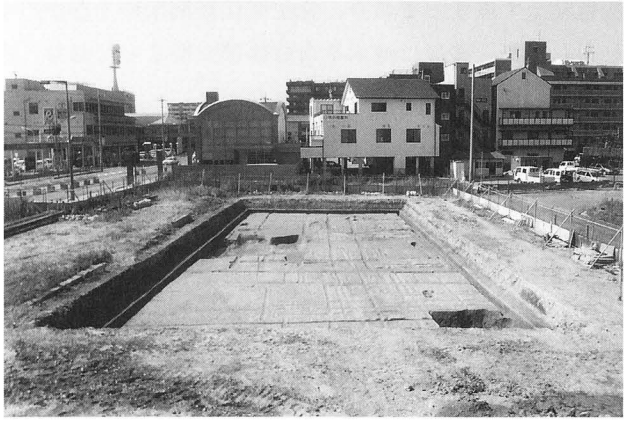
調査所見　五坪北辺と六坪南辺は、奈良時代には空閑地であったと考える。五・六坪坪境小路に関連する遺構はなかったが、後世の開発で削平された可能性があり、施工については周辺の調査成果も踏まえて検討する必要がある。

河川10と小流路から弥生時代後期末の土器や古墳時代中期後半の土器が出土したことについては、付近にこの時期の集落があったことを反映するものと考えられる。河川の埋没時の堆積層や埋没後に形成された小流路から弥生時代後期末の土器が出土する状況は前述したＨＪ512－１次調査地で確認した河川06でも認められる。調査地一帯における弥生時代後期末の集落の成立が河川の埋没と関連することがうかがえ、河川の埋没後に形成された湿地を水田に開発した可能性がある。

江戸時代の耕作溝のうち、方眼方位西に対しやや北に振れる方向及びその直交方向のものは図で示す明治時代初期の畦畔の方向と合致する。したがって当初の耕地の地割は方眼方位に沿っていたと考える。

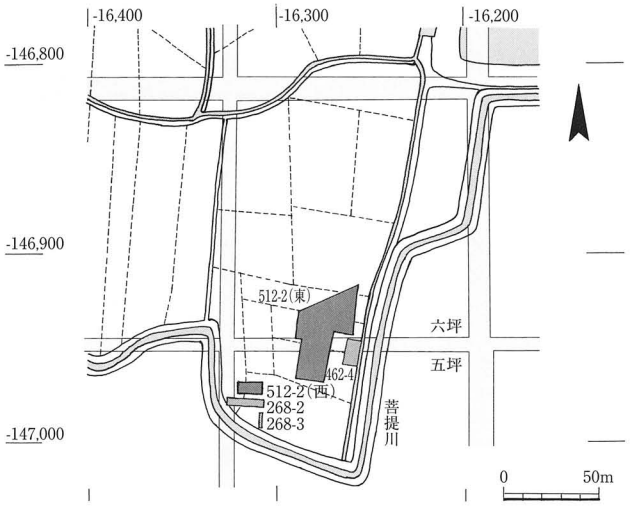
HJ 第 512 － 2 次調査　東発掘区北半部（西から）

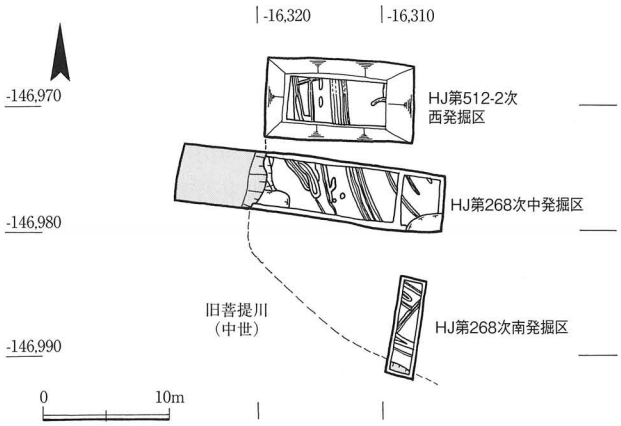
河川 06 弥生土器出土状態（東から）

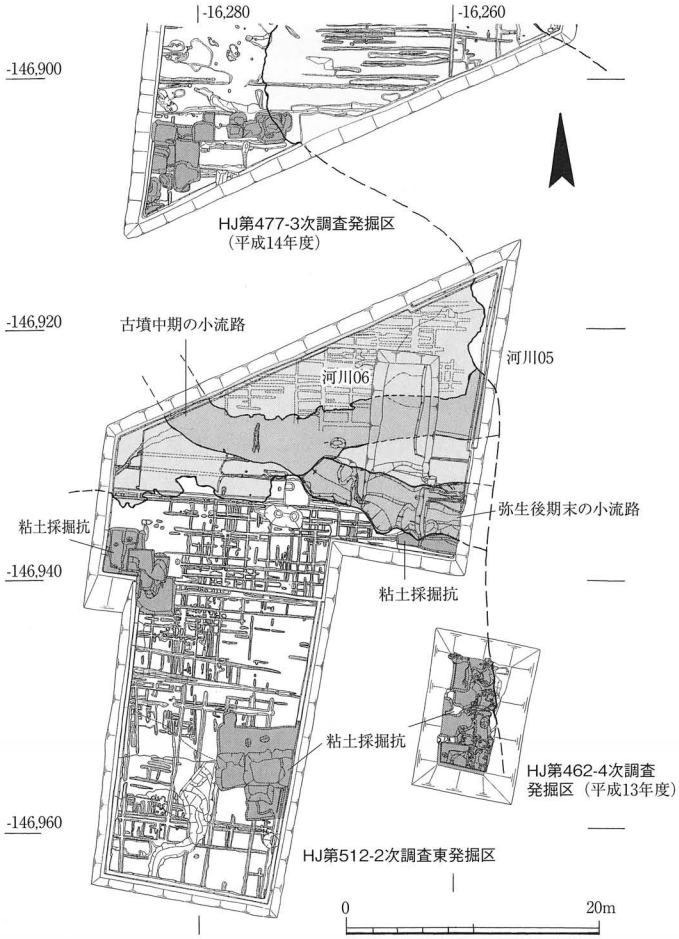


HJ 第 512 － 2 次調査　東発掘区南半部（北から）

HJ 第 512 － 2 次調査　西発掘区南全景（南東から）





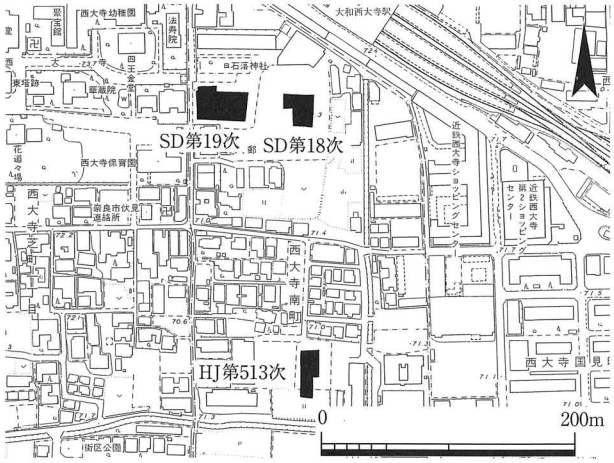


（左上）明治時代の水田地割り（地籍図による）　1/4,000、（左下）HJ 第 512 － 2 次調査西発掘区、（右）同東発掘区平面図　1/600

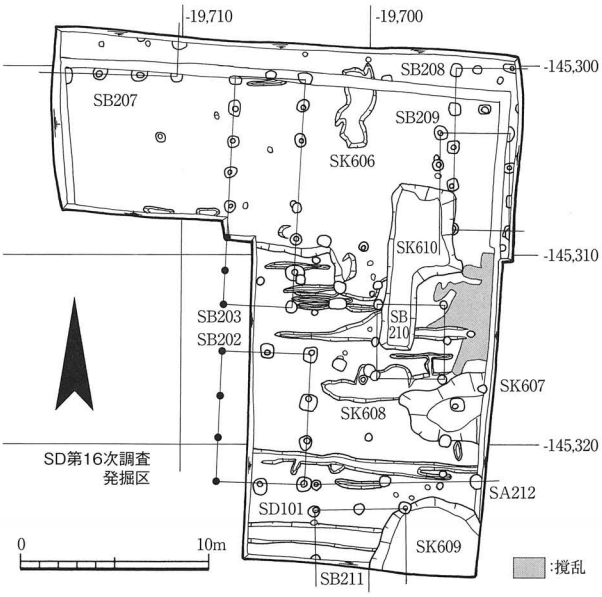
2．西大寺旧境内の調査　第18・19次／平城京跡の調査　第513次

近鉄西大寺駅南地区土地区画整理事業に係る発掘調査一覧表

遺跡名	調査次数	事業名	通知者	調査地	調査期間	調査面積	調査担当者
平城京右京二条三坊一坪	ＨＪ513	地方特定道路整備事業	奈良市長	西大寺南町694他	H16. 5.11～6.29	430㎡	山前智敬 宮崎正裕
西大寺旧境内（右京一条三坊三坪）	ＳＤ18			西大寺南町2419他	H16. 5.24～7.22	490㎡	
西大寺旧境内（右京一条三坊三坪）	ＳＤ19	通常事業	奈良市長	西大寺南町2430－1他	H16. 9.21～17.1.20	1,000㎡	宮崎正裕



発掘区位置図　1/6,000



ＳＤ第18次調査　遺構平面図　1/400

本調査は、奈良市が進める近鉄西大寺駅南地区土地区画整理事業（総面積約30万㎡）に係り実施した埋蔵文化財発掘調査である。奈良市教育委員会では、昭和63年度から事業地内の発掘調査を継続して実施している。平成16年度は上表のとおり３箇所で1,920㎡の調査を実施した。初年度からの総調査面積は106,579㎡になる。

なお、各調査で付した遺構番号は、平城京の一坪ごとの通し番号とし、奈良時代以降は３桁で明示する。

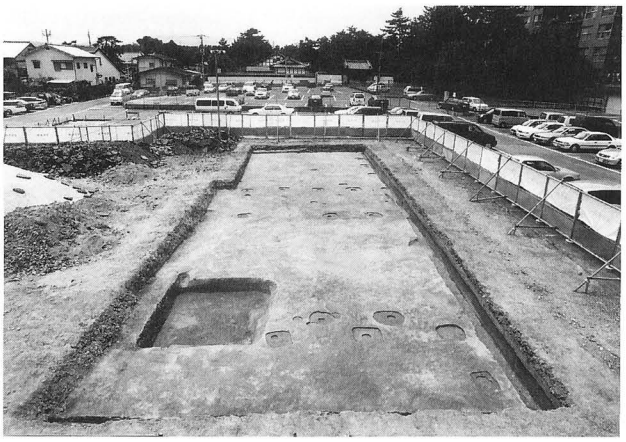
（1）ＳＤ第18次調査

調査地は西大寺現境内の東側で、平城京右京一条三坊三坪に相当し、奈良時代の西大寺の寺地に当たる。三坪内ではこれまでに３件（国第112－１次調査：昭和53年度、市ＳＤ第16－１・２次調査：平成15年度）の調査が行われている。

基本層序　現況は駐車場で、盛土下に耕土、床土、遺物包含層が堆積し、現地表下約0.5mで黄灰色砂質土あるいは淡黄灰色粘細砂の地山に達する。地山の標高は概ね71.7mで、遺構はすべて地山面で検出した。

検出遺構　奈良～江戸時代までの遺構がある。主な遺構には、奈良・平安時代の掘立柱建物７棟（ＳＢ202・203、207～211）、掘立柱塀１条（ＳＡ212）、土坑４基（ＳＫ606～609）、室町時代の土坑１基（ＳＫ610）、江戸時代の溝１条（ＳＤ101）がある。

出土遺物　遺物整理箱で７箱分あり、土器が３箱分を占める。大半が奈良・平安時代の土師器、須恵器、黒色



ＳＤ第18次調査　発掘区北半全景（東から）

ＳＤ第18次調査　発掘区南半全景（北西から）

土器A類で、少量ながら瓦器もある。瓦の数量は丸瓦が114点（6,486g）、平瓦が243点（22,682g）、丸瓦か平瓦いずれか不明が96点（1,121g）である。軒丸瓦は２点、軒平瓦は１点あり、すべて平安時代以降のものである。

調査所見　ＳＢ203は西側柱をＳＢ202のそれと、北妻柱はＳＢ207の南側柱と柱筋を揃え、この３棟は併存すると考える。周辺の調査成果から、ＳＢ202・203の西側は東側に比べて遺構密度が小さく、三坪の南半中央のこの一角は空閑地の時期が認められる。（宮崎正裕）

（２）ＳＤ第19次調査

調査地はSD第18次調査地のすぐ西側で、平城京右京一条三坊三坪の西半に相当し、調査地西端には三坪と六坪間の坊間東小路が想定される。

基本層序　現況は駐車場で、盛土下に耕土、床土、遺物包含層が堆積し、現地表下約0.8mで黄灰色砂質土あるいは淡黄灰色粘細砂の地山に達する。地山の標高は概ね71.8mで、遺構はすべて地山面で検出した。

検出遺構　奈良～江戸時代の遺構がある。主な遺構には、奈良・平安時代の掘立柱建物３棟（ＳＢ213～215）と掘立柱塀５条（ＳＡ217～221）と井戸２基（ＳＥ501・502）、室町時代の井戸６基（ＳＥ503～508）と土坑３基（ＳＫ611～613）、江戸時代の掘立柱塀２条（ＳＡ222・223）と土坑２基（ＳＫ614・615）、時期の特定はできなかったが、溝１条（ＳＤ102）、掘立柱建物１棟（ＳＢ216）、土坑６基（ＳＫ616～621）、小穴がある。

ＳＢ213とＳＡ217・219・220が奈良時代とみられ、位置関係からＳＡ217はＳＢ213の東を限る塀と考える。奈良時代末以後の建物には、ＳＢ214～216とＳＡ218・221があり、ＳＢ215の柱掘形・痕跡から９世紀代の土器が出土している。その他の建物は規模が小さく、建物の主軸が国土方眼方位西で北に振れる。ＳＥ502は方形横板組で、高さ0.2～0.28m、厚さ0.03～0.05mの板を５段積む。ＳＥ503は井戸底に高さ0.35m、厚さ0.08m程度の板を方形に組んだ枠材を置く。また、枠材の裏込上層埋土中には、この枠材と天位置を揃えるように上面が平坦な自然石が11個残る。上段枠材の礎盤用途と考える。ＳＥ504は中段には太枘で繋いだ高さ1.0m、幅0.3m、厚さ0.05m程度の縦板９枚を、下段に高さ0.3mの桶を据える。縦板の上端から桶の下端までの高さは1.15m程度である。（宮崎正裕）

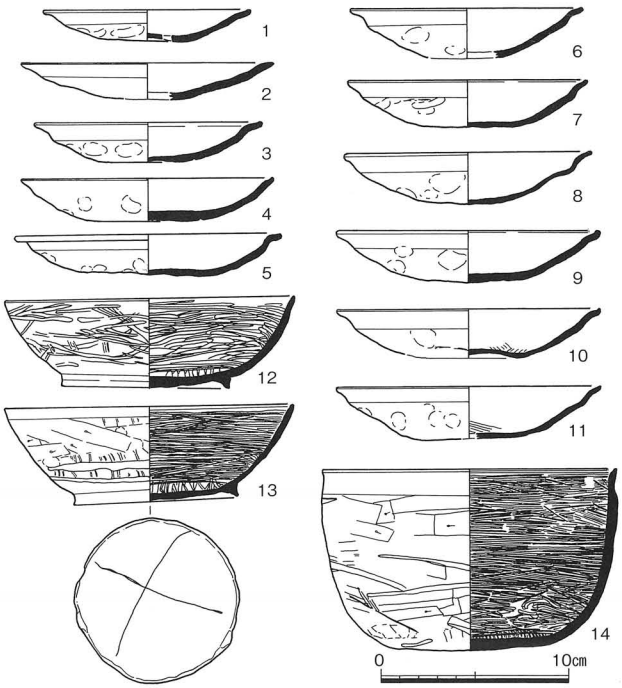
出土遺物　遺物整理箱で112箱分ある。瓦類（97箱）と土器類（９箱）が大半を占め、その他に木製品（斎串、椀、曲物、下駄、横櫛）が少量ある。

瓦類には奈良～江戸時代のものがあり、奈良時代の軒丸瓦は6316種不明（１点）、型式不明（７点）、軒平瓦は6732Ｋ（１点）・Ｍ（１点）・Ｎ（２点）・Ｑ（３点）・Ｒ（２点）・Ｘ（１点）・Ｚ（１点）・種不明（１点）、6739Ａ（１点）、6763Ａ（１点）、型式不明（３点）の計25点である。平安時代以降の軒瓦は軒丸瓦が45点、軒平瓦が25点の計70点である。その他、奈良・平安時代の面戸瓦（２点）、鴟尾（２点）、鬼瓦（２点）、塼（33点）がある。鴟尾は頭部と鰭部の断片で、前者はＳＫ613、後者はＳＥ501の枠内から出土した。なお、出土した頭部に酷似する資料が西大寺に所蔵されている[1)]。塼には平面が直角三角形のもの（２点）と片面に段のあるもの（３点）の断片が含まれる。丸瓦と平瓦の内訳は、丸瓦が1,872点（287,850g）、平瓦が5,002点（754,395g）、丸瓦か平瓦いずれか不明が3,241点（38,341g）である。他

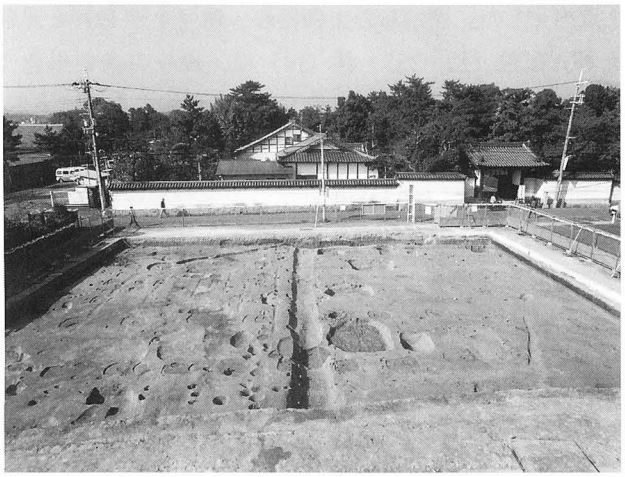
SD第18次調査　検出遺構一覧表

遺構番号	棟方向	規模	桁行全長	梁行全長	柱間寸法（m）		備考
		桁行×梁行（間）	（m）	（m）	桁行	梁行	
ＳＢ202	南北	3×2	7.2	4.8	2.4等間	2.4等間	ＳＤ第16次調査成果から梁行２間と判明
ＳＢ203	南北	7×2	11.9	3.6	1.7等間	1.8等間	柵列（ＳＡ203）ではなく、建物と判明
ＳＢ207	東西	3以上×1以上	6.3以上	1.8以上	2.1等間	1.8	西側の調査成果から、桁行は6間以上の建物になる
ＳＢ208	南北	4×1以上	8.4	3.0以上	2.1等間	3.0	ＳＢ209、ＳＫ610よりも古い
ＳＢ209	南北	3以上×1	5.4以上	3.6	1.8等間	3.6	ＳＢ208よりも新しく、ＳＫ610よりも古い
ＳＢ210	南北	2×1	3.8	3.6	1.9等間	3.6	ＳＫ608よりも新しい
ＳＢ211	南北	1以上×2	2.7以上	4.8	2.7	2.4等間	ＳＫ609よりも新しい
ＳＡ212	東西	2以上	8.7		西から3.9－4.8		

遺構番号	掘形			主な出土遺物	備考
	平面形	平面規模（m）	深さ（m）		
ＳＫ606	溝状	南北4.5×東西2.1	0.05（南半）～0.4（北半）		埋土は淡灰茶色粘砂
ＳＫ607	不整形	南北3.5×東西4.7以上	0.3	奈良時代土師器・須恵器	ＳＫ608よりも古い
ＳＫ608	溝状	南北2.0×東西8.8以上	0.05～0.1	奈良時代土師器・須恵器、黒色土器Ａ類	ＳＫ607よりも新しい
ＳＫ609	円形	南北4.2以上×東西6.0以上	1.8	奈良時代土師器・須恵器、砥石	ＳＢ211、ＳＤ101よりも古い
ＳＫ610	Ｌ形	南北8.8×東西4.4	0.5	灰釉陶器、瓦器、土師器羽釜	ＳＢ208よりも新しい
ＳＤ101	東西素掘溝	幅1.2、長さ12.5以上	0.15（西端）～0.3（東端）	瓦器、瓦質土器擂鉢、青磁椀	ＳＫ609よりも新しい



ＳＤ第19次調査　SE502枠内出土土器　1/4

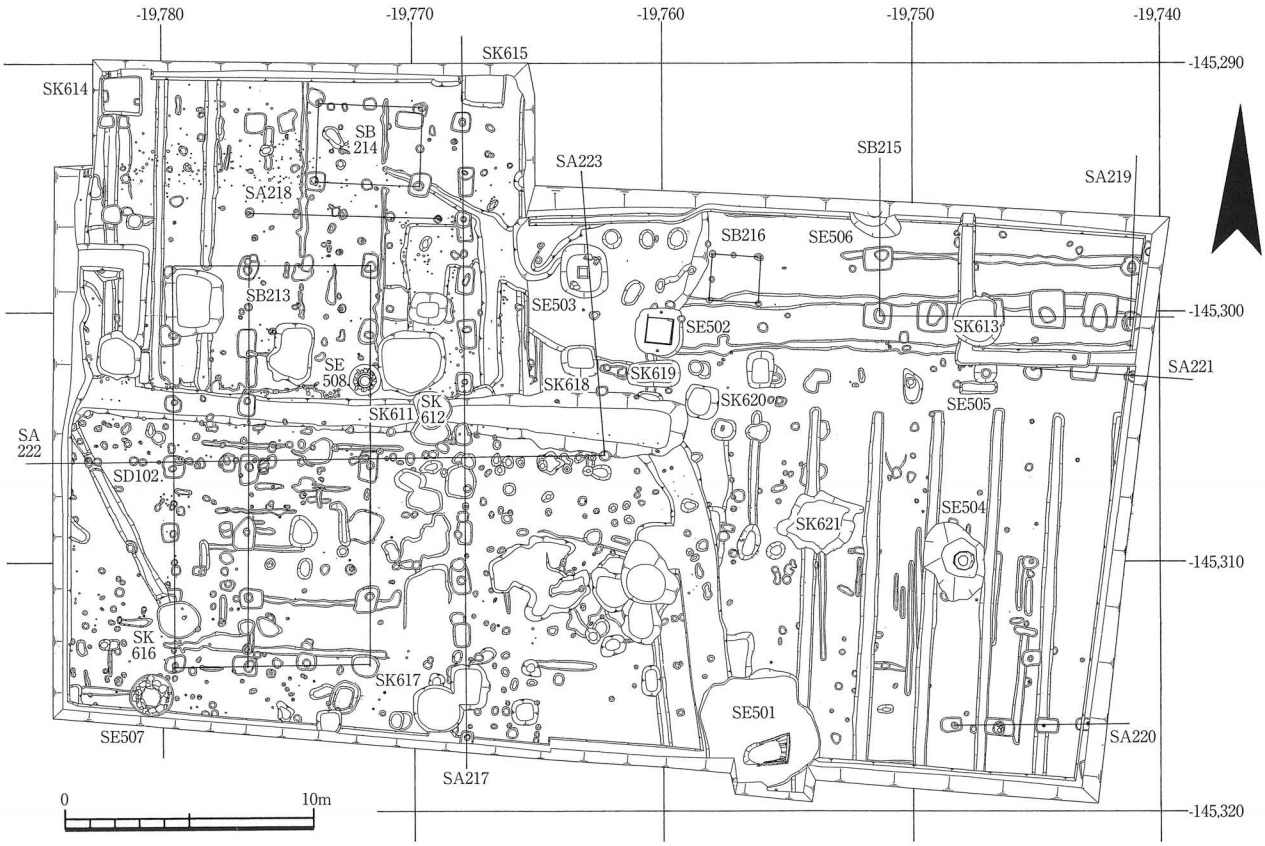


ＳＤ第19次調査　発掘区西半全景（東から）

ＳＤ第19次調査　発掘区東半全景（北から）

に雁振瓦（22点）と桟瓦が11点（130g）ある。

土器類には奈良・平安時代の土師器、須恵器、黒色土器Ａ類、緑釉・灰釉陶器、瓦器、瓦質土器、陶磁器がある。また、土師器椀Ａに「夫」・同杯Ａに「中」（ＳＥ501枠抜き取り出土）、黒色土器Ａ類の椀か皿に「一」・同椀に「艹」（ＳＥ502枠内出土）、陶器椀か皿に「六」（ＳＫ619出土）といずれも底部外面に墨書されたものが各

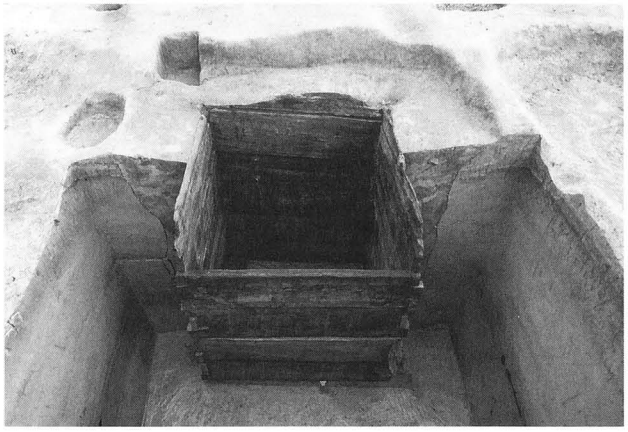


ＳＤ第19次調査　遺構平面図　1/300

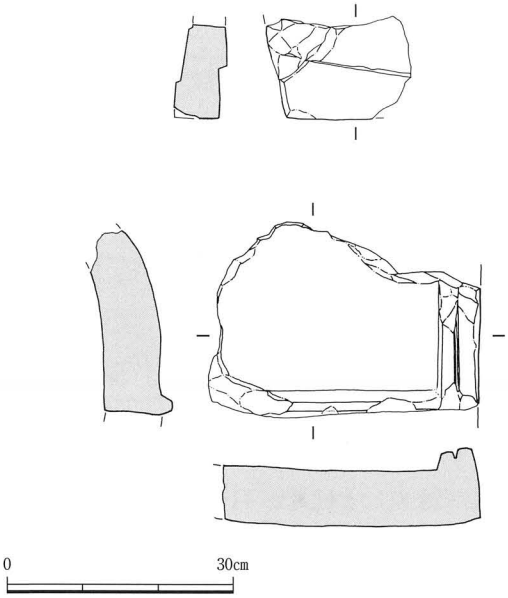
1点出土した。図示した土師器杯・皿（1～11）と黒色土器A類椀（12・13）・鉢（14）は、残りの良い黒色土器A類がまとまって出土したＳＥ502枠内のものである。これら遺物の時期は、土師器杯・皿の底部が丸底になる傾向はあるが、口径11cm前後の小型のものが見られないことや黒色土器A類椀の形態などから、10世紀中頃～後半のものと考えられる。他に緑釉・灰釉陶器なども出土していることから、西大寺という遺跡の特徴が反映されている土器群と言えよう。（宮﨑正裕・池田富貴子）

調査所見　想定していた坊間東小路は検出できなかったが、三坪内で時期、構造が多様な井戸を検出した。さらに江戸時代の遺構もみられる状況から、西大寺が創建された奈良時代末より江戸時代に至るまで、一帯は連綿と利用されていた様子がわかる。（宮﨑正裕）

1）奈良県教育委員会・奈良国立文化財研究所『西大寺防災施設工事発掘調査報告書』西大寺　1990



ＳＤ第19次調査　ＳＥ502（西から）



出土鴟尾鰭部（上）・頭部（下）　1/10

ＳＤ第19次調査　検出遺構一覧表

遺構番号	棟方向	規模（間）	桁行全長	梁行全長	柱間寸法（m）		廂の出	備考
		桁行×梁行	(m)	(m)	桁行	梁行	(m)	
ＳＢ213	南北	6×2	16.2	8.0	2.7等間	2.5等間	西3.0	ＳＡ222、ＳＥ508、ＳＫ616、ＳＤ102よりも古い
ＳＢ214	東西	2×2	4.2	3.0	2.1等間	1.5等間		建物四隅の柱穴が大きく、棟方向が西で北に振れる
ＳＢ215	東西	4×1以上	9.2	2.4以上	2.3等間	2.4		ＳＡ219よりも新しく、ＳＥ506、ＳＫ613よりも古い
ＳＢ216		2×2	1.8	1.8	0.9等間	0.9等間		
ＳＡ217	南北	13	27.3		2.1等間			ＳＫ615よりも古い
ＳＡ218	東西	4	7.6		1.9等間			柱筋が西で北に振れる
ＳＡ219	南北	1以上	2.4以上		2.4			ＳＢ215よりも古い。西側柱か西妻柱の可能性もある。
ＳＡ220	東西	3以上	5.4以上		1.8等間			北側柱の可能性もある
ＳＡ221	東西	2以上	4.2以上		2.1等間			
ＳＡ222	東西	11以上	20.9以上		1.9等間			ＳＢ213よりも新しい。東端でＳＡ223に繋がる。
ＳＡ223	南北	2以上	5.7以上		南から2.6-3.1			南端でＳＡ222に繋がる

遺構番号	掘形			井戸枠		主な出土遺物	備考
	平面形	平面規模（m）	深さ（m）	構造	内法（m）		
ＳＥ501	不整形	南北5.0×東西5.0	1.9	方形縦板組隅柱横桟留	一辺1.05	（枠抜き取り痕跡）墨書土器 （枠内）鴟尾、9世紀初の土師器・須恵器、黒色土器A類杯、斎串、曲物	枠が一部抜き取られる。横桟は各面2段あり、北・南面の桟は東・西面に比べて、各段ともに0.2m程度高い。
ＳＥ502	隅丸方形	南北1.95×東西1.95	1.5	方形横板組	一辺0.95	（枠裏込）10世紀中頃の黒色土器A類（枠内）10世紀中頃～後半の黒色土器A類椀、墨書土器、下駄、横櫛、箸、曲物、鉄釘、鉄滓	最下段の四隅に礎盤として、塼の断片を敷く。
ＳＥ503	隅丸方形	南北2.2×東西1.9	2.4	下段：方形板組	一辺0.3	（枠裏込）土師器羽釜、瓦器椀 （枠内）瓦器椀、瓦質土器	上部の枠抜き取り痕跡は掘形内で収まる
ＳＥ504	不整形	南北3.2×東西2.6	2.6	中段：九角形縦板太組 下段：桶		（中段枠内）13世紀～14世紀中頃の土師器皿・瓦質土器浅鉢	上部枠抜き取り。中段枠裏込から楔が出土。中段枠内法は0.8m×0.7mの楕円形で、下段内法は直径0.35m。
ＳＥ505	円形	南北0.8以上×東西0.9	0.7	下段：曲物	直径0.28	12世紀末～13前半の土師器皿	上部枠抜き取り
ＳＥ506	不明	南北1.0以上×東西2.2	1.6	下段：曲物	直径0.6	14世紀の土師器羽釜	発掘区外に続く。上部枠抜き取り。ＳＢ215よりも新しい。
ＳＥ507	円形	直径1.75	0.7	円形石組	直径0.9	（枠内）奈良時代の瓦、瓦器、土師器皿・羽釜、瓦質土器、青磁椀、白磁椀、砥石	石組の隙間に奈良時代の軒平瓦・平瓦を転用
ＳＥ508	円形	直径1.25	1.9	上段：円形瓦・石積 下段：瓦質土器甕	上段：直径0.6 下段：直径0.5	（枠内）15世紀後半～16世紀初の瓦質土器羽釜・浅鉢・深鉢・擂鉢、越州窯系青磁椀、漆器椀、箸、檜皮	ＳＢ213よりも新しい。井戸底に底を打ち欠いた瓦質土器甕を正位置で置き、その裏込の上部に瓦を積んで井戸側とする。
ＳＫ611	円形	南北1.1以上×東西1.6	0.5				ＳＫ612よりも古い
ＳＫ612	円形	南北1.5×東西1.7	1.9			土師器皿、瓦器椀	ＳＫ611よりも新しい
ＳＫ613	円形	南北2.0×東西2.0	1.7			鴟尾、土師器羽釜、竜泉窯系青磁	ＳＢ215よりも新しい
ＳＫ614	方形	南北1.6×東西1.6	0.4			陶器擂鉢	
ＳＫ615	方形	南北1.3以上×東西1.8	0.3				ＳＡ217よりも新しい
ＳＫ616	円形	南北1.5×東西1.8	0.5			土師器羽釜、瓦器、瓦質土器、華南産白磁皿	ＳＢ213、ＳＤ102よりも新しい
ＳＫ617	隅丸方形	南北1.4×東西1.2	0.7			瓦質土器	
ＳＫ618	隅丸方形	南北1.3×東西1.5	0.3			瓦質土器擂鉢、陶器擂鉢	
ＳＫ619	隅丸方形	南北1.0×東西2.2	0.3			瓦質土器擂鉢、陶器擂鉢、墨書土器	
ＳＫ620	隅丸方形	南北1.5×東西1.1	0.4			瓦質土器	
ＳＫ621	不整形	南北2.6×東西3.5	0.4			瓦器椀、瓦質土器擂鉢	
ＳＤ102	素掘溝	幅0.4～0.6、長さ8.5以上	0.15～0.25			13世紀の土師器羽釜・瓦器	ＳＢ213よりも新しく、ＳＫ616よりも古い

（3）ＨＪ513次調査

調査地は平城京の条坊復原では右京二条三坊一坪の北東部にあたり、すぐ北側には一条南大路が、東側には東二坊大路が想定さる。同坪内ではこれまでに、４件（市ＨＪ第51次調査：昭和58年度、国第183－18次調査：昭和62年度、市ＨＪ第378－１次調査：平成９年度、市ＨＪ第511次調査：平成15年度）の調査が行われている。これらの調査で、古墳時代の自然流路１条、奈良時代の掘立柱建物１棟、掘立柱塀１条、井戸３基、土坑１基、中世の旧河川、小土坑、溝、井戸、近世の溝を検出している。奈良時代の建物跡は少ない。今回の調査では、一坪北半部の様相を把握すること、および条坊遺構の検出を目的として実施した。

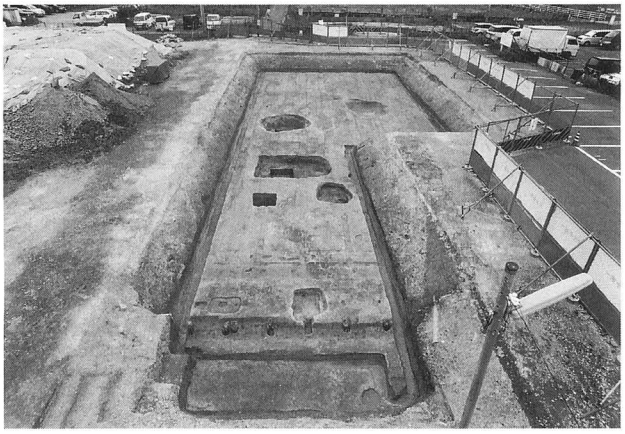
基本層序　上から、造成土（約1.2m）、黒色土（水田耕土、約0.15m）と続き、地表下約1.35mで黄灰色砂質土の地山に至る。遺構面は地山上面で、地山上面の標高は概ね70.0mである。

検出遺構　奈良時代後半～平安時代初頭の井戸３基、土坑２基と奈良時代と思われる柱穴１個があり、また、江戸時代以降の耕作に伴う溝がある。井戸と土坑については下表の通りである。

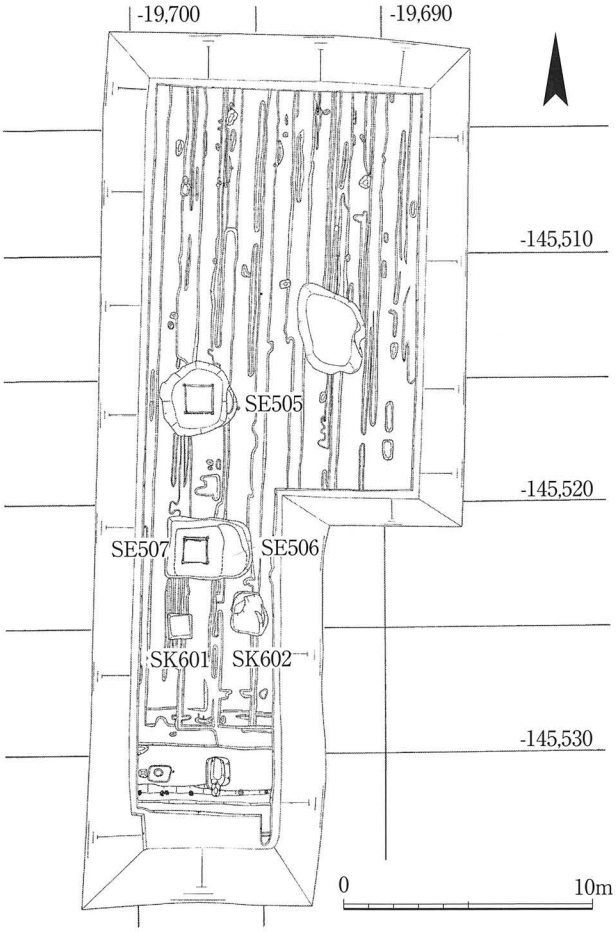
出土遺物　整理箱で19箱分出土した。出土遺物の大半は８世紀後半～９世紀初頭の土師器・須恵器、８世紀の丸瓦、平瓦である。そのほかに、製塩土器、漆が付着した土師器・須恵器、SE507から漆紙文書、瑪瑙が、SE505から水晶等がある。以下で、漆紙文書について述べる。

漆紙文書は井戸SE507から12片が出土した。すべて断片となっていたが、非常に鮮明に文字が残っていた。大きいものは一辺７cm程度、小さいものでは一辺１cm程度で、六十干支、五行（納音）、七十二候、六十卦、吉凶や生活指針を記した十二直の文字があることから暦であることがわかる。

出土した漆紙の断片には漆が円弧状に厚く付着する部分があり、漆容器の縁に当たる部分であると思われる。漆液を保存するために用いる曲物や土器が円形であるため、「ふた紙」として用いられた漆紙文書はだいたい円形か、あるいはそれを二つに折りたたんだ半円形で残る事が多い。漆が比較的厚く付着している部分の大きさから、器の内径は約12cmに復原でき、杯または皿状の土器の「ふた紙」として使用されたものと思われる。容器



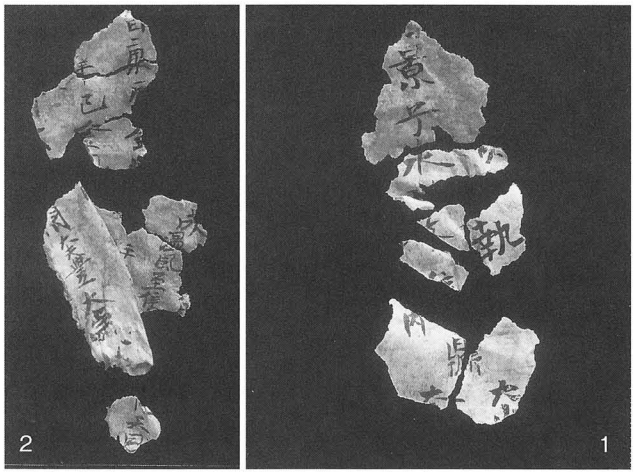
ＨＪ第513次調査　発掘区全景（南から）



ＨＪ第513次調査　遺構平面図　1/300

ＨＪ第513次調査　検出遺構一覧表

遺構番号	掘形			井戸枠		主な出土遺物	備考
	平面形	平面規模（m）	深さ（m）	構造	内法（m）		
ＳＥ505	楕円形	東西3.0、南北2.9	2.5以上	方形縦板組横桟留	1.0	土師器、須恵器、製塩土器、竈、漆付着土師器・須恵器、転用硯、丸・平瓦、磚、水晶	湧水が激しく枠材崩壊のため完掘出来ず
ＳＥ506	隅丸方形	東西0.9以上、南北2.0	1.6			土師器、須恵器、漆付着土師器、丸瓦	枠材抜き取り。重複関係からSE507よりも古い
ＳＥ507	隅丸方形	東西2.4、南北2.4	2.5	方形縦板組横桟留	0.9	土師器、須恵器、製塩土器、漆付着土師器・須恵器・木製品、墨書土器（「紀家」、「入」）、竈、転用硯、丸・平瓦、磚、瑪瑙、漆紙文書	北東・北西・南東の隅柱の下に瓦・磚が置かれる。墨書土器「紀家」は、皿Ａの底部に書かれてあり8世紀後半のもの
ＳＫ601	隅丸方形	東西0.9、南北1.0	0.9			土師器、須恵器、製塩土器、竈、丸・平瓦、鞴の羽口、砥石、炭	
ＳＫ602	不整形	東西1.5、南北1.7	0.4～0.8			土師器、須恵器、平瓦、炭	



漆紙文書赤外線写真

出土した古代の具注暦

	遺　跡　名	種 別	暦　年	暦 名
1	石神遺跡（奈良県明日香村）	木 簡	持統天皇３（689）年具注暦	元嘉暦
2	城山遺跡（静岡県浜松市）	木 簡	神亀６（天平元、729）年具注暦	儀鳳暦
3	武蔵台遺跡（東京都府中市）	漆紙文書	天平勝宝９（757）歳具注暦	儀鳳暦
4	秋田城跡（秋田市）	漆紙文書	天平宝字３（759）年具注暦	儀鳳暦
5	山王遺跡（宮城県多賀城市）	漆紙文書	天平宝字７（763）年具注暦	儀鳳暦
6	平城宮跡（奈良市）	木 簡	年未詳具注暦	儀鳳暦ヵ
7	平城京跡（右京二条三条一坪）	漆紙文書	宝亀９（778）年具注暦	大衍暦
8	多賀城跡（宮城県多賀城市）	漆紙文書	宝亀11（780）年具注暦	大衍暦
9	鹿の子Ｃ遺跡（茨城県石岡市）	漆紙文書	延暦９（790）年具注暦	大衍暦
10	胆沢城跡（岩手県奥州市）	漆紙文書	延暦22（803）年具注暦	大衍暦
11	胆沢城跡（岩手県奥州市）10の裏面	漆紙文書	延暦23（804）年具注暦	大衍暦
12	大浦Ｂ遺跡（山形県米沢市）	漆紙文書	延暦23（804）年具注暦	大衍暦
13	鹿の子遺跡ｅ地区（茨城県石岡市）	漆紙文書	年代未詳（延暦年間ヵ）具注暦	大衍暦
14	多賀城跡（宮城県多賀城市）	漆紙文書	弘仁12（821）年具注暦	大衍暦
15	胆沢城跡（岩手県奥州市）	漆紙文書	嘉祥元（848）年具注暦	大衍暦
16	東の上遺跡（埼玉県所沢市）	漆紙文書	年未詳具注暦	大衍暦ヵ
17	矢部遺跡（群馬県太田市）	漆紙文書	年未詳具注暦	大衍暦ヵ
18	磯岡遺跡（栃木県上三川町）	漆紙文書	年未詳具注暦	宣明暦ヵ
19	多賀城跡（宮城県多賀城市）	漆紙文書	年未詳具注暦	不明
20	払田柵跡（秋田県大仙市）	漆紙文書	年未詳具注暦	不明

は大きさから小分け用（パレット）とみられる。漆紙文書を読み解く際に、「ふた紙」の外側の面を「オモテ面」と呼び、漆液と密着し、漆が紙に付いた内側の面のことを「漆面（または漆付着面）」と呼ぶ。

「オモテ面」の記載内容をみると、写真１にみえる「景子」は干支の丙子が避諱により表記が変わったもので、五行（納音）の「水」にあたる。これに続く破片をつなぎあわせると、「執」という文字がある。「執」は十二直で上部の「亥」から続き、「執」が「亥」にあたるのは節月の五月であることから、「景子」に続く十二直は「破」と判読できる。その他六十卦の「鼎内」、暦注の「大小」や「大」という文字がみえる。写真２では「日庚辰　金」「辛巳　金」という干支の「庚辰」、「辛巳」と納音の「金」の接続には矛盾はない。六十干支から写真１から２の順に続くことがわかる。中程の「成　温風至候」は七十二候の六月節初候であり、この日が６月節の小暑となるので、残画については「六月（節）」で矛盾はないとおもわれる。左上の「閉」は節月の六月の午にあたり、干支は壬午となり、上段の「辛巳」の次行の十二直とみられ

平城京跡（右京二条三坊一坪）井戸（SE507）出土漆紙文書

（オモテ面）

廿九日乙亥火執　大小

六月　一日景子水破　［候カ］□鼎内　大□［小カ］

二日丁丑水危

三日戊寅土成

四日己卯土成　小暑□□節［六月カ］温風至候鼎外

［五カ］□日庚辰金□［収カ］　手足甲　大歳後

六日辛巳金開　大歳後天□［恩カ］

七日壬□□閉［午木カ］　大夫豊　大歳後天恩

（ゴチック体は墨痕の残る字、明朝体は復元可能な文字）

出土漆紙文書釈文

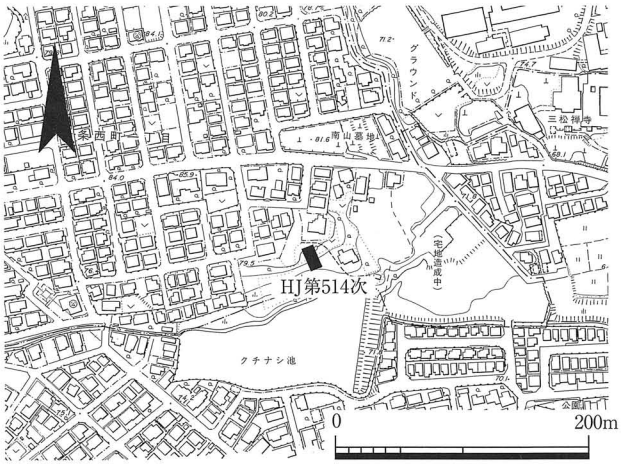
る。この年の小暑は「庚辰」の前日である己卯であることがわかる。また下段に「大歳」という記載がみえるが、儀鳳暦では大歳と小歳が一致する場合に「大小歳」とする以外は大歳を歳とのみ記すことから、この暦は大衍暦以降のものであることもわかる。大衍暦が用いられるようになった天平宝字８（764）年以降、９世紀前半までで、小暑の六十干支が己卯に当たる年をさがしてみると、宝亀９（778）年以外にないことがわかる。また、５月29日の「火執　大小」、６月１日の「景子水破　□鼎」、４日「温風至候」、５日の「大歳後」、６日の「大歳後天」、７日の「大夫豊　大歳後天恩」のいずれもが一致する。よって、この具注暦が宝亀９（778）年５月29日～６月７日ものであることがわかる。しかし本来ならば６月６日にあるはずの「除手足甲」の記載が、１日ずれた６月５日に「手足甲」となり、月建記事が書かれていないなどの間違いがみえる。正倉院に残る具注暦をはじめ各地から出土している具注暦には必ずといってよいほど誤写がある。また、「漆付着面」にも「去就」「権」「位」「□〔変ヵ〕」などの文字が確認できたが、その内容については不明である。これまでに具注暦の出土は20例が知られている（表参照）が、本例は平城京内では初めての出土で、大衍暦としては最古の例となる。

調査所見　今回の調査では条坊に関する遺構は確認できなかった。また、この坪では井戸に比べて、建物跡が少なく、今回検出した柱穴も残存状況が良くない。後世にかなり削平を受け奈良時代の遺構の大半は壊されているものと思われる。（山前智敬）

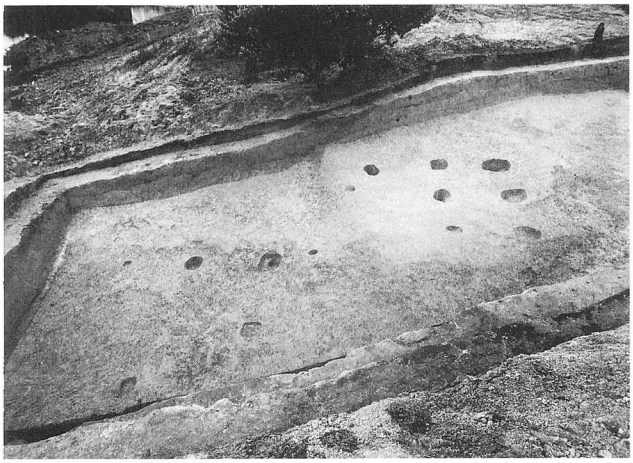
漆紙文書の解読については、名古屋大学大学院文学研究科助教授古尾谷知浩氏ならびに奈良文化財研究所資料調査室にご教示をいただいた。また赤外線写真は奈良文化財研究所中村一郎氏の撮影による。記して感謝します。

3．平城京跡（右京八条四坊八坪）の調査　第514次

調査次数	ＨＪ第514次	調査期間	平成16年5月6日～5月28日
工事内容	宅地造成	調査面積	200㎡
届出者名	株式会社ベース	調査担当者	秋山成人
調査地	奈良市七条西町一丁目1057の一部他		



発掘区位置図　1/6,000



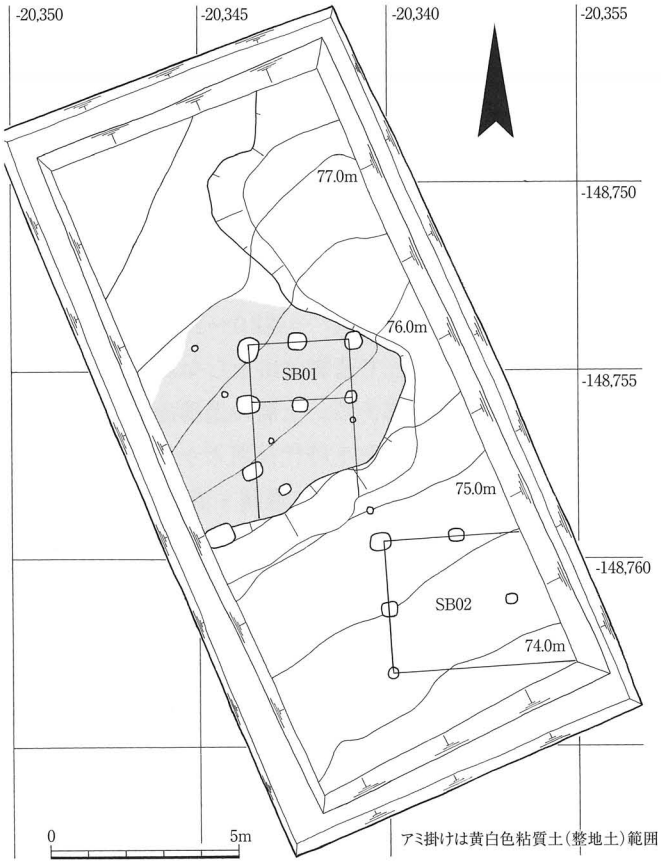
発掘区全景　東から

基本層序　地形は、丘陵尾根南側斜面に位置し、北西から南東方向に下降している。上から黒灰色土(表土)0.2m、灰色土0.25m、灰褐色土0.35m、褐灰色土0.3m、淡黄褐色土0.1m、赤褐色土0.25mと続き発掘区中央に黄白色粘質土（整地土）0.25mと発掘区南半に茶褐色土（整地土）0.25mが部分的に広がり、以下黄灰色土（地山）が堆積する。遺構検出面の標高は、発掘区北西隅で79.6m、発掘区南東隅で74.5mである。

検出遺構　ＳＢ01は、桁行２間（3.3m）以上、梁行２間（3.0m）の南北棟建物と考えられ、北から１間目に間仕切りがある。柱間寸法は、桁行が北から1.5m－1.8m、梁行が1.5m等間である。柱掘形から奈良時代（８世紀）の須恵器甕片、柱痕跡から奈良時代（８世紀）の土師器甕片、須恵器杯片が出土した。ＳＢ02は、発掘区南半で検出した桁行２間（3.3m）以上、梁行２間（3.6m）の東西棟建物である。柱間寸法は桁行が西から1.8m、梁行が1.8m等間である。柱掘形から奈良時代（８世紀）の土師器小片、柱痕跡から奈良時代（８世紀）の須恵器小片が出土した。

出土遺物　出土遺物の多くは、淡黄褐色土から出土しており、奈良時代（８世紀）の土師器甕・杯・杯蓋・高杯・皿、須恵器杯・杯蓋・壷・平瓶が遺物整理箱に４箱分ある。その他に、弥生土器１点。奈良時代（８世紀）の丸・平瓦が１箱ある。

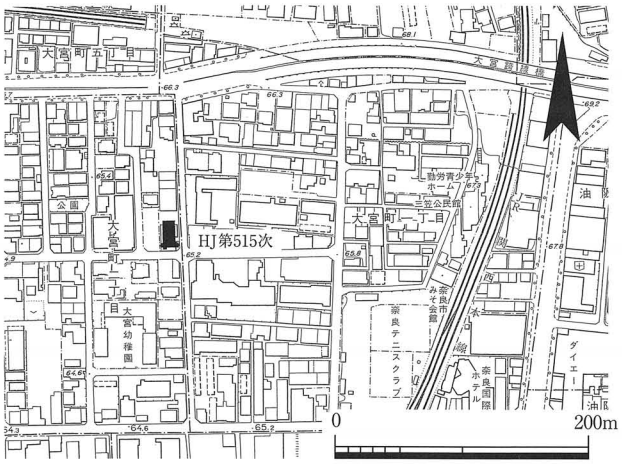
調査所見　調査地は、傾斜面の為、掘立柱建物等の遺構が存在する可能性は低いと思われた。しかし調査の結果、丘陵の傾斜面を整地して建てられた奈良時代の掘立柱建物を２棟検出したことで、当時の土地利用状況を把握する上で重要な資料を得た。



遺構平面図　1/200

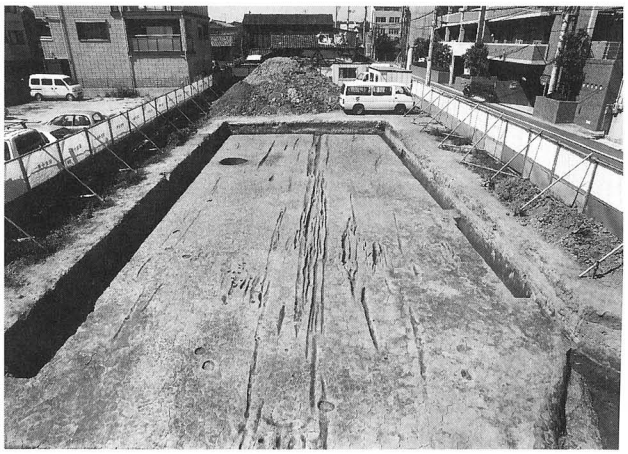
4．油坂遺跡・平城京跡（左京三条東四坊大路）の調査　第515次

調査次数	ＨＪ第515次	調査期間	平成16年7月20日～9月7日
工事内容	芝辻大森線街路整備補助事業	調査面積	239㎡
通知者名	奈良市長	調査担当者	秋山成人
調査地	奈良市大宮町二丁目124－3他		



発掘区位置図　1/6,000

下層遺構検出面（北から）



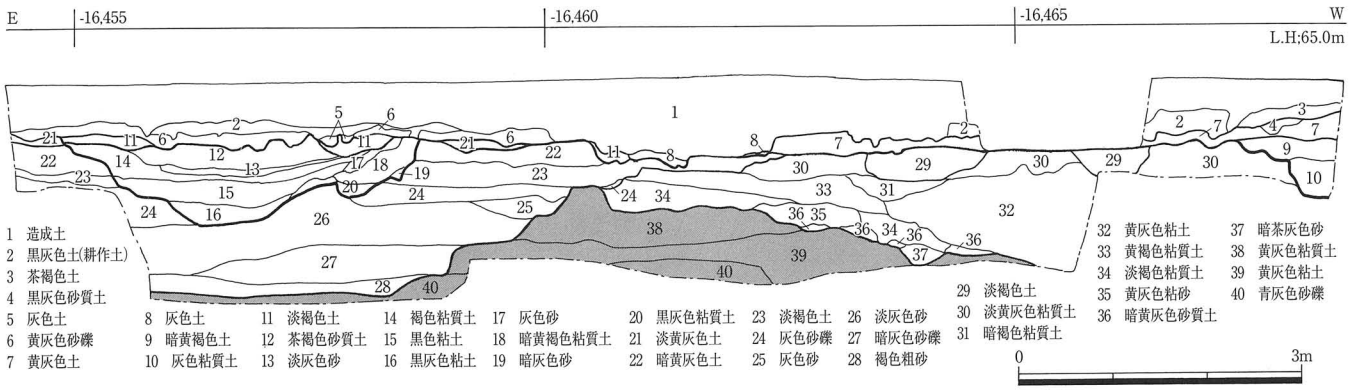
上層遺構検出面（南から）

基本層序　上から造成土、黒灰色土（水田耕土）、茶褐色土、黄灰色砂礫、黄灰色土、褐色土、淡黄灰色土と続き、その下に２条の自然流路の堆積があり、地山の黄灰粘質土、黄灰色粘土、青灰色砂礫に至る。

検出遺構　遺構面は２面あり、それぞれで遺構検出を行った。下層の遺構面は、自然流路埋土の暗黄灰色土及び淡黄灰色粘質土上面で、土坑を検出した。ＳＫ01～04は平面不整形の土坑で、一辺2.0～3.5m、深さ0.22～0.52m。埋土は褐色土で遺物は出土しなかったが、古墳時代前期初頭以前と考える。上層の遺構面は、褐色土及び淡黄灰色土上面で、弥生時代後期末から古墳時代前期初頭の溝・井戸と奈良時代の道路・道路側溝、南西隅拡張部の黄灰色土上面で江戸時代の井戸を検出した。ＳＤ05は北東から南西方向に延びる溝で、長さ3.5m以上、幅2.7m、深さ1.1m。埋土は９層からなり褐色粘質土から弥生時代後期末の甕が出土。ＳＥ06は発掘区北西部で検出した井戸で、径2.6m、深さ1.95m。掘形は平面円形、二段に掘られている。埋土は暗灰色土、古墳時代前期初頭の甕（庄内式）、木片が出土。ＳＦ07（東四坊大路）は検出幅13.2m。発掘区外東へ広がる。路面舗装は無く、大路に平行する南北方向の細い溝が数条みられる。長さ1.5～８m、幅0.1～0.15m、深さ0.03～0.1m。埋土は褐灰色砂で、須恵器甕小片が出土。ＳＤ08は発掘区西南隅拡張部で検出した東四坊大路西側溝で、東肩部を検出した。長さ2.0m、幅1.1m、深さ0.6mまで確認した。埋土は上層が暗黄褐色土、下層が灰色粘質土。下層から須恵器小片が出土した。ＳＥ09は発掘区南西隅拡張区外へ広がる井戸で、掘形と井戸枠抜取り痕跡の一部を検出した。掘形は垂直に掘り込まれている。抜取穴埋土は黒褐色土で、江戸時代の肥前産磁器が出土した。

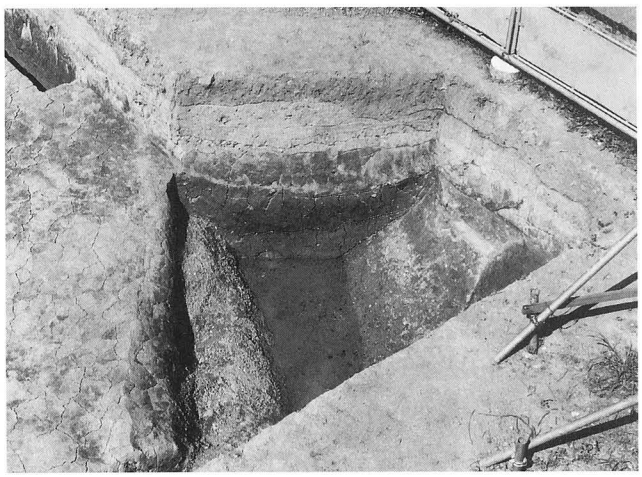
出土遺物　遺物整理箱にして土器類３箱、瓦類１箱と、サヌカイト製石器（削器、石鏃未製品、剥片）４点、木片８点、桃の種２点がある。

調査所見　平城京東四坊大路路面及び西側溝を推定どおり検出した。また、過去の周辺での調査において、弥生時代後期末から古墳時代前期初頭にかけての溝を検出していたが、今回、さらに溝・井戸を検出したことから付近にこの時期の集落が存在する可能性が高くなった。



発掘区南壁土層図　1/80（9・10 SD08、12～20 SD05、21～28 自然流路 b、30～37 自然流路 a）

遺構平面図　1/200

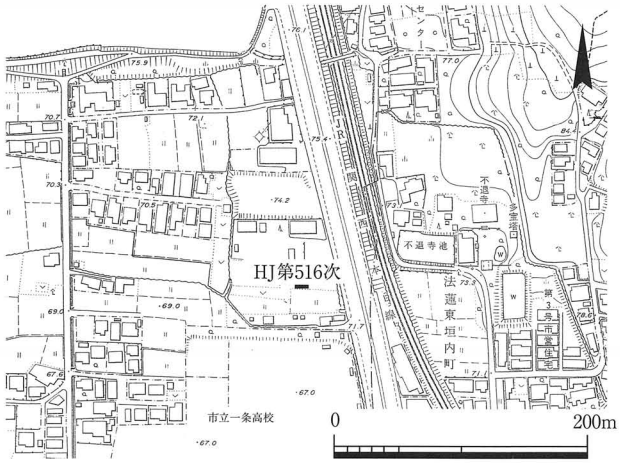


溝 SD05（南西から）

溝 SD08（北から）

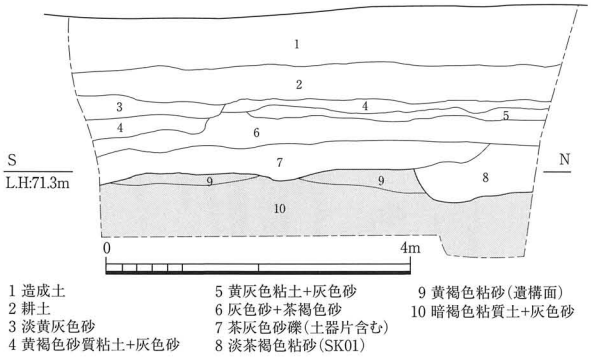
5．平城京跡（左京一条三坊十五坪）の調査　第516次

調査次数	ＨＪ第516次	調査期間	平成16年7月12日～7月13日
工事内容	グループホーム新築	調査面積	37㎡
届出者名	有限会社コクセイ	調査担当者	三好美穂
調査地	奈良市法華寺町1416番１		



発掘区位置図　1/6,000

発掘区全景（東から）



発掘区西壁土層図　1/100

調査地は、左京一条三坊十五坪の南東部に位置する。

左京一条三坊十五坪については、これまでに国道24号線の敷設に伴う調査[1]（国第55・56次調査：昭和44年度）が行われており、十五坪と十六坪は一宅地とみられている。

今回の調査は、建設される建物基礎は浅く、遺構面までに到達しないことから、浄化槽を設置する部分を中心に東西約12m、南北約３mの発掘区を設定して実施した。

基本層序　造成土（0.3～0.4m）の下に耕土（約0.2m）、淡黄灰色砂（0.05m）、灰色砂が混じる黄褐色砂質粘土（0.05m）、灰色砂が混じる黄灰色粘土（約0.2m）、灰色砂が混じる茶褐色砂（約0.2m）、奈良～平安時代の土師器、須恵器片や瓦片を含む茶灰色砂礫（約0.2m）となり、現地表から約1.1～1.2mで黄褐色粘砂、灰色砂が混じる暗褐色粘質土となる。遺構検出は、黄褐色粘砂上面で行った。

検出遺構　発掘区の北西隅で、黄褐色粘砂上面から掘り込まれた土坑ＳＫ01を検出した。ＳＫ01の平面形の大きさは東西1.8m以上、南北1.0m以上で、検出面からの深さは約0.4mある。淡茶褐色粘砂で埋まるが、出土遺物は無く時期は不明である。

出土遺物　大半が黄褐色粘砂の上に堆積する茶灰色砂礫から出土したもので、土師器片（皿Ａ、杯または皿、甕）・須恵器片（杯、壷Ａ蓋、甕）・製塩土器片・丸瓦片・円筒埴輪片などがあるが、いずれも小片で量もわずかである。土師器皿Ａ破片は、器壁が薄く、口縁部が外方へ大きく開いており、９世紀後半～10世紀初頭に位置づけられるものである。

調査所見　今回の調査は小規模なもののため、顕著な遺構の検出はなかったが、遺物包含層に平安時代前半の土器が含まれることが確認できた。

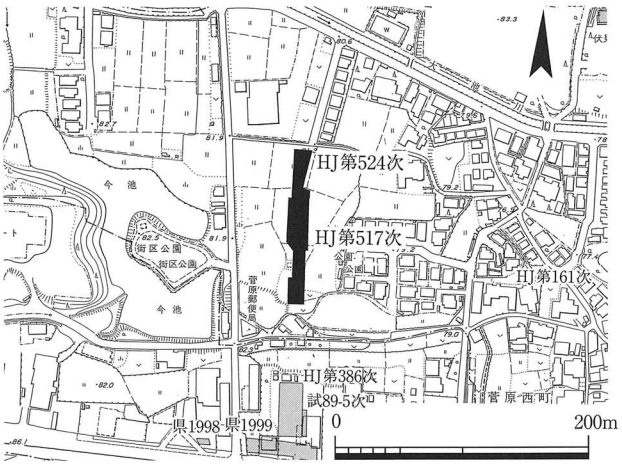
十五・十六坪の遺構は、奈良時代の初頭の遺構と奈良時代末から平安時代初期の遺構からなることがこれまでの調査から指摘されている。

東三坊大路東側溝ＳＤ650からの出土した大量の平安時代の遺物や南接する十三・十四坪の平安時代の建物群や井戸などの遺構とともに今回の調査も古代の奈良坂とされる東三坊大路沿いが平城廃都後も盛んに利用されたことをうかがわせる。

1）奈良国立文化財研究所「平城宮発掘調査報告Ⅵ」1975

6．平城京跡（二条大路・右京三条四坊九坪）の調査　第517・524次

調査次数	ＨＪ第517・524次	調査期間	517次　平成16年7月26日～12月28日
工事内容	大和中央道街路整備臨時交付金事業（菅原工区）		524次　平成17年1月6日～3月11日
通知者名	奈良市長	調査面積	517次　1,100㎡　524次　458㎡
調査地	奈良市菅原町639－2他	調査担当者	久保清子　山前智敬



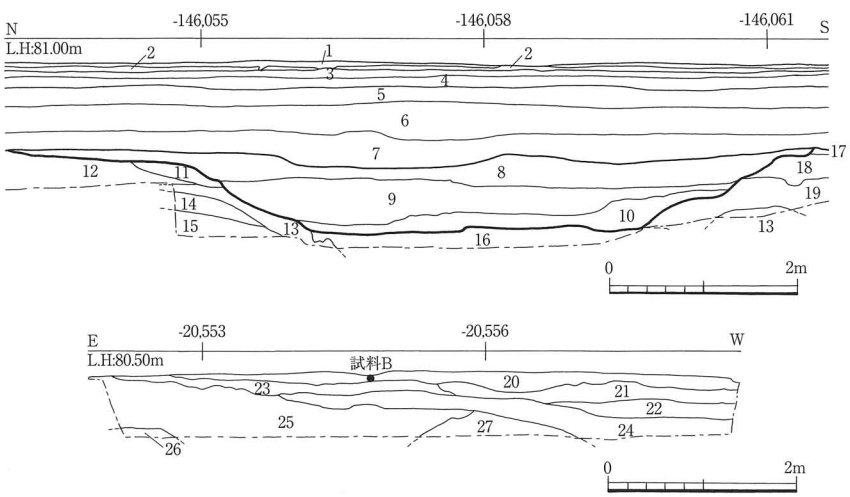
発掘区位置図　1/6,000

調査地は、平城京の条坊復原では、右京三条四坊九坪の西辺及び二条大路が想定される地点にあたり、北と南にある段丘にはさまれた、西から東へ緩やかに下がる沖積地上に位置している。また、調査地から南と西側に向かっては一段低い谷地形となっており、調査地西側の今池はこの谷を堰き止めて造られている。

基本層序　発掘区の層序は、この旧地形の影響もあり、一定ではない。北から順に概述すると、第524次調査発掘区では、上から耕土、灰色砂質土、橙灰色砂質土、黄灰褐色砂質土、13世紀の水田耕土である灰黄色粘土と続き、地表下約0.6mで黄褐色粘土に達する。第517次調査北発掘区の北西部では、上から水田耕土、灰色砂質土、明橙灰色粘土、橙灰色砂質土、黄灰褐色砂質土と続き、地表下約0.5mで黄灰色砂に達する。北東部では、黄灰褐色砂質土の下には、13世紀の水田耕土である灰黄色砂質土（0.2～0.3m）と灰黄色粘土（0.2～0.3m）が堆積し、地表下約1.0mで黄灰色砂に達する。北発掘区南半から南発掘区北端にかけては、上から耕土、灰色砂質土、橙灰色砂質土、黄灰褐色砂質土、灰褐色砂質土と続き、地表下約0.5mで縄文時代の石器、土器、炭化物を包含する黄灰色シルト層に達する。一方、南発掘区では、鎌倉時代以降の水田造成による削平を受けているため、耕土、灰色砂質土の直下、地表下約0.3mで淡灰色砂と茶灰色粘土の混合土、黄灰色シルトもしくは黄灰色砂等の旧河川堆積土に達する。南発掘区西半中央付近では、耕土直下で、旧河川の下層にあたる黄灰色砂礫層に達する。一方、発掘区南端は、調査地の南側にある谷筋に向かって下がる斜面上にあたるため、13～18世紀の遺物を包含する埋土が南に向かって厚く堆積している。

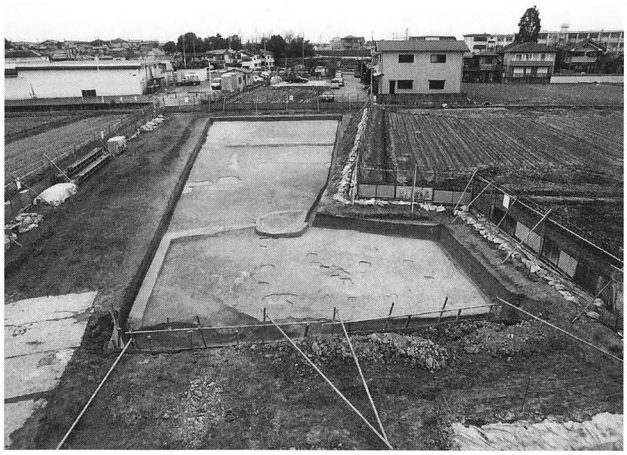
遺構検出は、第524次調査発掘区では、黄褐色粘土上面（標高80.4～80.6m）、第517次調査北発掘区では、黄灰色砂及び黄灰色シルト上面（北西～南半の標高80.3m、北東の標高79.8m）、南発掘区では、旧河川埋土上面または黄灰色砂礫上面（標高80.2～80.5m）で行った。

検出遺構　古墳時代以降の素掘り溝３条、土坑３基、奈良時代の掘立柱建物１棟、掘立柱列２条、土坑１基、



1 黒灰色土（耕土）
2 灰色砂質土
3 明橙灰色粘質土
4 橙灰色砂質土
5 黄灰褐色砂質土
6 灰黄色砂質土（炭・小石・Mn含む）
7 灰褐色粘質土と黄灰色粘土の混合土（炭含む）
8 灰色粘土（SD12埋土）
9 灰色粘土と灰色砂の混合土（炭含む・SD12埋土）
10 灰色粘土と灰色粗砂の混合土（SD12埋土）
11 黄灰色砂
12 黄灰色粘土
13 青灰色粘土
14 青灰色シルト
15 青灰色シルト（緑褐色斑文入る）
16 灰色砂（湧水層）
17 黄灰色粘土と黄灰色細砂の混合土
18 黄灰色粘土と灰褐色砂の混合土（石器・土器・炭含む）
19 青灰色シルトと灰色砂の混合土（炭含む）
20 黄灰色粘土（試料B採取層）
21 黄灰色シルトと褐色砂の混合土
22 褐色細砂
23 淡黄灰色シルト
24 淡灰色シルト（橙色斑文入る）
25 灰茶色砂
26 黄白色粘土
27 灰黄色砂（橙色斑文入る）

（上）HJ 第 517 次調査北発掘区東壁土層図、（下）同南発掘区分析試料Ｂ採取地点土層図　1/80

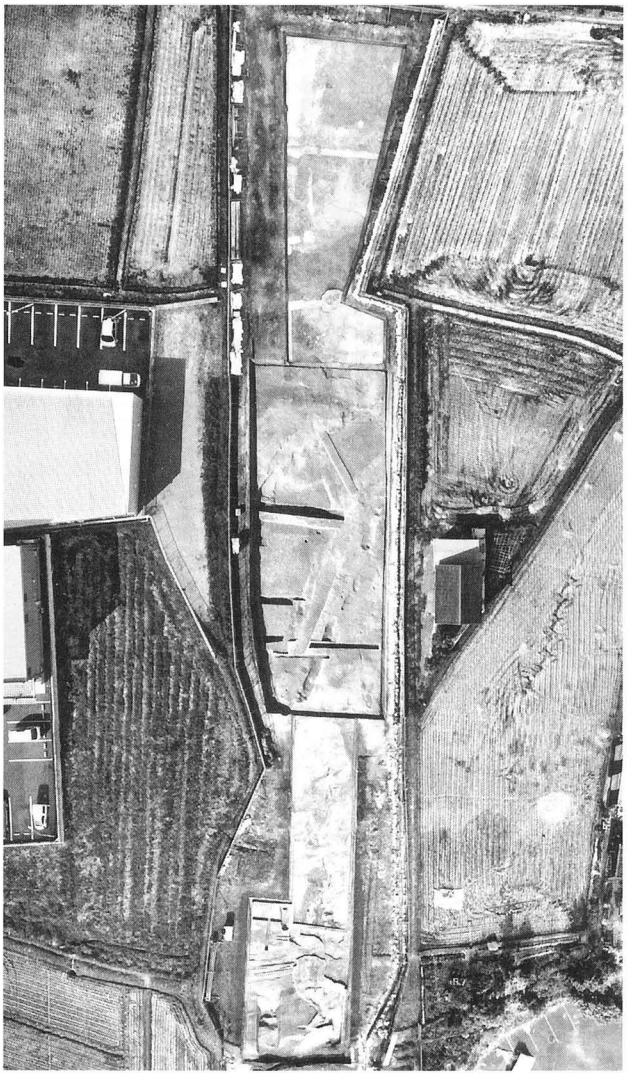


ＨＪ第524次調査　発掘区全景（南から）

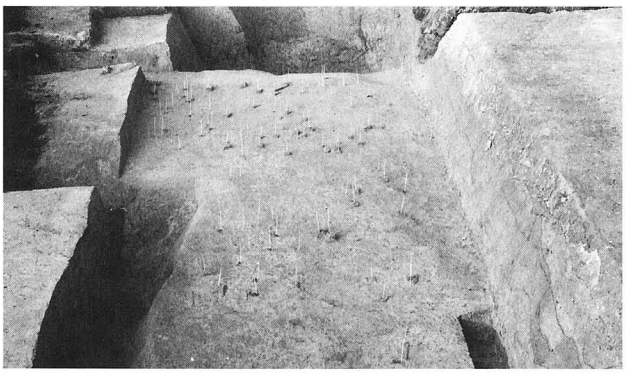
ＨＪ第517次調査　北発掘区全景（南から）

ＨＪ第517次調査　南発掘区全景（北から）

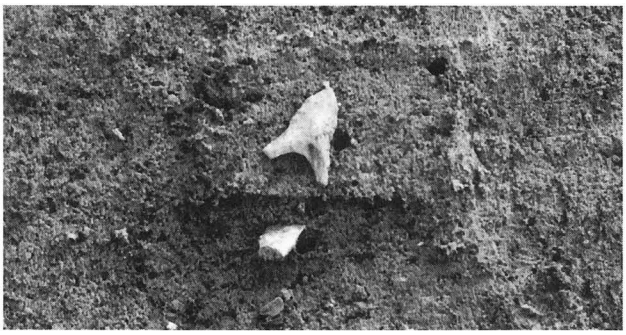
ＨＪ第517次調査　SD15全景（東から）



ＨＪ第517・524次調査　発掘区全景（上が北）



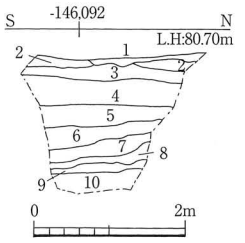
ＨＪ第517次調査　南発掘区下層調査区　石器出土状態（南から）



ＨＪ第517次調査　南発掘区下層調査区　石器出土状態（南から）

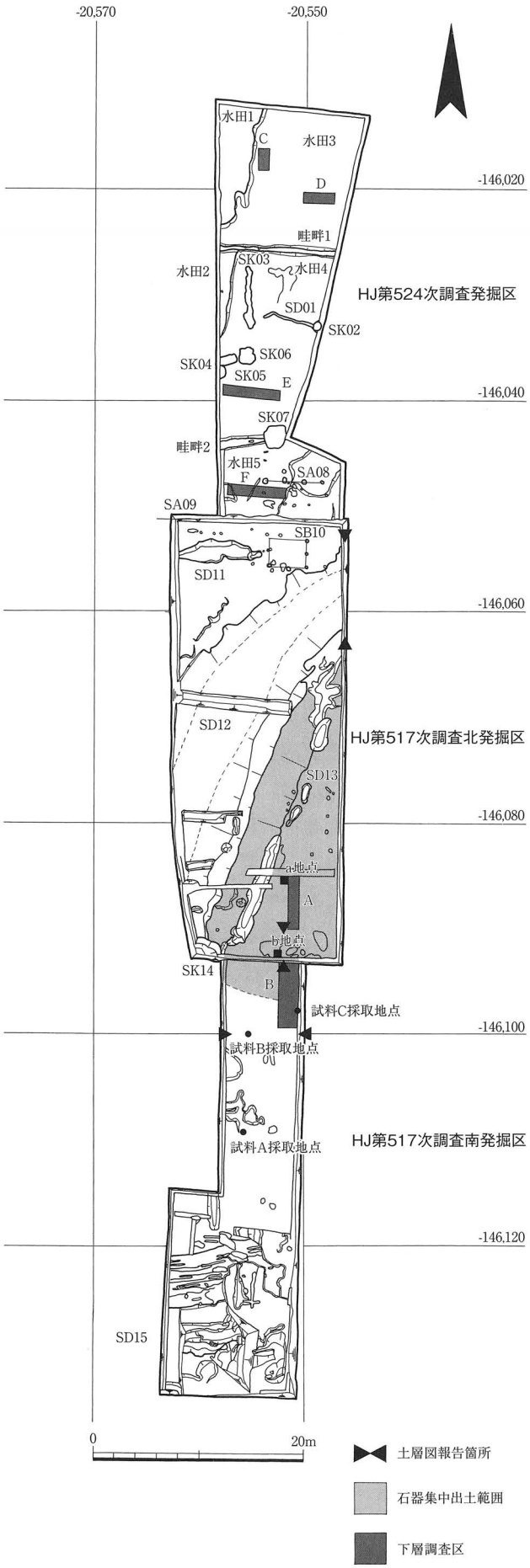
流路１条、鎌倉時代の水田５面、畦畔２条、室町時代以降の土坑１基、時期不明の土坑３基がある。

二条大路想定箇所である第524次調査区及び第517次調査北発掘区北半では、黄灰褐色砂質土下で13世紀の水田５面を検出した。西側の水田１（東西3.5m以上、南北12.0m以上）及び水田２と東側水田３（東西10.0m以上、南北13.0m以上）及び水田４（東西9.0m以上、南北18.0m）間には段差があり、東側水田の方が低い。東西水田間の畦畔は削平されて残っていない。また、南北の水田間（水田１・３と水田２・４間及び水田５（東西11.0m以上、南北7.0m以上）間には、地山を削りだして造られた畦畔１・２の基底部（幅0.6～0.9m、残存高0.1～0.2m）が残っていた。検出面から水田面までの深さは0.1～0.3mで、水田面においては、耕作に使用されたとみられる牛の足跡を多数確認している。水田耕土である灰黄色粘土からは縄文～弥生時代の石器、８世紀の須恵器・土師器・製塩土器・土製品・瓦磚、12～13世紀の瓦器・土師器・須恵器・輸入陶磁器・焼締陶器、軒丸瓦（巴文）、銭貨（天禧通寶）、時期不明鞴羽口・炉壁・鉄滓が出土した。なお、二条大路は、右京部分では４地点（国第143・133次調査・市ＨＪ第169・173・184・196－１・２調査）において南側溝が検出されており、その成果から、畦畔２と南側溝想定箇所はほぼ一致することがわかった。次に水田４下において、一辺0.5～5.9m、検出面からの深さ0.1～0.2mの平面が不整形な土坑ＳＫ02～06及び幅0.2～0.3m、検出面からの深さ0.1mの溝ＳＤ01を検出した。８世紀の須恵器が出土したＳＫ05以外は、土師器、須恵器小片のみ出土もしくは出土遺物がないため明確な時期及び性格は不明である。重複関係から、ＳＤ01はＳＫ02よりも古い。ＳＫ07は一辺2.0～2.1m、検出面からの深さ0.2mの平面が不整形な土坑で、畦畔２の上面から掘られている。畦畔２の南側、九坪北端にあたる地点では水田５下で、東西３間（5.4m：1.8m等間）の掘立柱列ＳＡ08、東西１間（1.8m）以上の掘立柱列ＳＡ09、その南側で幅1.0～3.0m、検出面からの深さ0.1mの東西方向の溝ＳＤ11、桁行２間（3.6m）、梁行２間（2.7m）の東西棟掘立柱建物ＳＢ10を検出した。これらは、奈良時代のものと考えられる。さらにその南側では、幅



1 現代攪乱土
2 黄灰色砂質土（石器・炭含む）
3 黄灰色シルト（石器含む）
4 灰橙色シルト（石器含む）
5 灰黄色粘土（細砂・石器含む）
6 淡灰色粘土（橙色斑文入る・石器含む）
7 灰黄色粘土（橙色斑文入る）
8 淡灰色粘土と灰色シルトの混合土
9 灰黄色細砂
10 暗灰色粘土（石器含む）

ＨＪ第517次調査　北発掘区ｂ地点土層図　1/100



遺構平面図　1/600

1.0～3.0m、検出面からの深さ1.0～1.3mの流路ＳＤ12が谷地形に沿って北東から南西に流れる。上層埋土からは８世紀の須恵器・土師器、13世紀の瓦器・須恵器・土師器・輸入陶磁器が、下層埋土からは縄文～弥生時代の石器、８世紀の須恵器・土師器・製塩土器・土製品・瓦磚が出土した。ＳＤ12南側では、縄文時代の遺物を包含する黄灰色シルト上面で、幅0.5～1.5m、検出面からの深さ0.1～0.4mの断面形Ｕ字形の溝ＳＤ13と径2.0m以上、検出面からの深さ0.5mの平面が不整円形の土坑ＳＫ14を検出した。ＳＤ13からは８世紀の須恵器、ＳＫ14からは縄文～弥生時代の石器、時期不明の須恵器が出土した。第517次南発掘区南端においては、13～18世紀の土器、陶磁器を包含する谷の北斜面の堆積土の下で、幅3.0m以上、検出面からの深さ1.0mの東西方向の溝ＳＤ15を検出した。溝の東半は13世紀以降に削平されているため残っていない。上層埋土からは６世紀後半～７世紀前半、８世紀の須恵器・土師器が、下層埋土からは６世紀後半～７世紀前半の土師器が出土した。

下層調査　今回第517次北発掘区南半部での調査中に、遺構埋土及び遺構検出面である黄灰色シルト層から多数のサヌカイト製石器が出土したことから、発掘区内を６カ所掘り下げ、土層観察を行った。その結果、遺構は見つからなかったものの、ＳＤ12の南側の広範囲において、石器、縄文土器片、炭化物を包含する層が複数層にわたって堆積することが判明した。そのため、特に石器が集中する地点において２箇所、石器と土器の出土位置を記録しながら、包含層の掘削作業を行った。

第517次北発掘区Ａ地点では、東西１m、南北５mの範囲を、第１層灰褐色砂質土と橙灰色粘土の混合土（0.1～0.15m）、第２層黄灰色粘土と灰色砂の混合土（0.2m）までを掘削した結果、サヌカイト製石鏃20点、楔形石器４点、石核１点、加工痕有剥片６点、剥片119点、砕片1,513点、チャート製砕片１点、計1,664点、縄文土器破片30点が出土した。

南発掘区Ｂ地点では、東西２m、南北６mの範囲を、第２層黄灰色砂質土（0.1～0.15m）、第３層黄灰色シルト（0.2m）（掲載下層土層図対応）までを掘削した結果、サヌカイト製石鏃32点、楔形石器13点、削器１点、石核５点、加工痕有剥片12点、使用痕有剥片１点、剥片149点、砕片708点、チャート製砕片２点、計923点、土器破片340点が出土した。さらに下の遺物包含状態を確認するため、ａ、ｂ２地点で堆積土をサンプル採取し、篩を用いて水洗選別した結果、ａ地点では上から５層目まで（検出面下1.0m）、ｂ地点では第２～６・10層（掲載下層土層図対応、検出面下1.3m）までは確実にサヌカイト製石器が含まれることが判明した。

第524次発掘区内においてもＣ～Ｆの４地点に試掘坑を設けて、土層観察を実施したが、鎌倉時代の水田面である黄褐色粘土の下には、旧河川堆積層があるのみで、遺構及び遺物包含層はなかった。

出土遺物　遺構及び遺物包含層から縄文土器が遺物整理箱で１箱、弥生土器、古墳時代の土師器・須恵器・埴輪、奈良～平安時代の土師器・須恵器・土製品・灰釉陶器、鎌倉時代の土師器・須恵器・瓦器・焼締陶器、輸入陶磁器、江戸時代の国産陶磁器が合わせて11箱、奈良時代及び平安時代以降の瓦磚類が６箱、銭貨４点（天禧通寶：北宋・初鋳1017年１点、、銭文不明３点）、時期不明の金属製品・鋳造関連遺物１／３箱、縄文・弥生時代石器3411点、弥生時代の石包丁１点、時期不明の砥石４点等が出土した。

調査所見　調査結果から、調査地の旧地形が起伏に富んでおり、浸食と堆積による地形の変化がみられることが判明した。南北の段丘に挟まれた谷筋にあたるＳＤ12南側付近には、周囲から土砂が流れ込んだ結果、遺物包含層が形成されたと考えられる。この遺物包含層からは、縄文時代の剥片及び砕片を中心とする多数のサヌカイト製石器及び土器の破片が出土したことから、調査地付近に石器製作地があった可能性が考えられる。

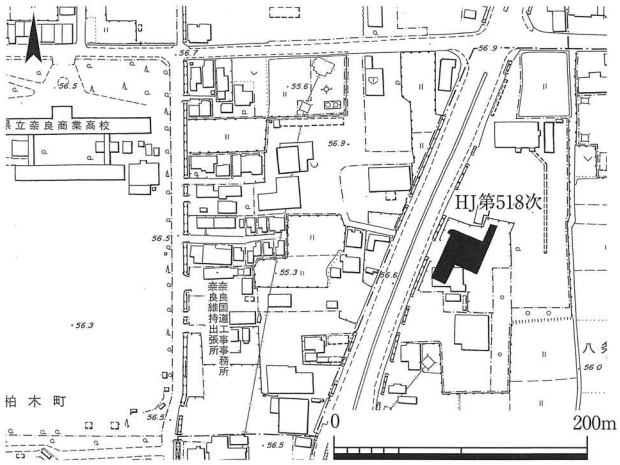
また、今回南発掘区で確認した旧河川の３地点において埋土最上層に含まれる炭化物を採取し、放射性炭素年代測定を実施したところ、試料ＡとＢは補正^{14}C年代2,010±40（年B.P.）、暦年代（calB.C.）10年、試料Ｃは補正^{14}C年代1,860±40（年B.P.）、暦年代（calA.D.）130年という結果を得た。このため、弥生時代前半には、ほぼ埋没していたとみられる。

一方、奈良時代の九坪の様相については、南隣の十坪（市試掘第89－５次・市ＨＪ第386次・県2000年度調査）では、奈良から平安時代にかけての建物や井戸等が複数見つかっているのに対して、宅地利用に関連する同様の遺構はほとんど見つかっていない。また、二条大路に関する遺構も見つからなかった。その理由としては、今回の調査地が坪の西端であるというだけではなく、地形が起伏に富んでいるため、鎌倉時代以降に水田造成によって遺構面が削平されたためと考えられる。

なお、永仁六年（1298）『西大寺三宝料田寄進目録』には、右京三条四坊九坪について「字法陀寺」、右京二条四坊十三坪について「南大路也、法世寺」という注記がある。現在も調査地一帯の字名が「法専寺」であり、付近にかつて寺院が存在したと推定されるが、今回の調査では、寺院に関わる遺構・遺物の検出はない。（久保清子）

7. 平城京跡（左京六条一坊十三坪）の調査 第518次

調査次数	HJ 第518次	調査期間	平成16年8月23日～10月28日
工事内容	店舗新築	調査面積	900㎡
届出者名	奈良トヨタ自動車株式会社	調査担当者	武田和哉
調査地	奈良市八条五丁目412－4他		

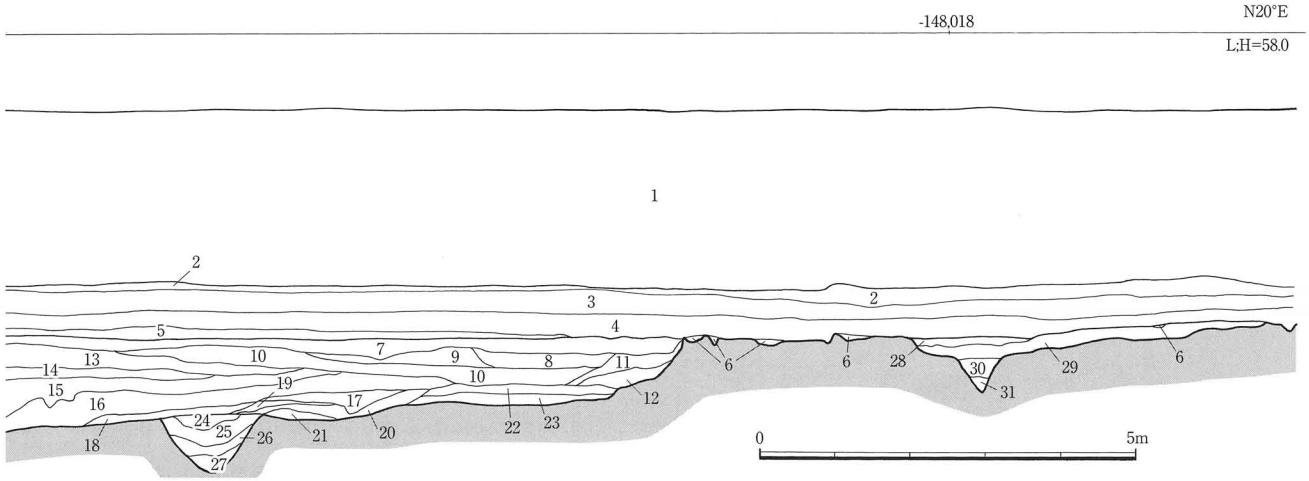


発掘区位置図　1/6,000

当坪内では過去に２例の調査例があり、このうち奈良大学が昭和60年度に実施した発掘調査区は、本調査地の敷地内南東側に隣接している。

基本層序　発掘区内では、上から順に、造成土（約1.4～1.7m）があり、ついで黒褐色土（耕土：約0.1m）、暗褐色粘土（床土:約0.3m）、暗茶褐色粘土（0.3～0.4m）と続き、現地表下約2.1～2.5mで茶褐色粘土または暗褐色粘土の地山に至る。奈良から平安時代の遺構面は、地山の上面であり、標高は55.6～56.0mである。

検出遺構　発掘区内では、奈良時代以前の溝、奈良～平安時代前半の建物８棟と溝２条、室町時代に埋没した河川等を検出した。主要な遺構のデータは、奈良大学が



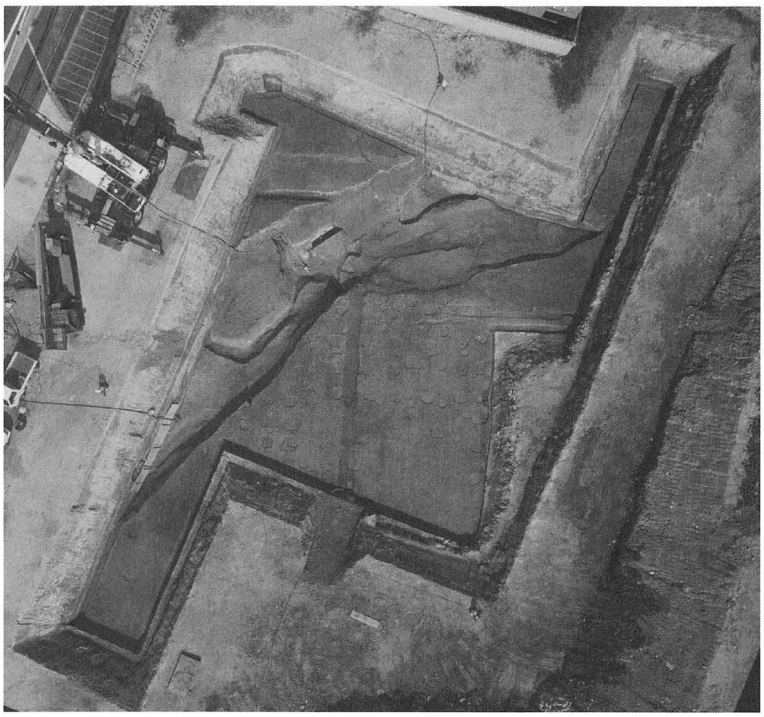
1：造成土　2：黒褐色土〔耕土〕　3：暗褐色粘土〔床土〕　4：暗茶褐色土〔包含層〕　5：暗灰褐色土〔包含層〕　6：茶灰色土〔素掘溝埋土〕　7：暗茶褐色土〔やや砂っぽい〕8：暗灰色粘砂　9：茶灰色粗砂　10：暗茶灰色砂　11：茶灰色砂　12：暗灰色粘土　13：暗褐色粘砂土　14：淡茶灰色砂　15：黒褐色粘砂＋灰色砂〔やや褐色がかる〕16：淡茶灰色砂　17：淡茶灰色砂質土　18：黒褐色粘土　19：淡茶灰色砂　20：暗褐色粘質土　21：茶灰色砂　22：灰褐色粘土　23：灰褐色粘土　24：暗灰褐色粘細砂　25：暗緑灰色粘細砂　26：暗緑褐色粘細砂　27：暗緑褐色粗砂　28：茶褐色粘土　29：暗茶褐色粘土　30：暗茶褐色粘土：31：暗茶褐色粘土　32：暗褐色粘土〔地山〕【７～23：河川12埋土】【24～27：ＳＤ01埋土】

発掘区西壁土層図（一部）1/100

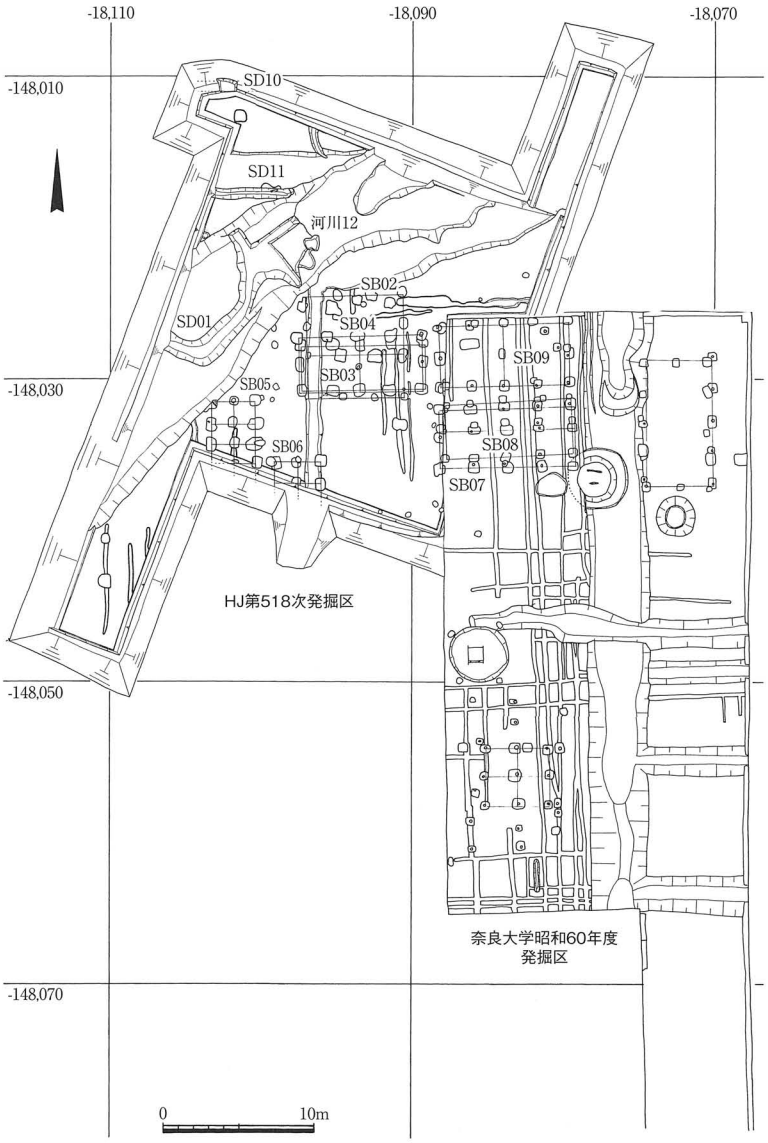
検出遺構一覧表

建物遺構番号	棟方向	規模（間） 桁行×梁行	桁行全長 (m)	梁行全長 (m)	柱間寸法（m） 桁行	 梁行	廂の出 (m)	備考
ＳＢ02	東西	3×2	6.3	4.2	2.1等間	2.1等間	南1.8	
ＳＢ03	東西	4×2	8.4	3.0	2.1等間	1.5等間		間仕切有
ＳＢ04	東西	4×2	8.4	3.6	2.1等間	1.8等間		ＳＢ03より新しい
ＳＢ05	南北	3以上×2	4.0以上	3.0	2.0等間	1.5等間		総柱建物
ＳＢ06	南北	1以上×2	1.5以上	3.0	1.5等間	1.5等間		総柱建物
ＳＢ07	東西	4×1	8.4	2.4	2.1等間	2.4	北1.6	
ＳＢ08	東西	4×1	8.4	2.1	2.1等間	2.1	北1.5	ＳＢ07より新しい
ＳＢ09	東西	4×2	8.4	4.2	2.1等間	2.1等間		間仕切有

遺構番号	掘形 平面形	 平面規模（m）	 深さ（m）	主な出土遺物	備考
ＳＤ01	不整形	長さ9以上、幅1.2～6以上	0.6～1.3	土器細片（時期不明）	遺構面下層より掘り込まれる
ＳＤ10	東西溝	長さ１以上、幅0.9～1	0.25	奈良～平安時代前半須恵器・土師器	推定六条条間南小路北側溝
ＳＤ11	東西溝	長さ5以上、幅2.6～2.8	0.7	奈良～平安時代前半須恵器・土師器	推定六条条間南小路南側溝
河川12	斜行	長さ38以上、幅6～9	1.4～1.8	弥生、奈良～室町時代の土器・陶器等	サルノコシカケ遺体出土



発掘区垂直写真　上が北



遺構平面図　1/600

昭和60年度に実施した東南隣接地の発掘区の調査所見とも併せ、前頁の遺構表にまとめた。

以下、検出遺構の概要について述べる。ＳＤ01は発掘区の西辺で検出した溝。遺構検出作業を実施した奈良～平安時代の遺構面の下約0.6m付近より掘り込まれており、層位の状況から、奈良時代以前の遺構と考えられる。

奈良～平安時代初期の遺構に関しては、東西棟掘立柱建物が５棟、南北棟掘立柱建物が３棟、それぞれ確認された。このうち、倉庫等に想定される総柱建物は２棟ある。このほか、発掘区北西部で検出したＳＤ10・11は、遺構の位置や出土遺物等からみて、それぞれ六条条間南小路の北・南側溝に相当すると考えられる。ＳＤ10・11の位置は下記の通りである。

SD10溝心（X = −148,010.6m　Y = −18,102.0m）
SD11溝心（X = −148,017.7m　Y = −18,102.0m）

また、河川12は発掘区北東から西辺中央付近にかけて検出した。遺構の重複関係からみて、奈良～平安時代初期の掘立柱建物の柱穴より新しい。北東から南西方向へ流れていた模様。埋土の状況から、概ね２～３時期の河床の痕跡が確認され、埋土上層には16世紀の瓦質土器が含まれる。

出土遺物　遺物整理箱で13箱分が出土した。その内訳は、弥生土器片、古墳時代の円筒埴輪片、奈良～平安時代前半の須恵器片・土師器片・瓦片・墨書土器片（「木」５点、「東」１点）・円面硯片・線刻土器片・製塩土器片・竈片・土馬片、鎌倉時代の瓦器片、室町時代の瓦質土器片、時期不明の土製品（球状）・植物遺体（ドングリ・サルノコシカケ等）・石器（サヌカイト剥片）、金属片（鉄）等がある。出土遺物の大半は、奈良～平安時代の土師器片・須恵器片である。

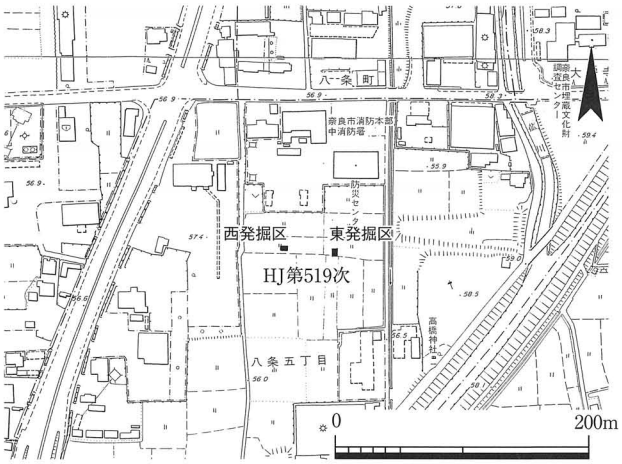
調査所見　奈良～平安時代前半の建物遺構については、遺構の重複状況等から、概ね３時期程度の変遷が確認できる。加えて、規模・構造的に同じか近似している建物を、同じ場所において建替えしている傾向が顕著に見受けられ、当坪内の土地利用に関する大きな特徴として指摘できる。

以上の点に着目するならば、当坪内では奈良～平安時代初期を通じて、敷地の区画割などに大きな変化が生じないような、比較的安定した土地利用が展開されていた可能性が高い。

本発掘区の東南部に隣接する奈良大学発掘区（昭和60年度実施）の成果に関しましては、奈良大学文学部のご厚意により提供を受け、本報告中にて使用させて頂きました。ここに記して謝意を表します。

8．平城京跡（左京六条二坊四坪）の調査　第519次

調査次数	ＨＪ第519次	調査期間	平成16年8月26日～8月28日
工事内容	宅地造成	調査面積	59.5㎡
届出者名	有限会社シーピーコーポレーション	調査担当者	三好美穂　宮﨑正裕
調査地	奈良市八条五丁目418－1の一部		



発掘区位置図 1/ 6,000

西発掘区全景（東から）

東発掘区全景（北から）

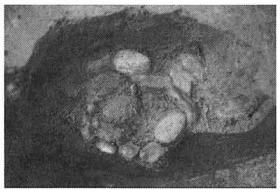
調査地は六条二坊四坪の北辺を占め、宅地造成に伴う事前調査として道路予定部分に一辺５ｍの発掘区を東西二か所に設定して行った。

基本層序　発掘区は造成土の下に耕土、床土とみられる灰色粘砂があり、現地表から約1.2ｍで橙茶色粘砂の地山（標高約55.1ｍ）となる。西発掘区では造成土、耕土、床土の下に灰色砂が混じる灰色粘土（約0.2ｍ）、淡青灰色粘土（約0.1ｍ）の堆積があり、現地表から約1.2～1.35ｍで黄褐色粘土の地山（標高約55ｍ）となる。

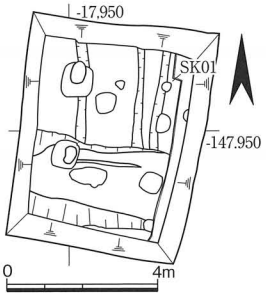
検出遺構　西発掘区では遺構は検出できなかったが、東発掘区では地山の上面で奈良時代の土坑との柱穴２個を検出した。ＳＫ01は平面楕円形（東西0.1ｍ、南北0.2ｍ）、深さ約0.2ｍのＵ字形に掘られた底に２㎝大の小礫が敷かれ、８世紀後半の土師器椀Ａが正位置に置かれていた。地鎮遺構かとも考えられるが性格は不明。柱穴は一辺約0.8ｍ、深さは北側が約0.8ｍあるが、南側は約0.2ｍと浅い。南北に並び、柱間は2.1ｍを測る。

出土遺物　大半が東発掘区の灰色粘砂から出土したもので、弥生時代以降の砂岩製敲石片、８世紀の土師器片（杯、皿、椀、壷、甕）・須恵器片（杯、杯蓋、皿、壷、甕）・平瓦、丸瓦片などが少量ある。

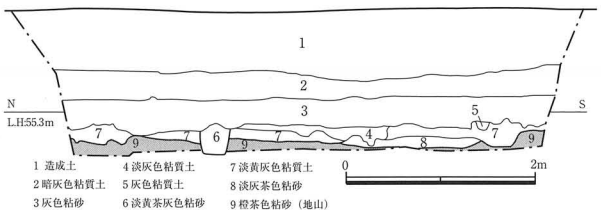
調査所見　今回の調査は、左京六条二坊四坪における初例であり、東発掘区で奈良時代の遺構面が良好に残っていることが確認できた。また、弥生時代と見られる遺物の出土等新たな知見を得ることができた。（三好美穂）



SK01 検出状態（西から）



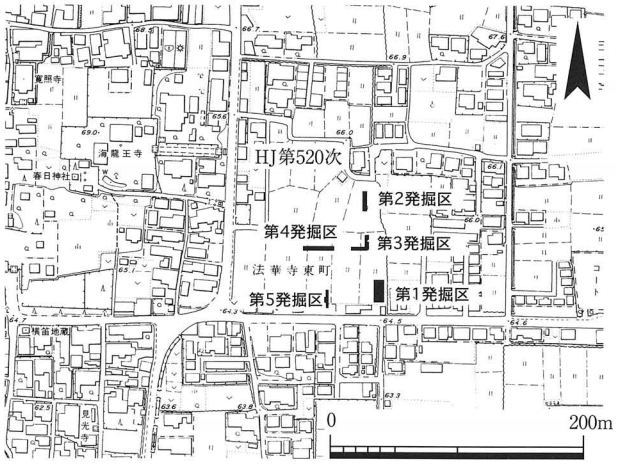
東発掘区遺構平面図　1/200



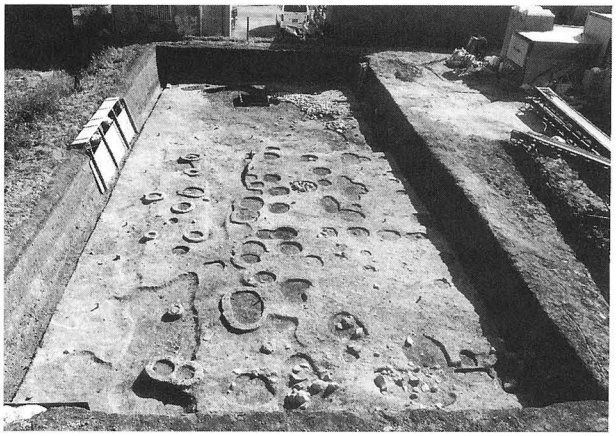
東発掘区東壁土層図　1/125

9．法華寺垣内古墳・平城京跡（左京一条三坊四・五坪）の調査　第520次

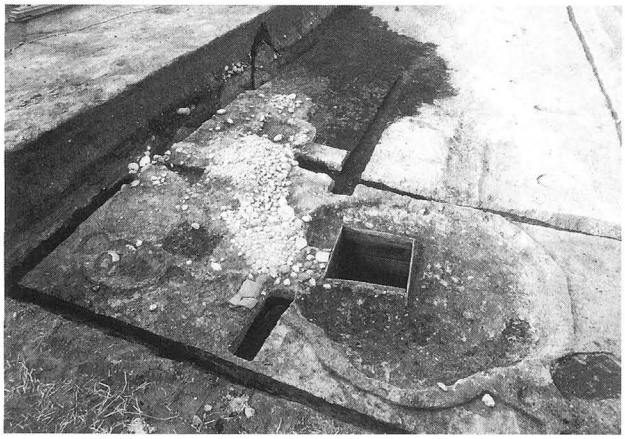
調査次数	ＨＪ第520次	調査期間	平成16年9月21日～12月９日
工事内容	宅地造成	調査面積	535㎡
届出者名	和光建設株式会社	調査担当者	池田裕英　武田和哉　久保邦江
調査地	奈良市法華寺町1241－1他		



発掘区位置図　1/6,000



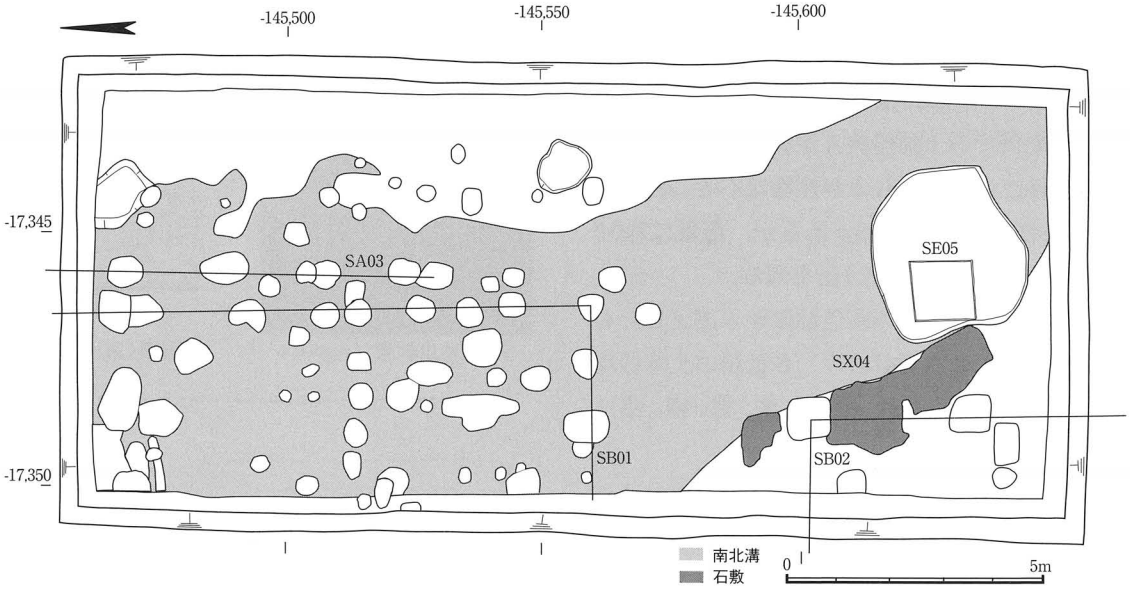
第１発掘区全景（北から）



第１発掘区 SX04・SE05（南から）

本調査は平城京の条坊復原では左京一条三坊四・五坪にあたる。宅地造成に伴う事前の発掘調査で、道路や調整池になる部分に第１から第５までの５つの発掘区を設けて調査を実施した。結果的に平城京の遺構だけではなく、部分的にではあるが葺石と周濠を検出し、削平された古墳を見つけたことは大きな成果であった。

基本層序　５つの発掘区の層序は各々異なるが、基本的にはいずれももとは水田で、造成土の下に黒灰色土（耕土）、灰白色砂質土（床土）、灰褐色土と続き、現地表下0.3～0.6ｍで茶黄色土の地山にいたる。遺構は概ねこの



第１発掘区遺構平面図　S=1/150

地山上面で検出した。地山上面の標高は64.9～65.2mで、西から東に下る旧地形であったことがわかる。

検出遺構　調査では、古墳時代から鎌倉時代までの遺構を検出している。以下でそれらについて概述する。

第１発掘区　掘立柱建物２棟（ＳＢ01・02）、掘立柱列（ＳＡ03）を検出した。柱間はＳＢ01が南北2.1m等間、東西が2.4m、ＳＢ02は南北2.7mである。柱穴から平安時代前半の土器が出土したものもあり、後述する平安時代の井戸（ＳＥ05）と同時期の建物もあると思われる。柱穴を多数検出したが、組み合うものは少ない。ＳＸ04は幅約５m、長さ18m以上の南北溝と東西2.8m、南北約５mの範囲の石敷き遺構からなる。石敷き遺構は西から東へ緩やかに下る。東辺にやや大きめの石を用い、あとは小ぶりの石を用いる。後述する第４・第５発掘区の葺石とは傾斜角や石の大きさが異なることから、古墳の葺石を再利用し、置き直したものと思われる。石敷き上面や石と石との間から出土した土器から奈良～平安時代前半の遺構と考えられる。溝埋土の珪藻分析を行った結果、溝には常に水が溜まっていたわけではなく、部分的あるいは時期によって水が流れたり、滞水する状況であったようである。古墳の葺石や周濠を利用した遺構と思われるが、性格は不明である。ＳＥ05は平安時代の井戸である。井戸枠は横板組みで、一辺1.1m四方、深さ2.4mである。枠材の一部に断面が凸形をした材があり、屋根材が転用されているようである[1)]。掘形から９世紀の、枠内から10世紀の遺物が出土した。石の置き方から一時期ＳＸ04と併存していたと考えられる。

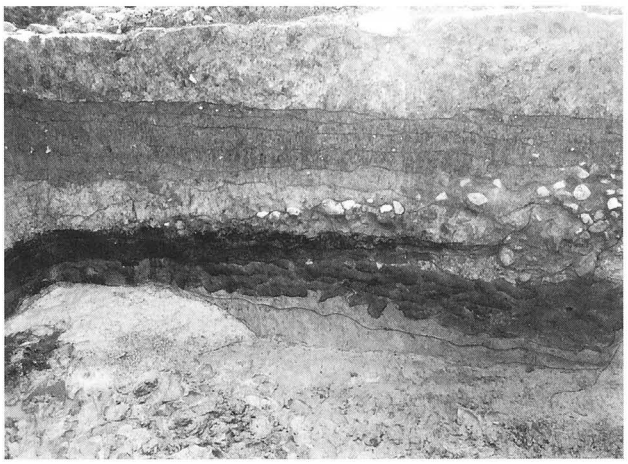
第２発掘区　素掘り溝や土坑を検出したのみで、顕著な遺構はなかった。

第３発掘区　発掘区中央部で西から東へ下る葺石を検出した。葺石はかなり乱れており、人為的に崩されたものと思われる。葺石の下で黒色腐植土を積んだ単位がわかる層がみられた（写真）。古墳墳丘を盛った際の作業単位を示しているものと思われる。この層は発掘区外東へ続くことから古墳の東側に造り出しがあると想定される。

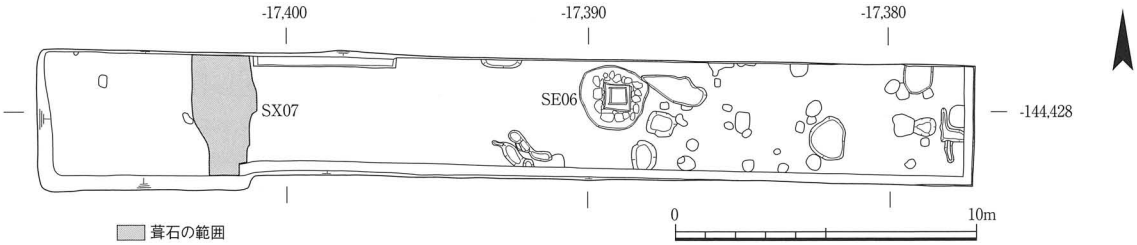
第４発掘区　ＳＥ06は上・中・下と３段組の構造の井戸である。上段は石組みで、中・下段が横板組である。石組みは内法0.9m四方で３段（深さ0.4m）積まれていた。中段の横板は一辺0.75m四方で、横板が３段（深さ0.7m）積まれ、下段の横板は一辺が0.6m四方で二段（深さ0.5m）積まれていた。深さは1.6mである。枠内から瓦器が出土しており、鎌倉時代頃の井戸と思われる。ＳＸ07は東から西に下る南北方向の葺石で、古墳の墳丘斜面と考えられる。南北3.8m分、東西2.3mを検出した。西端の石が大きめで、基底石と考えられる。石材には三笠山安山岩、チャート、珪岩が多く使われ、石は佐保川で採取したようである[2)]。葺石上面や周濠から円筒埴輪や家・盾・蓋形などの形象埴輪が出土した。葺石の西端部が南北方向に直線的であり、第３発掘区で検出した葺石とは延長線上にあることから、検出した葺石は西側の造り出し部にあたると思われる。

第５発掘区　発掘区北部で北から南へ下る東西方向の葺石を検出した。墳丘南端部にあたる。東西２m、南北１m分を検出した。南端部に大きめな石が配されており、基底石と考えられる。上部の葺石は削平されており、東壁断面では基底石よりさらに南まで葺石がみられた。

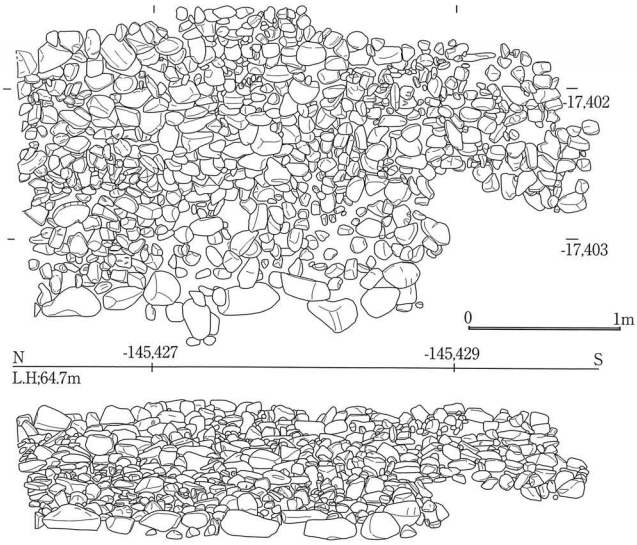
出土遺物　遺物整理箱で130箱分出土した。各発掘区から埴輪（川西編年第Ⅲ期）、奈良～平安時代・鎌倉時代の土器・土製品・瓦の破片が出土したが、その多くは第１発掘区からで、遺構に伴う遺物としてはＳＸ04、ＳＥ05出土のものが大半を占める。ＳＸ04からは、奈良～平安時代前半の土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、軒平瓦（6671Ｋ・6721Ｃ・五重弧紋軒平瓦・重弧紋軒平瓦）の他、鞴の羽口や坩堝といった鋳造に関わる遺物



第３発掘区南壁（北から）



第４発掘区遺構平面図　1/250



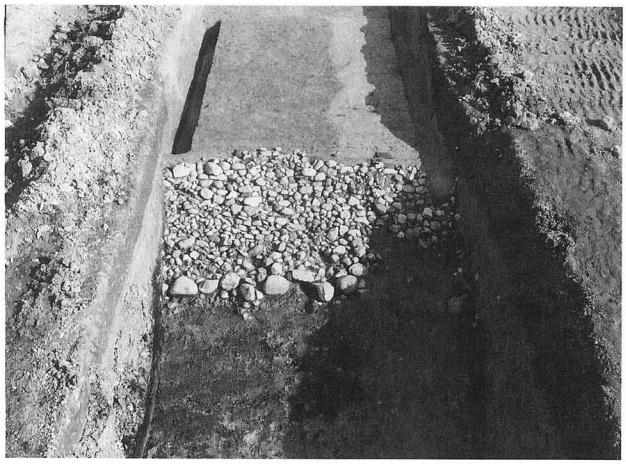
第４発掘区葺石 SX07 平面・立面図　1/50

もある。重弧紋軒平瓦には顎部に、接合する際にさしたと考えられる粘土釘の痕跡がみられ、興味深い資料である。ＳＥ05の枠内からは奈良～平安時代前半の土師器、須恵器、灰釉陶器、軒丸瓦（6132Ａ・6138Ｂ・複弁６弁蓮華紋軒平瓦（姫寺廃寺同笵））、軒平瓦（6767Ａ）の他、ＳＸ04と同じく鋳造関係の遺物がある。

調査所見　調査の結果、第１、第３、第４、第５発掘区で石敷きもしくは石積みを検出し、これらの形状や各発掘区から埴輪が出土していること等から考えると、これらの石敷き・石積みは古墳の葺石（もしくはそれを再利用したもの）であると判断された。古墳の上部は削平されたと考えられる。古墳の形状は後円部を北にした南北方向を主軸とする、東西に造り出しがある前方後円墳であろう。削平された時期を示す遺構や遺物はないが、調査地周辺では木取山（きどりやま）古墳や平塚１・２号墳など平城京造営の際に削平されたと考えられる古墳も見つかっており、この古墳も当該地を平城京の宅地とする際に削平されたと考えるのが妥当であろう。字名から法華寺垣内（ほっけじかいと）古墳と仮称する。

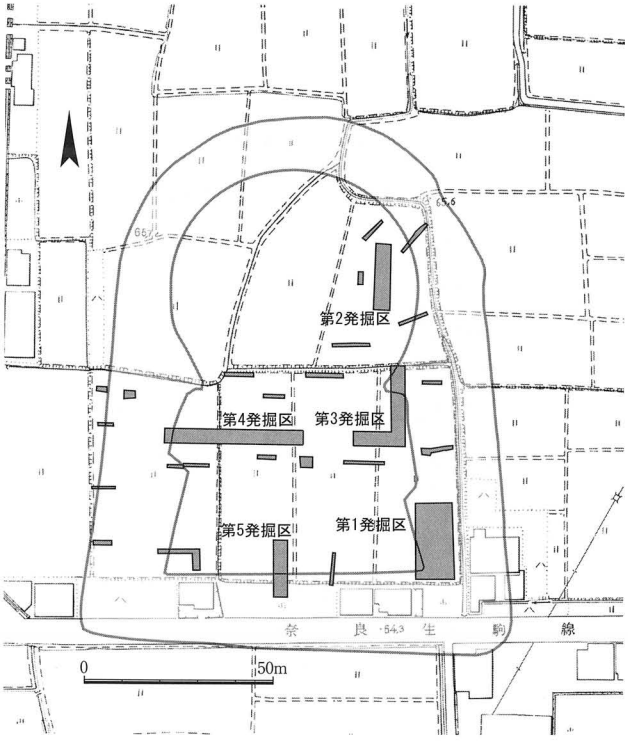
古墳の葺石は部分的にしか検出していないが、調査後の工事立会の成果等を勘案すると、墳丘全長が107m程の前方後円墳に復原できる。出土した埴輪からみて５世紀前半頃（古墳時代中期前半）の古墳と考えられる。ちなみに、以前に調査地周辺で採取され現在横浜市三渓園に保存されている長持形石棺があり、平塚古墳のものである可能性が指摘されていたが[3]、本調査の結果から当古墳の時期とも矛盾せず、当古墳の石棺である可能性も考えられるようになったと思われる。　（池田裕英）

1）奈良文化財研究所箱崎和久氏からご教示をいただいた。
2）山城郷土資料館橋本清一氏からご教示をいただいた。
3）奈良国立文化財研究所『平城宮発掘調査報告書　Ⅵ』1975



第４発掘区葺石 SX07（西から）

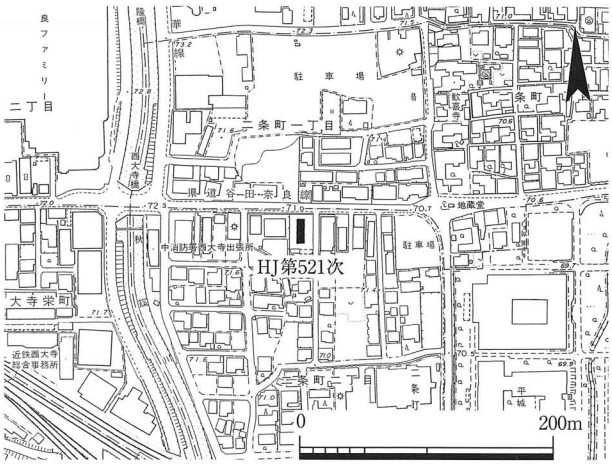
第５発掘区全景（南から）



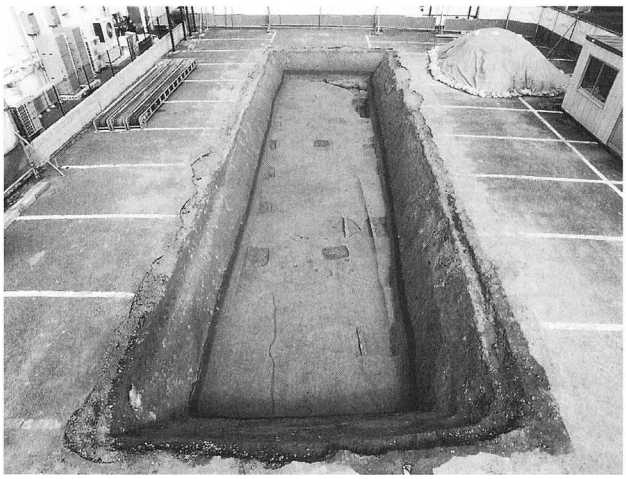
法華寺垣内古墳墳丘復原図　1/2,000

10. 平城京跡（右京一条二坊三坪）の調査　第521次

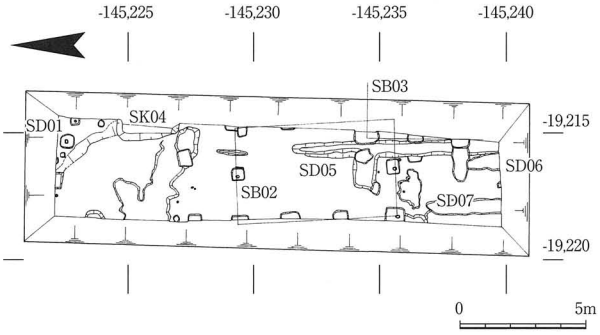
調査次数	ＨＪ第521次	調査期間	平成16年10月15日～11月1日
工事内容	店舗付マンション新築	調査面積	120㎡
届出者名	個人	調査担当者	久保邦江
調査地	奈良市二条町60－1		



発掘区位置図　1/6,000



発掘区全景（南から）



遺構平面図　1/300

調査地は平城京の条坊復原では右京一条二坊三坪の北端の西寄りに位置し、敷地北端には一条条間路南側溝が想定される箇所である。しかし、敷地北端付近は工事による破壊が及ばないことから、今回の調査では三坪内の遺構の状況を確認することのみとした。

基本層序　基本的な層序は造成土（1.0m）、暗灰色粘土の水田耕土（0.2m）、灰色砂質粘土・灰色粘土砂混・灰色砂質土の床土（0.1m）、灰色粘質土褐色粘土ブロック混じり（0.1m）と続き、現地表面から1.3～1.4mで黄褐色粘土の地山にいたる。遺構検出は黄褐色粘土上面でおこなった。遺構検出面の標高は70.5mであった。

検出遺構　検出した遺構は奈良時代以前の溝１条、奈良時代の掘立柱建物２棟・土坑１基・溝などである。

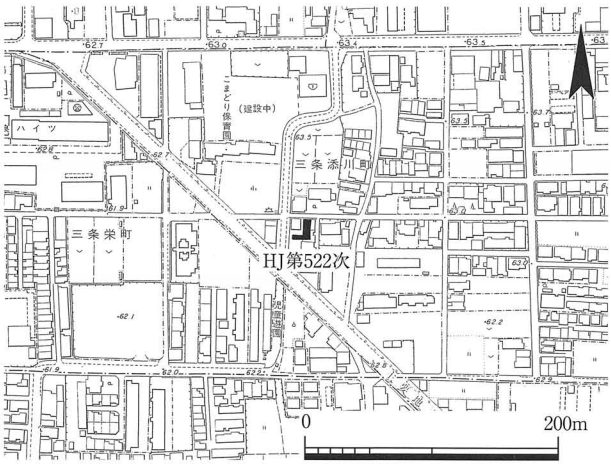
ＳＤ01は発掘区北東隅で検出した素掘りの溝である。南肩のみを検出し、全幅は不明である。検出面からの深さは0.4m。出土遺物がなく時期は不明であるが、奈良時代の土坑ＳＫ04より古い。ＳＢ02は発掘区中央部で検出した奈良時代の南北棟掘立柱建物である。柱間は桁行３間（2.1m等間）、梁行２間（1.8m等間）である。柱掘形からは８世紀の須恵器片・土師器片が少量出土した。ＳＢ03は発掘区南東隅で検出した奈良時代の柱列である。柱間は２間以上（2.4m等間）である。柱掘形は比較的大きく、塀よりも建物になる可能性が高いと考える。柱掘形から、８世紀の須恵器片・土師器片が出土した。ＳＫ04は発掘区北東部で検出した奈良時代の土坑である。西端部のみを確認し、発掘区外東に続く。南北3.0m、東西1.0m分を確認した。深さは検出面から1.0mまで確認できたが底までには至らなかった。埋土からは８世紀の須恵器片・土師器片・丸瓦片・平瓦片が出土した。ＳＤ05～07は発掘区南半で検出した素掘りの溝である。溝幅は、0.5～0.8m、深さは0.05～0.1mである。埋土から８世紀の須恵器片・土師器片が少量出土した。

出土遺物　出土遺物は非常に少なく、遺物整理箱１箱に満たない量であった。８世紀の須恵器片・土師器片がほとんどで、少量の丸瓦片・平瓦片がある。

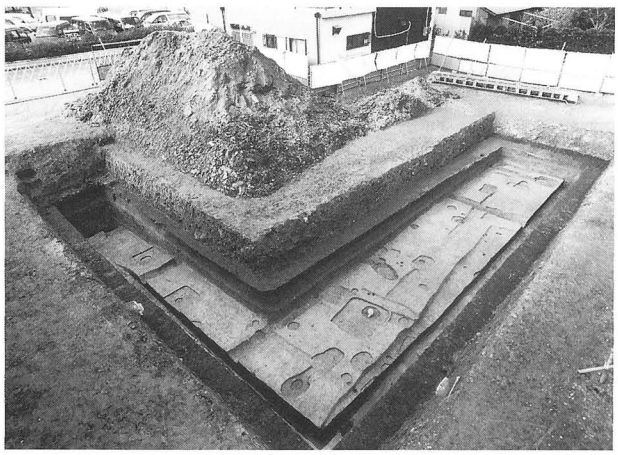
調査所見　検出した柱穴は掘形が一辺1.0m前後あるにも関わらず、検出面からの深さは0.1～0.2mと非常に浅く、調査地は本来遺構が掘削された面から、かなり削平をうけていることが判明した。ＳＢ02とＳＢ03の重複関係から前後関係は不明であるが、宅地の時期変遷は２時期以上あると考えられる。

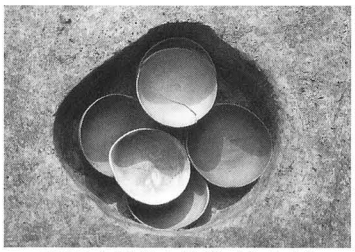
11. 平城京跡（左京四条三坊十五坪）の調査　第522次

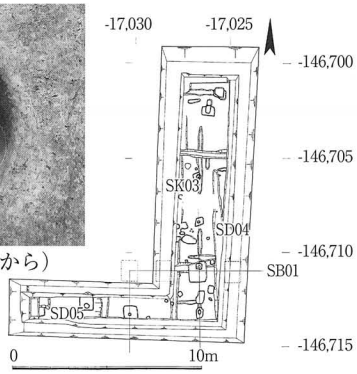
調査次数	ＨＪ第522次	調査期間	平成16年11月22日～12月7日
工事内容	共同住宅新築	調査面積	120㎡
届出者名	個人	調査担当者	久保邦江
調査地	奈良市三条添川町203－4他		



発掘区位置図　1/6,000


発掘区全景（東南から）


SK03 土器出土状態（北から）



遺構平面図（1/400）

調査地は平城京の条坊復原では左京四条三坊十五坪の北東部に位置し、四条条間北小路のやや南に位置する。

基本層序　造成土（0.8m）、暗灰色粘土の耕土（0.2m）、灰色砂質粘土の床土（0.15m）、灰色砂質土（0.1m）、淡緑灰色粘質土（0.05m）灰色砂質粘土（0.1m）と続き、現地表面から約1.3mで黄褐色粘土の地山にいたる。一部では奈良時代の遺物を含む灰色砂質粘土の整地土が広がる。遺構検出は黄褐色粘土上面もしくは整地土上面で行った。遺構検出面の標高は61.6mである。

検出遺構　奈良時代の掘立柱建物１棟、掘立柱塀１条、土坑１基、平安時代の溝１条、時期不明の溝１条がある。

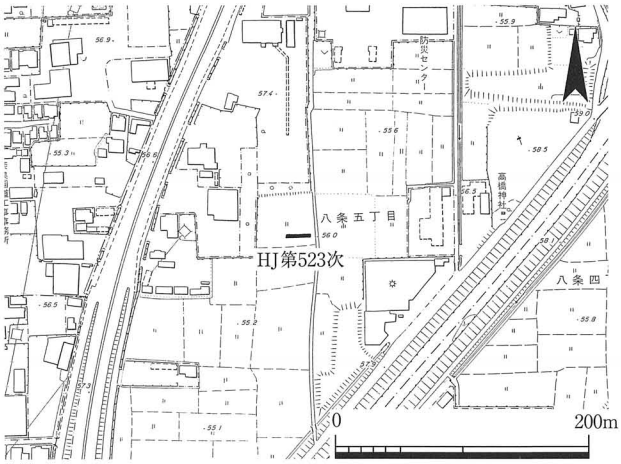
ＳＢ01は発掘区南部で検出した。柱穴２箇所、東壁で確認した柱穴の位置関係を考慮すると東西方向３間以上（1.8m等間）、南北方向は１間以上（2.4m）になる。柱掘形は比較的大きく一辺１m以上あるものがある。柱穴は整地層上面から掘り込む。柱穴から８世紀の須恵器片・土師器片・丸瓦片・平瓦片が出土した。ＳＡ02は３間分を検出した南北方向の掘立柱塀である。柱間は2.4m等間である。柱穴から８世紀の須恵器片・土師器片が出土した。ＳＢ01よりも新しい。ＳＫ03は発掘区中央部北寄りで検出した土器埋納土坑である。平面は東西0.3m南北0.28mの不整円形で、検出面からの深さは0.13mである。坑内には東西南北の方位にあわせ、皿10点を正位置で重ねている。地鎮に関わる遺構と見られる。ＳＤ04は発掘区東辺で検出した南北方向の溝である。幅約0.5m、検出面からの深さは0.1m。溝内から９世紀前半の須恵器片・土師器片が出土。ＳＤ05は発掘区南西隅部で検出した南北方向の溝である。幅は3.8m以上、検出面からの深さ0.3m以上。出土遺物がなく時期は不明。

出土遺物　遺物整理箱９箱分出土した。８世紀の須恵器片・土師器片がほとんどで少量の丸瓦片・平瓦片がある、ＳＤ04から９世紀前半の須恵器片・土師器片が少量出土した。ＳＫ03出土の皿10点は土師器の手法で製作され、須恵質に焼成されており、他に例をみない。椀に似ており、径は11.4～12.1㎝、高さ3.0～3.4㎝である。８世紀のものと考えられるが詳細な時期は不明である。

調査所見　今回、奈良時代の遺構の他に平安時代の溝ＳＤ04を検出したことが大きな成果である。周辺での市ＨＪ第290次調査、市ＨＪ第411次調査、県2004年度調査で同時期の遺構を確認しており、ＳＤ04は平安京への遷都以降の土地利用を考える手がかりになる遺構である。

12. 平城京跡（左京六条東一坊大路）の調査　第523次

調査次数	ＨＪ第523次	調査期間	平成16年12月20日～12月21日
工事内容	宅地造成	調査面積	72㎡
届出者名	有限会社ウエムラ	調査担当者	三好美穂
調査地	奈良市八条五丁目437－12他		



発掘区位置図　1/6,000

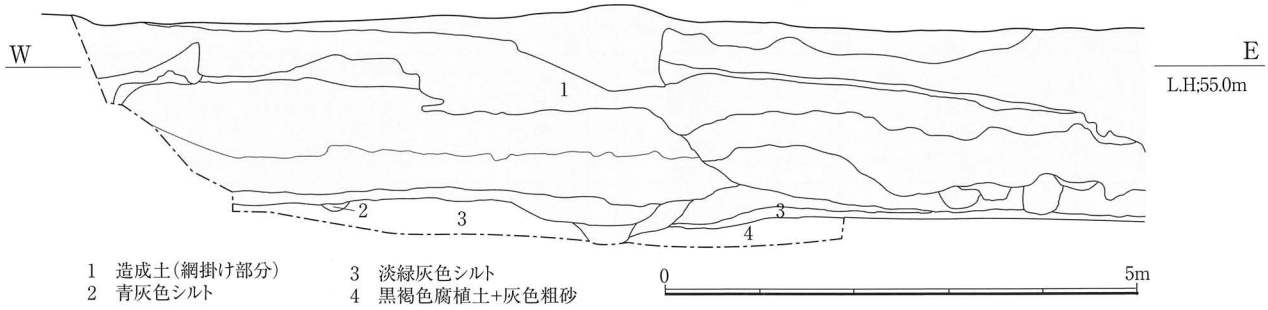
発掘区全景（西から）

宅地造成（4,620㎡）に伴う調査で、調査対象地は平城京東一坊大路の遺存地割の中に収まる。敷地南端では東一坊大路の東西幅を確認するために奈良文化財研究所の調査（国第251次調査：平成６年度）が過去に実施されているが、沼状堆積により明確な条坊遺構は確認されていない。南方の七条一坊十五・十六坪の調査（国第252・253次調査：平成６年度）では東一坊大路の遺構が確認されている。調査は敷地北端の道路予定地に東西20m、南北3.6mの発掘区を設定して実施した。

基本層序　調査地は国第251次調査以後に造成され、現地表から1.9～2.0mまでが造成土、一部に造成時の撹乱が深く及ぶ所もある。その下は淡灰色シルト層、黒褐色腐植土を含む灰色粗砂層となる。現地表から約2.5m掘り下げたところ、淡灰色シルト層からの湧水が著しく、崩壊の危険性が生じたため以下の掘り下げを断念した。

出土遺物　撹乱層内から現代の磁器片、ガラス片とともに８世紀の須恵器片が少量出土した他、下層の黒褐色腐植土を含む灰色粗砂層から８世紀末～９世紀初頭の土師器片（杯、皿、椀、甕）・黒色土器Ａ類杯片・須恵器片（杯、杯蓋、高杯、甕）が出土した。

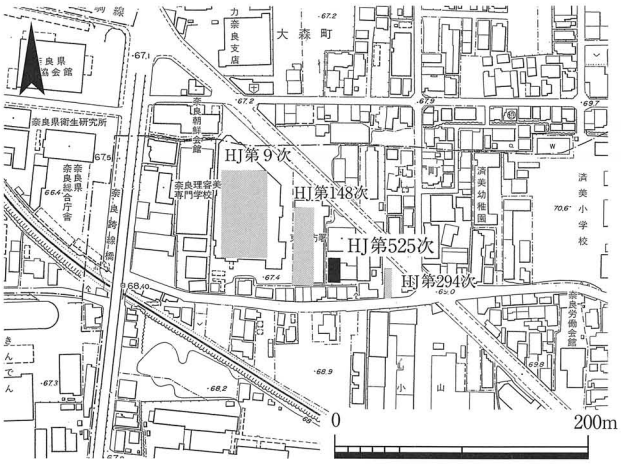
調査所見　土層の堆積状況から国第251次調査で確認された沼状堆積は今回の発掘区には及んでいないことが判明した。国第252・253次調査で確認された東一坊大路路面の標高が約54.2～54.4mであり、東一坊大路の遺構が遺存するならば、標高53.3mまで掘り下げた今回の調査でも検出されるはずである。東一坊大路西側溝の溝底勾配が六条七条付近で緩くなるといったこれまでの知見と今回確認した灰色粗砂層の広がりから、奈良時代末頃には東一坊大路西側溝が制御されず調査地付近では路面側に大きく広がる流路となっていたとも考えられる。



発掘区北壁土層図 1/80

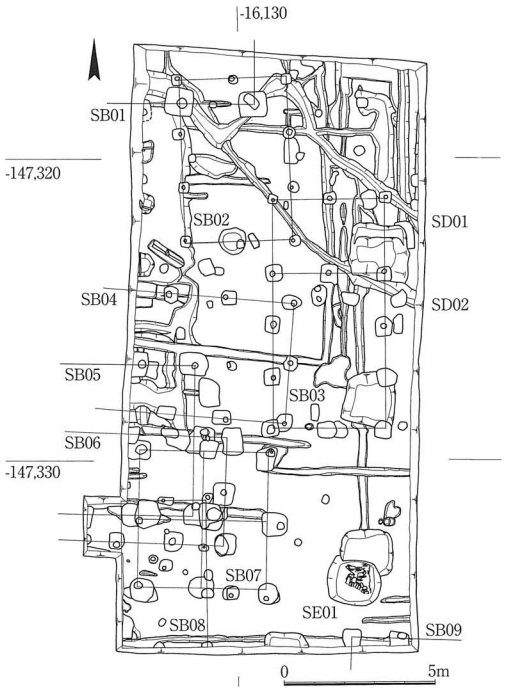
13. 平城京跡（左京五条五坊十坪）の調査　第525次

調査次数	ＨＪ第525次	調査期間	平成17年1月26日～3月2日
工事内容	東消防署建設事業	調査面積	200㎡
通知者名	奈良市長	調査担当者	鐘方正樹
調査地	奈良市西木辻町43番地の１		



発掘区位置図　1/6,000

発掘区全景（西から）



遺構平面図　1/250

基本層序　造成土（厚さ0.6m）の下に水田耕土・淡灰色土・灰褐色土と続き、黄褐色シルトの地山となる。地山の標高は67.4～67.7mで、低くなる北西部には厚さ0.25m前後の整地土（奈良時代の遺物包含）がある。遺構は整地土及び地山の上面で検出した。

検出遺構　古墳時代中期の溝２条、奈良時代の掘立柱建物９棟・井戸１基がある。その概要は下の一覧表にまとめた。重複関係のある建物の構築順序はＳＢ04→ＳＢ03、ＳＢ05→ＳＢ07→ＳＢ06・08である。

出土遺物　古墳時代中期の土師器・須恵器（ＴＫ208～ＴＫ47型式）、奈良時代の土師器・須恵器・瓦がある。

調査所見　ＳＢ06とＳＢ08は空間的に重複するので、建物は４回以上建替えられている。ＳＥ01内にシイ属の木葉が多量に堆積し、その付近に樹木の植栽があった。ＳＤ01は市ＨＪ第148次調査ＳＤ18と一連の遺構だろう。

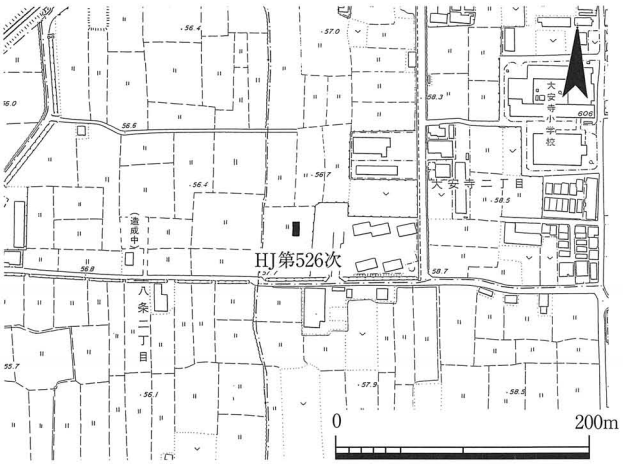
検出遺構一覧表

遺構番号	棟方向	規模（間）桁行×梁行	桁行全長（m）	梁行全長（m）	柱間寸法（m）桁行	柱間寸法（m）梁行	廂の出（m）	備考
ＳＢ01					2.4			棟方向・規模は不明、柱穴深さ0.5～0.7m
ＳＢ02	南北	3×2	5.4	3.6	1.8等間	1.8等間		柱穴深さ0.3m前後
ＳＢ03	南北	3×2	5.4	3.6	1.8等間	1.8等間	北2.4	柱穴深さ身舎0.4m、廂0.3m
ＳＢ04	東西	2以上×2	4.0以上	4.0	1.9-2.1	2.0等間		柱穴深さ0.4～0.5m
ＳＢ05	東西	2以上×2	3.6以上	4.8	1.8等間	2.4等間		柱穴深さ0.5～0.7m、柱根直径0.23m
ＳＢ06	東西	2以上×2	3.6以上	3.6	1.8等間	1.8等間		柱穴深さ0.3m前後
ＳＢ07	南北	2×2	4.6	4.2	2.4-2.2	2.1等間		柱穴深さ0.3～0.5m
ＳＢ08	南北	3×2	4.8	3.0	1.5-1.5-1.8	1.5等間		柱穴深さ0.2m前後
ＳＢ09					2.4			棟方向・規模は不明、柱穴深さ0.5～0.7m

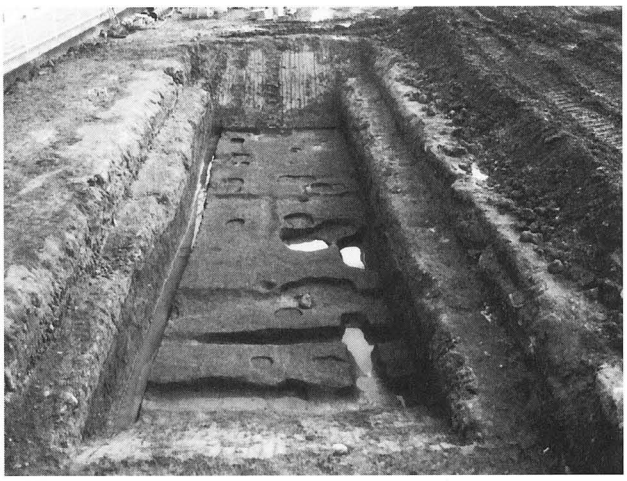
遺構番号	掘形 平面形	掘形 平面規模（m）	掘形 深さ（m）	井戸枠 構造	井戸枠 内法（m）	主な出土遺物	備考
ＳＥ01	隅丸方形	南北1.55×東西1.77	2.55	方形縦板組横桟留め	0.93×0.93	奈良時代の土師器・須恵器・木葉	横桟の四隅を枘組して釘留め
ＳＤ01	斜行溝	長さ13.5以上×幅0.2～0.4	0.1～0.4			古墳時代中期の土師器・須恵器	鍵形に屈曲する
ＳＤ02	斜行溝	長さ12以上×幅0.1～0.25	0.2前後			古墳時代中期の土師器・須恵器	ＳＤ01と接続する

14. 平城京跡（左京六条三坊十二坪）の調査　第526次

調査次数	ＨＪ第526次	調査期間	平成17年2月7日～2月15日
工事内容	宅地造成	調査面積	80㎡
届出者名	株式会社ファーストホーム	調査担当者	宮﨑正裕
調査地	奈良市大安寺二丁目45他		



発掘区位置図　1/6,000



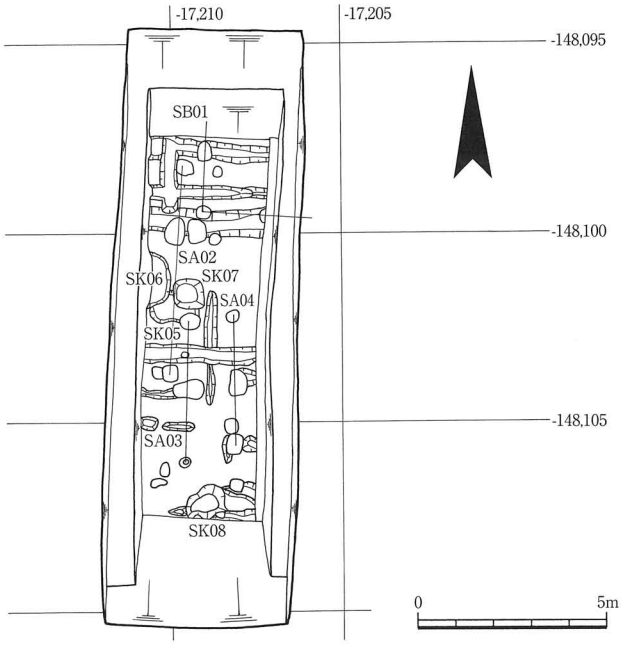
発掘区全景（北から）

基本層序　造成土、耕土と続き、現地表下約1.6mで、黄橙色砂質土あるいは暗茶灰色砂・粗砂の地山に達する。遺物包含層はほとんど遺存しない。地山の標高は概ね56.6mで、遺構はすべて地山上面で検出した。

検出遺構　奈良・平安時代の掘立柱建物１棟、掘立柱列３条、土坑４基がある。ＳＡ02～04は建物の一部で、ＳＫ06・07は井戸の可能性がある。

出土遺物　遺物整理箱で４箱分出土した。内訳は土器３箱、瓦１箱で、その他に埴輪１点、砥石２点、鞴羽口１点が出土している。また、判読できないが、墨書土器（須恵器杯か皿）が１点、製塩土器の細片が少量、軒丸瓦6291型式Aa種が１点ある。

調査所見　調査地は平城京左京六条三坊十二坪の中央やや南西寄りに位置し、北東には十二坪中央を流れていた東堀河の遺存地割が残る。東堀河に関わる遺構は当発掘区には及んでいないことを確認した。



遺構平面図　1/200

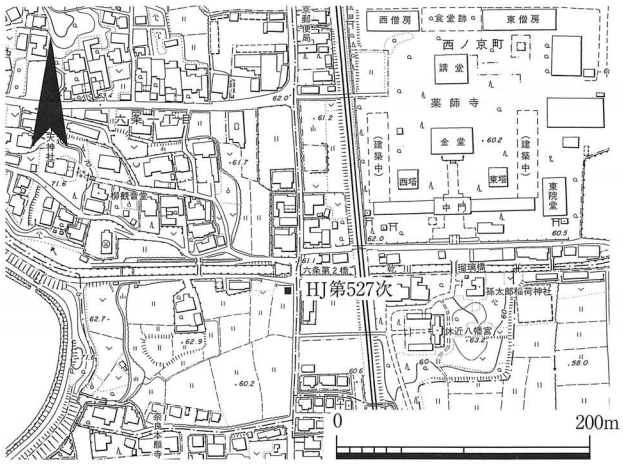
検出遺構一覧表

遺構番号	棟方向	規模（間）	桁行全長	梁行全長	柱間寸法（m）		備考
		桁行×梁行	(m)	(m)	桁行	梁行	
ＳＢ01	不明	1×1	1.8	1.8	1.8	1.8	建物の南西隅部分、柱穴から製塩土器が出土
ＳＡ02	南北	3以上	5.4		1.8等間		ＳＫ05よりも古い
ＳＡ03	南北	2以上	3.6		1.8等間		ＳＫ05よりも新しい、柱穴から黒色土器Ａ類が出土
ＳＡ04	南北	2	3.6		1.8等間		柱穴から奈良時代土師器・須恵器、製塩土器、丸瓦が出土

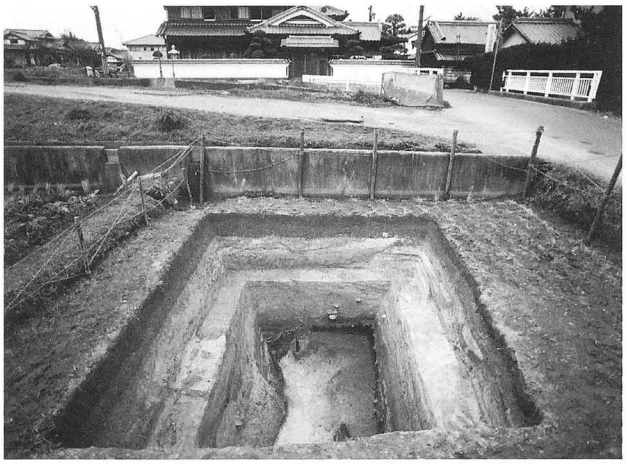
遺構番号	掘形			主な出土遺物	備考
	平面形	平面規模（m）	深さ（m）		
ＳＫ05	隅丸方形	南北0.9×東西1.2	0.2	奈良時代土師器・須恵器	ＳＡ03、ＳＫ06・07よりも古い
ＳＫ06	隅丸方形	南北1.4×東西0.6以上	0.4以上		ＳＫ05よりも新しい
ＳＫ07	隅丸方形	南北0.8×東西0.8	0.8以上	埴輪、奈良時代土師器・須恵器、製塩土器	ＳＫ05よりも新しい
ＳＫ08	不整形	南北1.1以上×東西2.6以上	0.1～0.25	奈良時代土師器・須恵器、黒色土器Ａ類	

15. 平城京跡（右京七条西二坊大路）の調査　第527次

調査次数	ＨＪ第527次	調査期間	平成17年２月14日～２月23日
工事内容	道路新設工事（西ノ京六条線）	調査面積	20㎡
通知者名	奈良市長	調査担当者	秋山成人
調査地	奈良市六条一丁目453－1の一部		



発掘区位置図　1/6,000



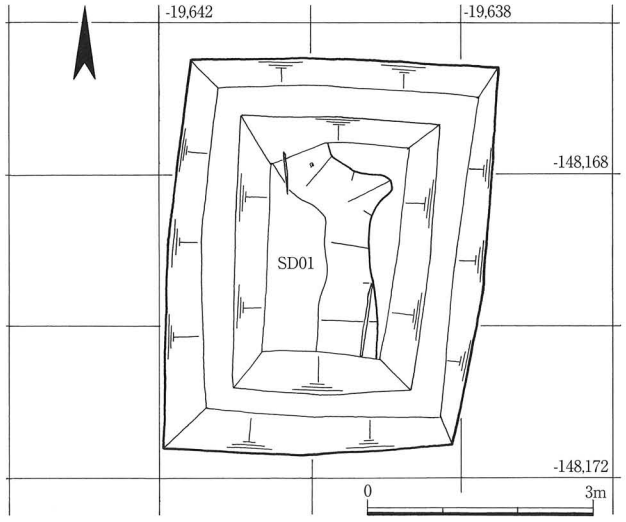
発掘区全景（北から）

基本層序　層序は、上から黒灰色土（耕土）、赤灰色土（床土）、淡灰色砂、暗青灰色砂質土、淡黄褐色砂質土、黄褐色粗砂、灰色粘砂、暗灰色粘砂（旧耕土）、暗灰色粘土、暗灰色粘質土、灰褐色砂質土と続き地表下1.7mで黒色・灰色粘土の地山に至る。地山面の標高は、58.4mである。堆積土No.13～17からは、13世紀の瓦器椀片・土師器皿片が出土。堆積土No.3～12からは、12世紀の白磁椀片、12・13世紀の瓦器椀片、江戸時代（18世紀）の瓦質深鉢片・炮烙片が出土した。

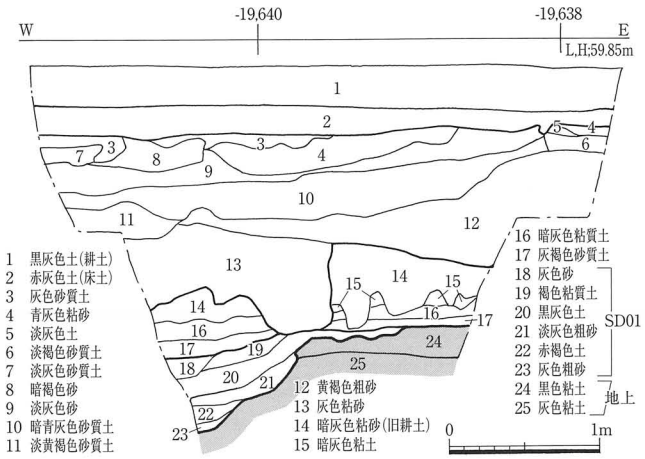
検出遺構　ＳＤ01は、地山上面で検出した南北溝で、東肩のみを確認し、長さ3.3m、幅1.6m、深さ0.5m分を検出した。埋土は、上から灰色砂、褐色粘質土、黒灰色土、淡灰色粗砂、赤褐色土、灰色粗砂の順に堆積する。灰色粗砂から奈良・平安時代（８・９世紀）の土師器皿・須恵器杯・軒丸瓦（6307型式Ｃ種）・軒平瓦（型式不明）・丸瓦・平瓦、平安時代（９世紀）の黒色土器椀、鎌倉時代（13世紀）の瓦器椀が出土した。

出土遺物　奈良時代から鎌倉時代の土器類、瓦類の他、溝ＳＤ01から塑像が３片出土した。瓦の出土量は、薬師寺隣接地であるためか土器類に比べて多く、塑像片も薬師寺にかかわるものとみられる。

調査所見　調査地は、平城京条坊復原によると、西二坊大路西側溝にあたり、ＳＤ01は、13世紀までに埋まっており、その位置から西二坊大路西側溝かそれを踏襲する溝の可能性がある。



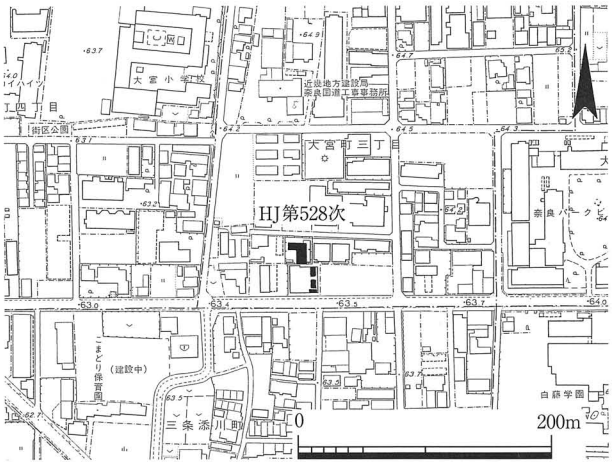
遺構平面図　1/100



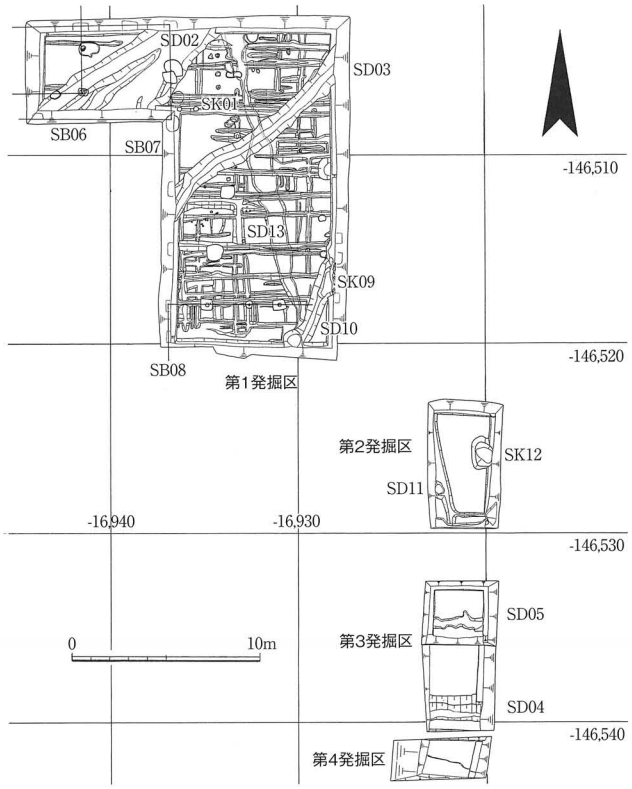
発掘区北壁土層図　1/50

16. 平城京跡（左京三条四坊四坪）の調査　第528次

調査次数	ＨＪ第528次	調査期間	平成17年2月14日～3月31日
工事内容	マンション新築	調査面積	273㎡
届出者名	大和システム株式会社	調査担当者	久保邦江　武田和哉
調査地	奈良市大宮町三丁目192番2他		



発掘区位置図　1/6,000



遺構平面図　1/400

調査地は奈良時代の条坊復原では、左京三条四坊四坪の南端中央部に位置する。敷地の南端は三条大路北側溝が想定される箇所である。

基本層序　上から造成土（0.7m）、暗灰色粘質土の耕土（0.14m）、灰褐色砂質粘土の床土（0.1m）、淡黄灰色粘土（0.3m）、灰褐色砂質粘土・橙褐色土混（0.14m）、灰褐色砂質粘土・黄褐色土混（0.14m）と続き、地表面から約1.5m黄褐色粘質土層にいたる。遺構検出は、黄

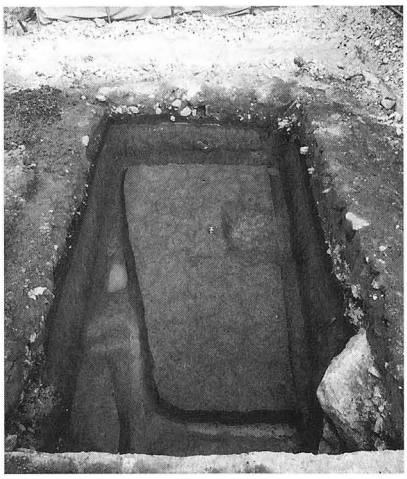
検出遺構一覧表

遺構番号	棟方向	規模（間）	桁行全長	梁行全長	柱間寸法（m）		備考
		桁行×梁行	(m)	(m)	桁行	梁行	
ＳＢ06	南北？	2以上×2以上	2.4以上	1.5以上	2.4	1.5	東南角柱穴正方形の板を礎板として使用。柱抜き取り痕跡から8世紀の軒丸瓦・軒平瓦出土
ＳＢ07	東西	3以上×2	7.2以上	5.4	2.4	2.7	8世紀の土師器片・須恵器片出土
ＳＢ08	東西	4以上×3以上	6.0	1.8	2.1-2.1-1.8	1.8	8世紀の土師器片・須恵器片出土

遺構番号	掘形			主な出土遺物	備考
	平面形	平面規模（m）	深さ（m）		
SK01	円形	直径0.6	0.3	炭化物少量	断面逆台形。一部袋状。弥生時代以前
SD02	斜行溝	幅4.0	0.7	弥生時代後期末壷、古墳時代前期初頭甕	北東から南西に斜行する
SD03	斜行溝	幅1.2	0.6		北東から南西に斜行する。遺構の重複関係から、奈良時代の柱穴より古い。
SD04	東西溝	幅2.75（土層で確認）	0.37	和同開珎、8世紀の須恵器片・土師器片・平瓦片・丸瓦片	三条大路北側溝 最深部座標：X=-146,539.380　Y = -16,920.000
SD05	東西溝	幅0.9	0.15	8世紀平瓦片	SD04と溝芯間約5.0m。
SK09	形不明	東西2.2	1	8世紀須恵器片・土師器片	SD10より古い
SD10	斜行溝	幅0.85	0.42	８世紀須恵器・土師器	北東から南西に斜行する
SD11	斜行溝	幅0.5	0.2	時期不明土師器小片	耕作溝か？北北西から南南東に斜行する
SK12	不整円	南北0.75 東西1.1	0.2		土層から室町時代以降と考えられる
SD13	斜行溝	幅0.4 ～ 1.4	0.1		北北西から南南東に斜行する。土層から室町時代以降と考えられる。

第１発掘区（北から）

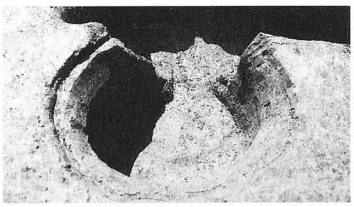
第１発掘区下層調査区（東から）



第２発掘区全景（南から）

第３発掘区（東から）

第４発掘区全景（西から）



土坑 SK01（北から）

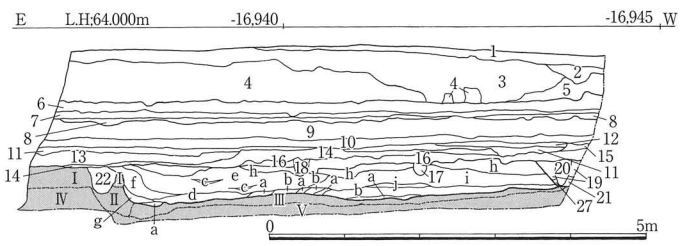
褐色粘質土層の上面（上層）でおこなった。さらに第１発掘区北端部では下層の黄褐色砂質粘土もしくは黄褐色粘土・茶褐色粘土層上面でも遺構検出をおこなった。

検出遺構面の標高は第１発掘区北西隅部で下層が62.0m、上層が62.2m、（以下上層）北東隅部62.3m。第２発掘区は62.3m。第３・４発掘区で61.7m。第２・３発掘区の間で約0.6mの高低差がある。

検出遺構　下層では弥生時代以前の土坑ＳＫ01、上層では弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の溝ＳＤ02、奈良時代以前の溝ＳＤ03、奈良時代の溝ＳＤ04・05・10・掘建柱建物ＳＢ06～08・土坑ＳＫ09、室町時代の耕作溝・土坑ＳＫ12、室町時代以降の溝ＳＤ13がある。

出土遺物　遺物整理箱13箱分あり、主なものは表に示した。その他に耕作溝や、遺物包含層から緑釉陶器片・灰釉陶器片・製塩土器片などが出土している。

調査所見　今回の調査では、第３発掘区南端部で東西方向の溝ＳＤ04を検出した。第３発掘区で溝の北肩部を確認し、第４発掘区の土層断面で南肩を確認することができた。上部は後世に破壊されており、確認できた溝幅は2.75m、検出面からの深さは0.37mである。溝底から和同開珎１点が出土した。最深部の座標については、表に示したとおりである。位置的に三条大路北側溝と考えられる。ＳＤ04と溝心間約５ｍをへだてた北側で東西方向の溝ＳＤ05を検出した。四坪南辺を画する溝とみられる。下層で検出した土坑ＳＫ01は埋土から遺物が出土しなかったため、時期は不明である。層位的には弥生時代後期よりは古く、断面形が一部で袋状になっている点などを考慮すると、約500m東方の油坂遺跡で確認されているような縄文時代の低湿地型の貯蔵穴である可能性も考えられる。（久保邦江）

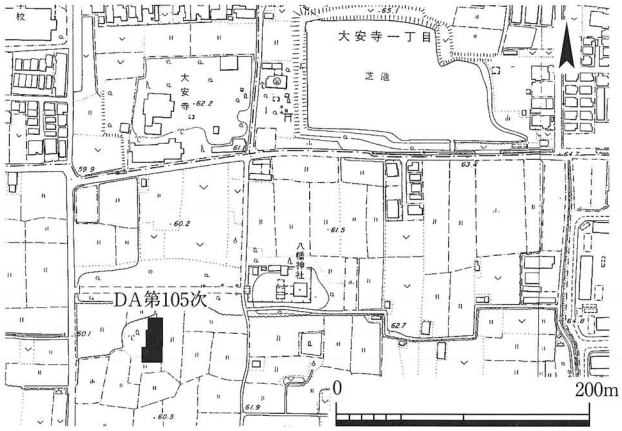


1　造成盛土
2　造成盛土
3　造成盛土
4　造成盛土
5　造成盛土
6　暗灰色粘質土（旧耕土）
7　灰色砂質粘土
8　淡黄灰色粘土・灰色砂質粘土
9　淡灰色粘土
10　灰色砂質粘土
11　灰褐色砂質粘土・小礫
12　灰褐色土
13　灰褐色砂質粘土・黄褐色土
14　淡灰色粘土
15　小豆色土・小礫
16　黄褐色粘質土・茶褐色粒混
17　灰白色シルト
18　小豆色・黄褐色土
19　小豆色砂質シルト・淡黄褐色粘土
20　小豆色砂質シルト・黄褐色粘土
21　小豆色砂質シルト・灰色粘土（19～21は柱穴埋土）
22　黄褐色粘質土
a　灰色砂礫
b　灰色中粒砂
c　灰色細砂
d　灰褐色細砂～シルト
e　灰褐色細砂～粗砂の互層
f　灰褐色粘質土
g　灰色粘土
h　小豆色砂質シルト
i　灰褐色砂質シルト
j　灰白色細砂（a～jはSD02埋土）
Ⅰ　黄褐色粘質土
Ⅱ　淡灰色シルト
Ⅲ　淡灰褐色砂質シルト
Ⅳ　黄灰色砂質粘土
Ⅴ　黄褐色粘土・茶褐色土

第１発掘区南壁土層図　1/100

17. 史跡大安寺旧境内（西塔跡）の調査　第105次

調査次数	ＤＡ第105次	調 査 期 間	平成16年6月28日～12月24日
工事内容	史跡大安寺旧境内保存整備事業	調 査 面 積	500㎡
申請者名	奈良市長	調査担当者	松浦五輪美
調 査 地	奈良市東九条町1340他		



発掘区位置図　1/6,000

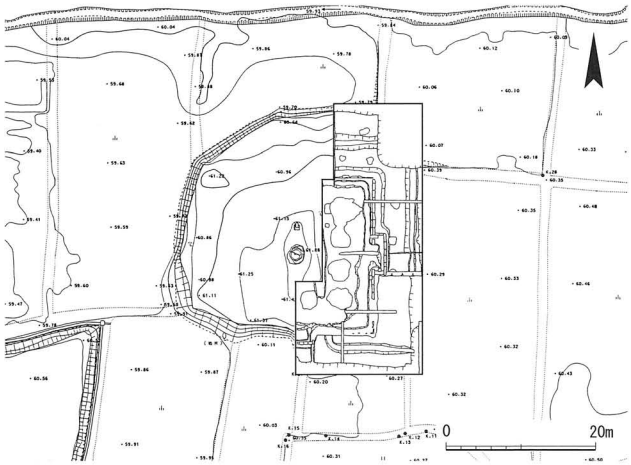
発掘区全景（北東から）

基本層序　基壇上面はこれまでと同様に0.15m前後の腐植土と基壇版築の風化土が堆積している。

基壇周囲もこれまでに確認した層序と基本的に同様である。地表下約0.5mまでは中～近世の開削時の土層で、以下、瓦を大量に含む焼土層が最大厚0.3m、黄灰色砂質土が0.15m前後、瓦を大量に含む黄色粘質土が0.2m前後堆積し、基壇の基底面に達する。やはり２層の瓦堆積層が確認でき、下層の黄灰色砂質土と黄色粘質土は最初に崩落した瓦を処理しつつ整地した層と判断される。

検出遺構　基壇外装は、東階段を含め、一部を除き延石しか残存しておらず、基壇南東角付近は延石さえほとんど残っていない。東階段北側の一部には地覆石が良好に残っており、束石を立てる枘穴も確認できる。

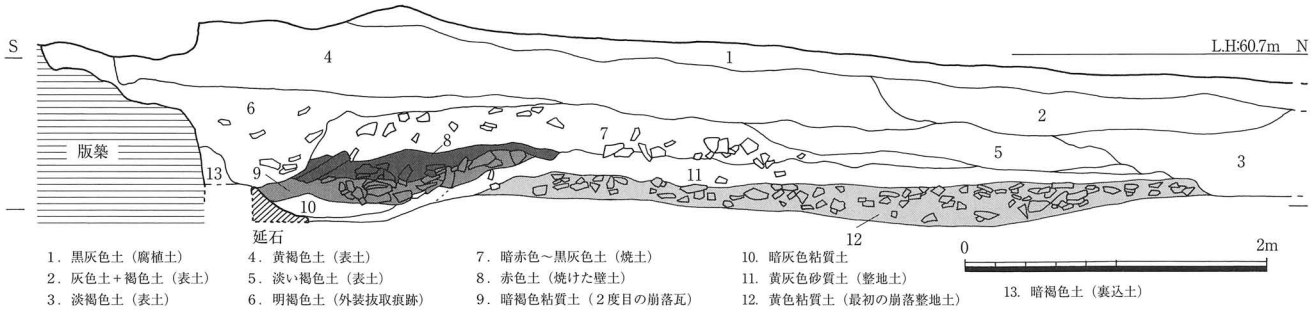
基壇規模は、延石外縁間で一辺約21m、階段は踏み面の幅が約4.2m、出が約1.5mであり、これまでの推定値を追認した。



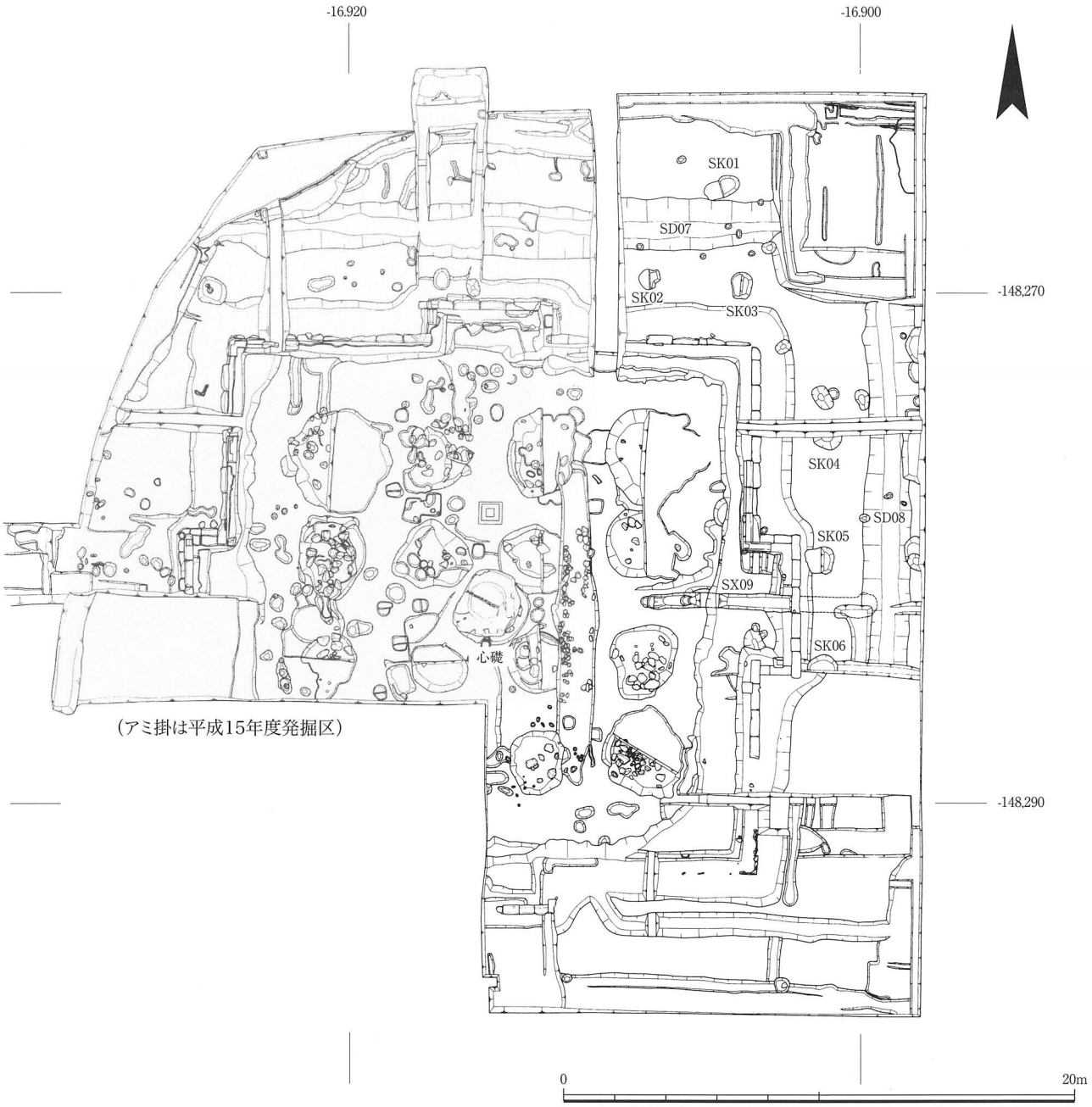
発掘区位置図　1/1,000

基壇上面では、塔東側柱列の礎石抜取痕跡を検出し、柱間が3.9－４.2－3.9mであることも追認した。

この他、土坑６、溝２、溝状土坑１がある。土坑ＳＫ01～06は直径１m前後の平面円形状で、深さは0.2m～0.8



発掘区北部西壁土層図　1/50



遺構平面図　1/250

mとバラつきがある。埋土は黄色粘質土の整地土と同質であり、瓦も多量に含む。ＳＫ01を除く５つは基壇を囲むように配置しており、柱の抜取痕跡の可能性が高い。

溝ＳＤ07・08は幅２ｍ前後、深さ0.1～0.15mの浅い窪み状で、塔を囲む一連の遺構と考えられる。

溝状土坑ＳＸ09は東階段中央を基壇上から基壇外にかけて断ち割るかのような、長さ約９ｍ、幅約0.6m、最深2.3mの狭長な土坑状遺構である。基壇外装以前に掘られ埋め戻されたものであり、基壇底面を突き抜け、湧水層に達している。今のところ目的については不明である。底部近くで柄杓の柄が出土した。

出土遺物　整理箱で瓦類3105箱、土器類５箱、木製品３箱、金属製品３箱、石器１箱が出土した。特別なものとして、風鐸片３点（口絵３）、露盤片１点がある。露盤片は最長53×30㎝、厚さ約２㎝の長方形の銅板で、重さが約24kgもある重厚なものである。軒瓦についてはこれまでと同様、軒丸瓦は6138型式Ｃｂ種と7251型式Ａ種、軒平瓦は6712型式Ａ・Ｂ種が大半を占める。

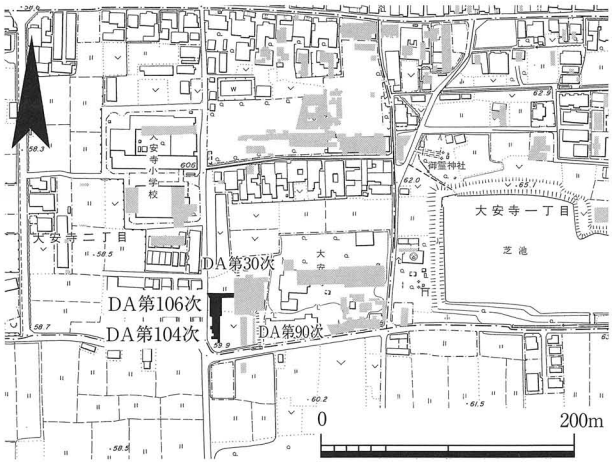
調査所見　今回の調査で、基壇および塔の規模については前回までの調査結果を補足・追認することができた。

新たに検出した土坑や溝は、基壇を囲むように位置しており、何らかの囲繞施設に関わる可能性がある。南西部にも同様の遺構が存在する可能性があり、遺構配置の全体像を見たうえで改めて検討したい。

また、今回の調査でも塔の被災が二度あったことが確認された。それぞれの時期については未だ不確定であるが、土器からは両者とも10世紀前半以降の出来事と判断される。

18. 史跡大安寺旧境内（西面・南面築地塀推定地）の調査　第106次

調査次数	ＤＡ第106次	調査期間	平成16年6月28日～7月30日
工事内容	遺跡範囲確認	調査面積	102㎡
申請者名	奈良市教育委員会教育長	調査担当者	池田裕英
調査地	奈良市大安寺町1320他		



発掘区位置図　1/6,000

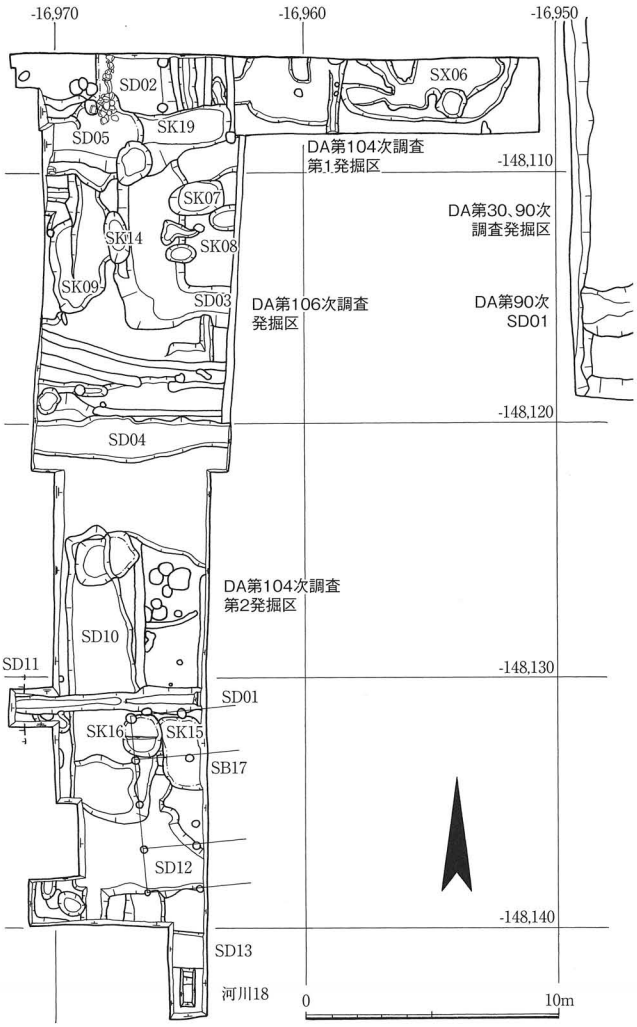
DA 第 106 次調査　発掘区全景（北東から）

今回の調査は、平成15年度のＤＡ第104次調査に引き続き、大安寺の西面築地塀と南面築地塀の確認を目的としており、ＤＡ第104次調査区と合わせて報告する。

基本層序　発掘区内の基本層序は、後述する南面築地塀推定地で大きく異なる。この北側は、厚さ約0.2mの耕土直下で地山の暗黄茶色砂質土となり、南側では上から水田耕土、淡灰色砂質土、淡灰褐色砂質土、暗茶褐色土と続き、地表下約0.5mで暗黄茶色砂質土または茶灰色砂質土の地山となる。地山上面の標高は北側で約59.4m、南側で約58.9mである。

検出遺構　六条大路北側溝と考えられる溝、大安寺の西面築地塀と南面築地塀の雨落溝と考えられる溝、土坑、掘立柱建物、河川を検出し、詳細は一覧表に記した。以下築地塀関連遺構について記す。

ＳＤ03は、幅約1.7mの東西方向の溝で、発掘区内で北に直角に曲がりＳＤ02となる。ＳＤ03の東延長線上にはＤＡ第30・90次調査のＳＤ01があり、これらは同一の溝と考えられる。またＳＤ03の南約3.5mには、平行する溝ＳＤ04がある。両溝の心々間の国土座標はおおよそＸ＝－148,117.86mで、南大門南北心Ｘ＝－148,117.64mとほぼ一致する。ＳＤ02はさらに発掘区北側に続き、国土座標のＸ＝－148,111mの北側辺りで西へ向かう溝ＳＤ05が分かれる。このＳＤ05以北のＳＤ02の西岸には、護岸の石列が１段分あり、長さ約1.5m分を確認した。この石列の裏込土からは、９世紀中頃の



遺構平面図　1/300